

葵

57号 令和5年度



静岡県立中央図書館報

目 次

巻頭言	静岡県立中央図書館長 柴 雅房	1
I 当館の概要（令和5年度）		2
1 沿 革	2 令和5年度基本方針・事業体系	3 組織図
4 職 員	5 予 算	6 資 料 (1)収集基本方針 (2)資料概要
II 事業報告（令和4年度）		12
1 静岡県の図書館をめぐるこの1年（令和4年度）		13
(1)図書館をめぐる社会情勢と本県の動き	(2)静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組	
(3)県内市町の新図書館設置の動き	(4)県内図書館その他の動き	
(5)静岡県の新型コロナウイルス感染症の影響	(6)静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催	
2 利用状況統計		20
(1)県立中央図書館利用状況	(2)協力貸出	(3)レファレンス
(4)静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況	(5)歴史文化情報センター利用状況	(6)電子図書館利用状況
3 図書館資料充実状況		23
(1)図書資料	(2)視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等	
(3)逐次刊行物（新聞・雑誌）	(4)電子書籍	
4 図書班		26
(1)図書資料の充実	(2)視聴覚資料の充実	(3)図書館利用状況
(4)予約・リクエスト・相互貸借（含協力貸出）	(5)子ども図書研究室	
(6)子どもコーナー「どんぐりひろば」	(7)静岡県視聴覚ライブラリー	(8)展示他
5 新聞雑誌班		34
(1)逐次刊行物（新聞・雑誌）の充実	(2)提供情報の充実	(3)その他
6 一般調査班		36
(1)レファレンスサービス	(2)市町立図書館などへの支援	
(3)特別取扱資料等の保存と公開	(4)障害者サービス	(5)その他の関連事業
7 地域調査班		42
(1)地域資料の充実	(2)提供情報の充実	(3)資料展示
(4)市町立図書館への支援	(5)地域資料のデジタル化	(6)歴史文化情報センター
8 企画班		45
(1)図書館職員研修	(2)利用者からの意見	(3)イベント等
(4)図書館サポーター	(5)職場体験学習等	(6)図書館広報
(7)ムセイオン静岡	(8)浙江図書館との友好提携	(9)山梨県立図書館との連携協定
(10)市町立図書館等受取サービス	(11)図書館 DX	
付属資料 令和4年度「静岡県立中央図書館アンケート」集計結果		
9 振興班		58
(1)市町立図書館振興	(2)関係団体との連携	(3)協力車事業
(4)令和4年度 静岡県図書館大会	(5)表彰（敬称略・関係団体の表彰も含む）	
10 総務班		63
(1)図書館協議会	(2)施設設備の維持管理	(3)施設利用状況
11 健康医療情報サービス		65
(1)サービス内容	(2)関連事業	
12 歴史文化情報センター（地域調査班）		66
(1)県史編さん資料の保存・整理・公開	(2)利用状況	
13 資料紹介 近年整理完了の布達資料について		67
14 新静岡県立中央図書館の整備状況について（図書館雑誌 2023. 5. から抜粋）		71
III 施設及びサービス案内（令和5年度）		73
1 図書館配置図	2 施設の概要	3 ブラウジング・閲覧室案内図
4 利用案内（令和5年度）		
表紙	『上村翁旧蔵浮世絵集（52）』 奥付	

新たな課題を見据えて

静岡県立中央図書館長 柴 雅房

コロナ拡大期の休館措置や行動制限を経て、令和4年度はコロナウイルス予防に配慮しつつ、図書館サービスの回復を模索した1年であった。静岡県図書館大会の3年ぶりの対面形式(一部オンライン形式)やオンラインを併用した各種研修の実施等はその成果である。

この原稿を執筆している令和5年4月末現在、嬉しいことにコロナに対する規制撤廃は目前に迫っている。しかしながら、たとえ規制が撤廃されても、今後の図書館経営は、これまでコロナが社会に与えてきた影響から逃れることはできない。その点も含め、当館を含めた図書館界全体が直面する二つの大きな課題「デジタル媒体の浸透」と「図書館の在り方の見直し」について考察してみたい。

現在、県内では書店の撤退が相次いでいる。その要因は電子書籍等のデジタル媒体の浸透による書籍や雑誌の発行部数の減少と言われている。こうした動きはコロナ以前からあったものの、コロナによって加速された面がある。デジタル媒体の浸透は当然図書館にも大きな影響を与えている。

当館はこれに対して、図書館DXの諸事業の中で様々な対応を行ってきた。具体的には当館資料のデジタルアーカイブ化、電子図書館の充実、全国に先駆けたクロージングシステムによる地域資料の収集等である。電子図書館については学校現場における「1人1台パソコンによる朝読書」等を通じて利用拡大を図ってきた。今後も引き続き、「情報拠点としての図書館」を掲げ、デジタル媒体への積極的な対応を進めていきたい。

もう一つの課題は、図書館の在り方が社会の中で見直されている点である。図書館はこれまで本を借りるところ、本を読むところ、といったパーソナルな空間とのイメージがあった。しかし、近年図書館に対し「賑わい」「居場所」、さらには「文化の創造・発信」「交流」の拠点としての機能が期待されるようになった。これは図書館の持つ集客力とともに、公共施設の一つとして、そのあるべき姿を考えた結果ともいえる。そこには当然これまで図書館を利用しなかった人も視野に入っている。

当館ではこれに対して、県の各部局や市町、民間団体と積極的に協働し、様々な展示やイベントを開催してきた。当然新館構想にもこうした考え方が反映されている。今後も新館に向け、「文化の創造・発信」「交流」の拠点としての具体的なノウハウを蓄積していく必要がある。

以上、こうした図書館をめぐる課題に対し、全職員がアンテナを高く保ち、新館構想を見据えながら、新たな時代の図書館像を模索していきたい。

I 当館の概要（令和5年度）

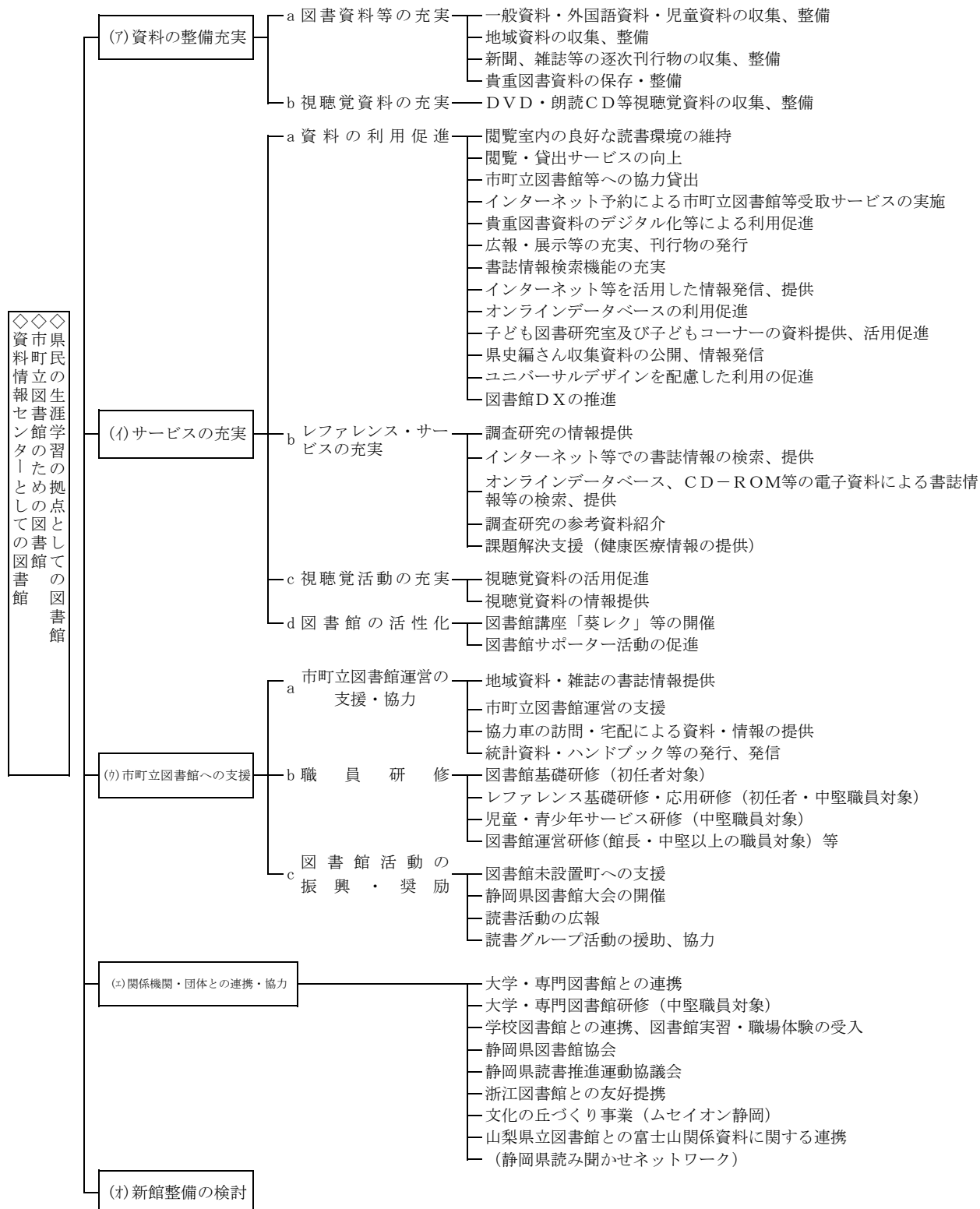
1 沿革

大正10年11月17日	徳川家の記念事業として渋沢栄一氏等の寄附を得て、静岡県立図書館設立を県会に提案議決。 設立費17万円
大正13年10月	竣工
大正13年10月30日	貞松修蔵初代館長就任。開館準備事務を開始
大正14年4月1日	「静岡県立葵文庫」開館（蔵書約22,000冊、職員16名）
昭和3年11月3日	徳川頼貞氏、駿河版『群書治要』47冊を寄贈
昭和4年6月	山梨稲川百年祭記念事業として、『山梨稲川集』全4冊を刊行
昭和5年5月28日	昭和天皇陛下本県御巡幸第1日、静岡県立葵文庫に行幸、稀観書等を天覧
昭和8年9月	改正図書館令により、葵文庫が本県中央図書館に指定
昭和8年11月1日	10周年記念式典を挙行
昭和12年8月30日	ショメールの百科全書を邦訳した『厚生新編』を復刻頒布
昭和20年6月20日	戦災により、講堂及び付属木造箇所を焼失
昭和25年12月	「静岡県視聴覚ライブラリー」を静岡県立葵文庫内に設置
昭和28年4月1日	「日米文化センター」が静岡県立葵文庫に併置
昭和31年11月1日	図書館法に基づき、「静岡県立中央図書館葵文庫」と名称変更
昭和33年9月	課制を導入し、庶務課、整理課、奉仕課を設置
昭和36年4月	自動車文庫「あおい号」誕生、「茶の間のひととき読書」運動開始
昭和38年9月	文化センター建設準備委員会を設置し、基本計画の策定を開始
昭和42年4月	「日米文化センター」を静岡県日米協会に移管
昭和42年12月26日	文化センター基本計画に基づき、新図書館建築着工
昭和44年3月18日	新図書館完工
昭和44年6月30日	静岡県立中央図書館葵文庫を閉館、新館移転作業を開始
昭和44年7月12日	「静岡県文化センター設置条例」が制定され、「静岡県立中央図書館」と名称変更
昭和44年8月1日	新館に移転を完了、開館準備事務を開始 「静岡県文化センターの組織及び運営に関する規則（以下「組織運営規則」という）」が制定 され、庶務課、資料課、整理課、事業課の4課を設置
昭和45年3月20日	「静岡県立中央図書館協議会条例」及び「静岡県文化センター使用料条例」を制定
昭和45年4月18日	県文化センター開所、静岡県立中央図書館開館式を挙行。20日から一般公開
昭和49年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、各課に2係制を導入
昭和50年11月10日	50周年を記念して『50年のあゆみ』を刊行
昭和60年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、庶務課を総務課に改正及び「静岡県視聴覚ライブラリー」設置を制定
昭和60年11月6日	静岡県立中央図書館協議会から「今後の県立中央図書館の在り方」について答申
昭和62年4月	静岡県公共図書館振興対策事業の実施（5か年計画）
昭和63年3月1日	「図書館利用規程」を改正し、市町村立図書館等への協力貸出を充実
昭和63年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、事業課を振興課に、普及係を協力係に変更
平成元年4月20日	静岡県立中央図書館協力車の運行開始
平成6年3月29日	電算システムによる業務を開始 電算導入に伴い、図書館等利用規程を改正
平成6年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、総務課、企画振興課、資料課、調査課の4課に変更
平成10年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、資料課地域資料係を調査課地域調査係に、調査課逐次刊 行物係を資料課新聞雑誌係に、調査課調査相談係を一般調査係に変更 閉館時間を、毎金曜日に限って午後8時まで延長 Webサイトの開設（蔵書検索、貴重書、浮世絵、絵図等） グランシップ情報ラウンジ・県立図書館コーナーを開設
平成10年10月1日	歴史文化情報センターを、静岡県教育委員会文化課から静岡県立中央図書館に移管
平成11年3月13日	閉館時間を、毎水曜日、木曜日、金曜日について午後7時までに変更
平成11年4月1日	「デジタル葵文庫」インターネット提供開始
平成12年4月1日	
平成12年6月1日	
平成14年1月1日	資料棟地震対策緊急整備工事・特別整理のため、静岡県立中央図書館休館
平成14年2月18日	資料棟地震対策緊急整備工事着工。休館中の県民サービスとして、県女性総合センター「あざ

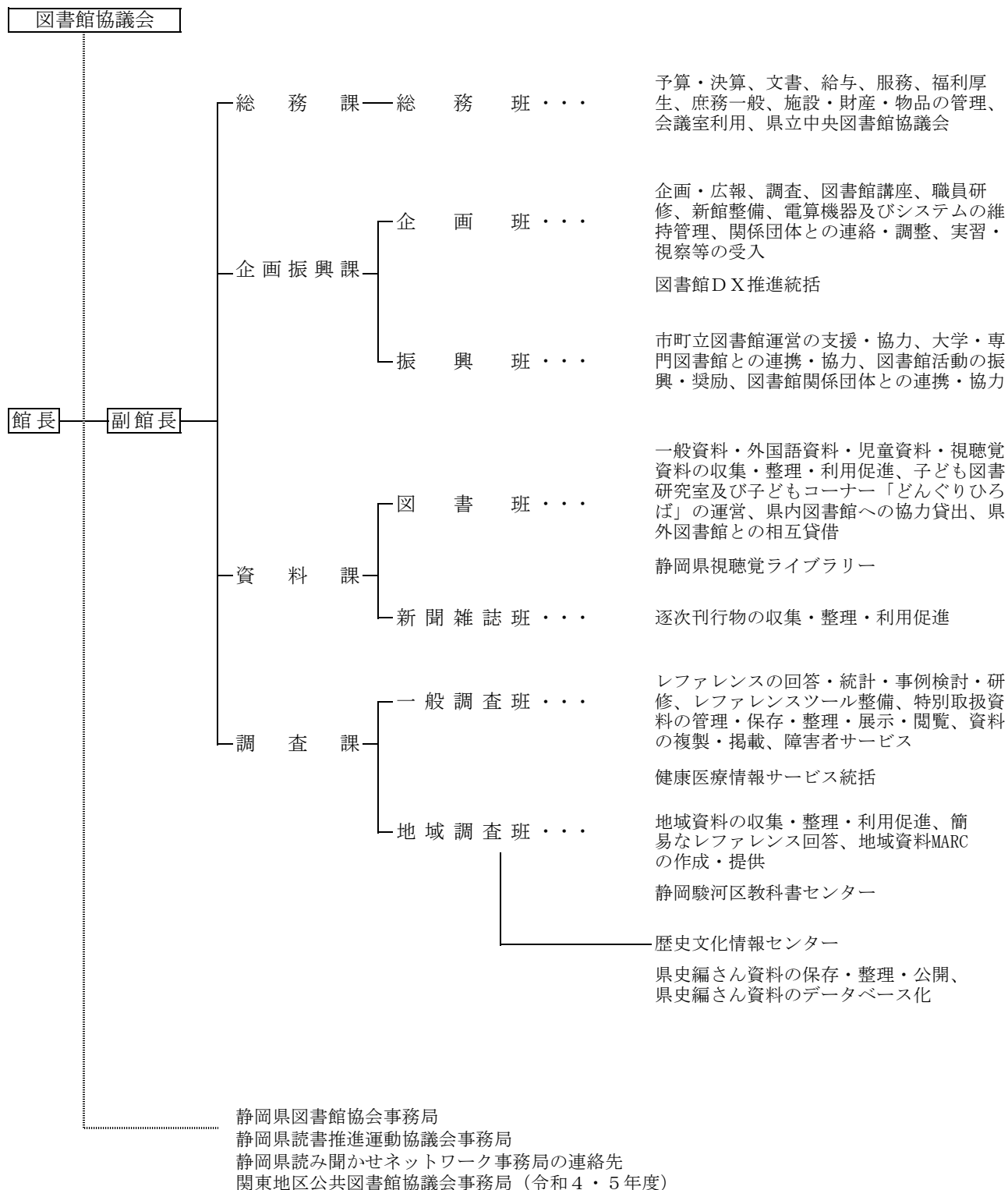
	れあ」県立図書館コーナーを開設
平成14年 5月31日	地震対策緊急整備工事完成
平成14年 6月13日	県女性総合センター「あざれあ」県立図書館コーナーを閉館
平成14年 8月 1日	静岡県立中央図書館業務を再開（地震対策緊急整備工事・特別整理終了） 葵文庫、久能文庫、特別取扱資料の一部を静岡県総合教育センター内「あすなろ県立図書館収蔵庫」に移動。10月12日から同センター「図書館コーナー」で閲覧開始
平成15年 4月 1日	グランシップ内で情報ラウンジ・県立図書館コーナーが移転、グランシップ県立図書館コーナーとして再開
平成15年 7月 2日	ビジネスコーナーを設置
平成15年11月27日	平成15年度第89回全国図書館大会静岡大会開催（～28日） 大会テーマ「創めよう！図書館の世紀～知・人・夢づくり～」
平成16年 3月18日	新電算システムに移行し、「横断検索」等を開始（第3期システム稼働）
平成16年 6月18日	子ども図書研究室を開設
平成17年 4月 1日	創立80周年記念事業を年間にわたり展開
平成17年 9月 1日	『「しずおか」の貴重書』刊行
平成19年 9月18日	浙江図書館職員を静岡県海外技術研修員として受入れ（～平成20年 2月22日）
平成19年10月26日	「静岡県立中央図書館と浙江図書館に関する姉妹図書館締結の意向書」を浙江図書館にて調印
平成21年 2月24日	「静岡県立中央図書館と浙江図書館との友好提携書」を当館にて締結
平成21年 3月11日	静岡県立中央図書館、静岡県立美術館、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所及び静岡県公立大学法人静岡県立大学と4機関による「文化の丘づくり事業推進に関する協定」を締結。21年度には2機関の参加により6機関で「ムセイオン静岡」として事業推進
平成21年 7月 1日	インフォメーション棟耐震補強工事着工。3か月間工事のための休館（～9月30日）。その後、工事及び工事に伴う関係作業のため一部開館（10月 1日～平成22年 3月30日）
平成21年 9月25日	葵文庫、久能文庫、特別取扱資料の一部を静岡県総合教育センター内「あすなろ県立図書館収蔵庫」より当館に移動
平成21年10月 2日	『「しずおか」の貴重書（改訂版）』刊行
平成21年10月15日	『関口隆吉関係書簡集』発行
平成22年 2月25日	インフォメーション棟耐震補強工事完成
平成22年 5月 1日	図書館電算システムの更新及び当館Webサイトの全面リニューアル（第4期システム稼働） 静岡県関係資料及び雑誌の名称を、郷土資料、郷土雑誌から、それぞれ地域資料、地域雑誌に変更。
平成22年 3月31日	耐震補強工事関連作業及びシステム更新作業のため休館（～5月31日）
平成22年 6月 1日	耐震補強工事及び関連作業と電算システム更新作業をすべて終え、リニューアルオープン。 また、携帯電話からレファレンスの申込及び事例検索が可能に。 葵文庫、久能文庫等の貴重書が、事前申込みにより本館で随時閲覧可能に。
平成22年 6月	「国民読書年」関連イベントを実施（～12月）
平成22年 9月 1日	「葵文庫」所蔵資料の約半数の全文が、インターネットから閲覧可能に。
平成23年 1月 8日	貴重書常設展示コーナー設置
平成23年 2月 1日	国立国会図書館デジタルアーカイブポータル（PORTA）と連携し、当館デジタルライブラリーが、PORTAから検索可能に。
平成23年 5月	電子書籍関連プロジェクト実施（～11月）
平成23年 7月 9日	健康医療情報コーナーを新設・記念イベント開催
平成23年11月29日	平成23年度関東・甲信越静岡県図書館地区別研修開催（～12月 2日）
平成24年 1月26日	「葵文庫」所蔵資料のインターネットの全文閲覧を1,102冊（204タイトル）追加
平成24年 2月 1日	閲覧室等空調設備工事、資料棟屋上防水工事、防火設備等改修工事非常用照明設備工事、分電盤改修工事等大規模改修工事及び特別整理のため、休館（3月15日まで）
平成24年 3月16日	閲覧室等空調設備工事等大規模改修工事完了、国立国会図書館歴史的音源サービスの提供開始
平成24年 4月 1日	子ども図書研究室の一部複本資料の個人貸出を開始
平成24年 6月	図書館講座「葵レク」開始
平成24年 6月20日	おうだんくんサーチバージョンアップ
平成24年 7月	「大人の読書」推進 大切な人に贈る1冊「県民メッセージコンテスト・ふじのくにBookダ

	ービー」開催（～９月）
平成24年 7 月 7 日	静岡県埋蔵文化財センター常設展示開始
平成25年 3 月28日	「葵文庫」所蔵資料の全ページ電子化・公開
平成25年 4 月	歴史文化情報センター「授業の種」公開
平成26年 2 月	富士山関係資料デジタルライブラリー公開
平成26年 7 月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの館内での利用を開始
平成27年 4 月 1 日	創立90周年記念事業を年間にわたり展開
平成27年 6 月 2 日	山梨県立図書館と「富士山関係資料に関する連携協定」を締結
平成27年 8 月	静岡県に関する行政資料の電子データ収集・デジタルライブラリーで公開
平成28年 2 月	閲覧室に公衆無線LAN設備導入
平成28年 4 月	祝日開館開始
平成28年 6 月	「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」本格導入
平成29年 7 月 4 日	閲覧室床にひび割れが確認されたことによる臨時休館（～7月31日）8月1日以降「閲覧室の利用」以外の業務を順次再開
平成30年 3 月	「新県立中央図書館基本構想」策定
平成30年 4 月 1 日	「静岡県文化センターの組織及び運営に関する規則」を「静岡県文化センター運営に関する規則」に改正
平成30年 5 月 7 日	旧埋蔵文化財センター建物を分掌替により所管
平成31年 2 月15日	閲覧室床ひび割れ補修工事完了
平成31年 3 月14日	閲覧室の利用を再開
平成31年 3 月	「新県立中央図書館基本計画」策定
令和元年10月11日	浙江図書館職員を静岡県海外技術研修員として受入れ（～令和2年2月25日）
令和元年10月12日	台風19号接近に伴う臨時休館
令和2年 3 月	「新県立中央図書館管理運営計画」策定
令和2年 4 月18日	新型コロナウイルス感染防止対策のため臨時休館（～5月11日） （4/18～4/27はシステム更新による休館）
令和2年 8 月	「新県立中央図書館基本計画」改訂
令和2年 9 月 7 日	グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」閉室
令和2年10月 1 日	子どもコーナー「どんぐりひろば」開設
令和2年12月 1 日	令和2年度関東・甲信越静地区図書館地区別研修会開催（～12月4日、ライブ配信）
令和3年 3 月	「新県立中央図書館整備計画」策定 「県立中央図書館司書育成指針」策定
令和3年 9 月	「新県立中央図書館整備計画」「新県立中央図書館管理運営計画」更新
令和3年10月 1 日	電子図書館サービス開始
令和4年 3 月	「県立中央図書館司書育成指針」改訂
令和4年 9 月	「新県立中央図書館システム基本構想」策定

2 令和5年度基本方針・事業体系



3 組 織 図



4 職 員

館 長 柴 雅 房										
副 館 長 山内 小百合										
総務課	総 務 課 長 (兼) 山内 小百合 (副館長)									
	総務班	総 務 班 長 遠藤 一穂								
		主 査 真野 聡								
		主 査 井出 幸大								
		主 事 石黒 愛梨								
		主 任 松村 裕理								
企画振興課	企 画 振 興 課 長 田 辺 章									
	企画班	企 画 班 長 青木 修				振興班	振 興 班 長 青山 滋乃			
		主 査 佐野 加代子					主 査 宮原 織絵			
		主 査 杉山 みつ江					主 任 殿岡 容子			
		主 事 花村 拓海								
資料課	資 料 課 長 木 村 知 美									
	図書班	図 書 班 長 三枝 春奈				新聞雑誌班	新 聞 雑 誌 班 長 田中 理一			
		主 任 山下 紗織					主 査 竹本 千春			
		主 任 眞子 みな					主 査 安田 宏美			
		主 事 上村 まりを								
		技 能 員 加藤 桂子								
調査課	調 査 課 長 兼 一 般 調 査 班 長 鈴 木 由 美									
	一般調査班	主 査 児玉 匡史				地域調査班	地 域 調 査 班 長 八木 麻美			
		教 育 主 査 西澤 健太					教 育 主 査 山本 加奈恵			
		教 育 主 査 土屋 祐加					主 任 前林 真美			
		主 任 原島 勇太					主 事 山中 菜緒			
							(歴史文化情報センター)			
							教 育 主 幹 望月 克洋			
							主 任 飯塚 晴夫			
							主 任 大林 元			

5 予 算

(単位：千円)

事 業 名	R 5 予算額	説 明(図書館が行う事業)
県立中央図書館管理運営費	102,790	・ 図書館の利用者サービスの充実を図るための経費 ・ 県立中央図書館の利用者に快適な読書環境を提供するための、施設等維持管理に要する経費 (歴史文化情報センター移転費用8,766千円を含む)
県立中央図書館資料充実費	86,900	・ 図書及び逐次刊行物の購入・製本・補修等、資料整備充実に関する経費 (電子書籍380千円含む)
合 計	189,690	

6 資 料

(1) 収集基本方針

ア 一般資料

県立図書館の蔵書構成の基本となる一般図書の収集については、調査研究用の参考図書類を中心に全分野にわたり幅広く収集する。

イ 児童資料

中学生までを対象とした児童図書を全点（コミック、ゲーム攻略本、学習参考書を除く）収集する。特に選定された児童図書は、さらに複数部収集する。なお、15歳から18歳未満対象（YA）の図書についても選書及び収集に配慮する。

ウ 地域資料

県立図書館としての基本的役割である県全域の地域資料の収集については、地域の文化遺産としての歴史的資料、現在の地域社会理解のための参考資料の収集強化を図る。また、地域資料の中核となる静岡県関係の歴史、地誌、人物、民俗、文学等の一般資料や県及び各市町が刊行する地方行政資料を積極的に収集する。

エ 逐次刊行物（新聞、雑誌）

学術雑誌、業界誌、官公庁広報及び一般教養雑誌など逐次刊行物の充実に努める。地域雑誌の収集にも留意する。

オ 視聴覚資料

優れた映像や音響への要求が高まる中で、文化的、教養的内容のものを収集する。その収集については、特に静岡県及び図書館に関するもの並びに資料の芸術性、記録性、効用性を考慮する。

カ 外国語資料

県民（在住外国人を含む）の国際理解や日本理解及び生涯学習を援助し、また外国語を通しての読書及び基本的な調査研究の機会を提供する目的で収集する。

キ 電子書籍

「学習」、「仕事」、「QOL(生活の質)向上」を主なテーマとし、高校生・大学生から社会人の「次の一歩」を支援する資料を収集する。

※留意事項

資料の収集に当たっては、国立国会図書館、市町立図書館及び各種関係機関との機能を考慮している。

(2) 資料概要

ア 一般資料

- ・総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、工学、産業、芸術、言語、文学など各分野の図書
- ・各分野における辞典、便覧、年鑑、目録などの参考図書
- ・行政資料

イ 児童図書

- ・絵本
- ・児童書(コミック、ゲーム攻略本、学習参考書を除く)

ウ 地域資料

- ・静岡県に関する資料
- ・静岡県出身者、在住者の著作
- ・静岡県刊行物(統計書、調査報告書など)
- ・県内自治体刊行物(要覧、統計書、例規集など)

エ 逐次刊行物(新聞・雑誌)

- ・一般紙(誌)、学会誌などの専門誌、研究機関や大学の紀要類、会社や研究所の研究技報類
- ・静岡県内発行の新聞・雑誌・広報
- ・静岡県公報、県議会議事録

オ 視聴覚資料(県視聴覚ライブラリー資料を含む)

- ・DVD ・朗読CD ・ビデオテープ ・CD-ROM ・マイクロフィルム

カ 外国語資料

- ・辞典、事典などの基本参考図書
- ・日本関連図書(日本語著作の外国語版を含む)
- ・各分野の一般図書

キ 電子書籍

- ・総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、工学、産業、芸術、言語、文学など各分野の図書
- ・各分野における辞典、便覧、年鑑、目録などの参考図書
- ・行政資料

ク 特殊コレクション等

(ア) 特殊コレクション

資 料 名	受入時期	旧所蔵／寄贈者	概 要
葵文庫	大正 13	静岡師範学校	・江戸幕府の旧蔵書で、和漢書 1,261 冊、蘭・仏・英・独などの洋書 2,325 冊の 3,586 冊からなる(『江戸幕府旧蔵書目録』(葵文庫)(昭和 45 年 4 月 18 日発行)による)。 ・明治元年府中(静岡)藩成立の時、駿府城内に設けられた学問所の蔵書となり、静岡師範学校を経て当館の所蔵となり、昭和 45 年「葵文庫」と名づけられた。
久能文庫	大正 13 昭和 4 昭和 56 昭和 59 平成 25	関口壮吉 関口隆克	・第 3 代静岡県令(初代県知事)関口隆吉収集の図書 ・文書・記録類 837 部 2,455 冊からなる。 ・図書は徳川氏関係及び軍事・外交・農業を中心とする。 ・文書は三条実美・大久保利通・伊藤博文・勝海舟・山岡鉄舟など多数の名士書簡を含む。 ・隆吉収集の図書は、その没後、久能山東照宮に保管され、当館設立の議が決定された大正 10 年に県に「

資 料 名	受入時期	旧所蔵／寄贈者	概 要
			久能文庫』として寄贈された。
上村順太郎 蒐集浮世絵	昭和 11	上村五郎	・上村順太郎が集めた江戸時代から明治までの浮世絵（錦絵）など版画類約 5,100 枚

（イ）主な本県ゆかりの貴重資料

資 料 名	受入時期	旧所蔵／寄贈者	概 要
山梨稲川遺稿類	昭和 2 昭和 9	田中光顕 戸塚 幸 米山梅吉	・山梨稲川の遺稿・書簡など 103 点からなる。
内山真龍関係文献	昭和 11	徳川家達他 7 人	・内山真龍関係の軸 6 幅と和書 2 冊 ・軸のうち遠州国学者関係書翰集 2 幅は、 学者の真龍宛書翰等 113 点を収録。
大井文庫	昭和 15	大井 博	・静岡浅間神社の神主大井家の資料約 1,600 点、神道・国学・郷土関係を中心とする。

（注）〔山梨稲川〕^{やまなしとうせん}（1771～1826） 漢学者、詩人。明和 8 年に庵原郡西方村（現静岡市清水区）に生まれる。稲川の号は 1811 年、駿府稲川村（現静岡市駿河区）に居を移したことによる。稲川の学問の特徴は「音韻論に先鞭をつけたもの」と内藤湖南は「先哲の学問」の中で評した。また門人を中心に漢詩の結社「楽山吟社」を主宰した。

〔内山真龍〕^{うちやま またつ}（1740～1821） 国学者。元文 5 年に豊田郡大谷村（現浜松市天竜区）に生まれる。1762 年賀茂真淵に入門、真龍と称す。真龍の国学史上の功績はその研究著述のほか、遠江、三河、駿河、信濃等 135 人に及ぶ門人を教育したことにより、特に遠州国学の基礎を築いたことである。

参考文献：静岡新聞社出版局編．静岡県歴史人物事典．静岡新聞社，1991．

Ⅱ 事業報告（令和４年度）

1 静岡県の図書館をめぐるこの1年（令和4年度）

(1) 図書館をめぐる社会情勢と本県の動き

ア 公立図書館の現状

令和4年4月1日現在、全国の自治体数1,788に対する図書館設置自治体数は、令和3年度から町村で2増加して1,394、設置率は78.0%である。図書館数は、令和3年度から都道府県立で1増加、市区立で8減少、町村立で2減少して3,287である。全体的には令和元年度から増減はないが、市区立は8減少となっている。昭和25年の図書館法制定から72年が経過しているが、設置率は、市区立の99.0%に比べて、町村立は58.3%と低い状況にある。また、一般財団法人地方自治研究機構は、令和4年9月22日に、図書館法第10条や地方自治法第244条の2第1項の規定に基づき制定される図書館の設置等に関する条例の動きを更新している。

(http://www.rilg.or.jp/htdocs/img/reiki/095_library.htm)

指定管理者制度を巡る現状は、「図書館における指定管理者制度の導入等の調査について2021（報告）」（日本図書館協会図書館政策企画委員会）によると、令和2年度までに導入または令和3年度に導入予定の館は、都道府県立図書館では施設管理のみの指定管理者も含め7府県8館、市区町村立図書館では273自治体639館となっており、令和4年度以降に導入を予定しているのは31自治体であった。県内の市町立図書館は、昨年度からの変化はなかった。

イ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

令和4年4月8日に新型コロナウイルス感染症対策分科会から緊急メッセージが出され、「急激な感染拡大を防止し、教育を含む社会経済活動を継続できるよう」方向性が示されている。5月23日には新型コロナウイルス感染症対策本部決定「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」（以下「対処方針」という。）が変更され、それに基づき、6月22日に、公益社団法人日本図書館協会（以下「日図協」という。）は、令和2年5月に策定した「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）を更新した。そこでは、感染減少期における制限緩和の検討が盛り込まれた。

その後、令和4年9月8日の新型コロナウイルス感染症対策本部決定「With コロナに向けた政策の考え方」では、「新たな行動制限を行わず」、「感染拡大防止と社会経済活動の両立を図る方針」が示された。これを受けて12月1日に、日図協はガイドラインを更新した。その主な内容は、図書館は基本的な対策（会話が生じる場面でのマスク着用、換気の徹底、手指消毒等）を行っていれば、それ以外の対策は過剰にならないよう見直す必要があるとするものだった。

さらに、令和5年2月10日の新型コロナウイルス感染症対策本部決定「マスク着用の見直し等について」及び対処方針の変更により、3月1日にガイドラインの更新が行われた。その主な内容は、マスクの着用は個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることを基本とするもので、3月13日から適用するとされた。また、新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが変更された場合、それ以降はガイドラインを廃止することも明記された。

コロナ禍で非接触・非対面、来館不要の電子図書館サービスは全国的にさらに導入が進んでいる。一般社団法人電子出版制作・流通協議会の調査によると、公共図書館の電子図書館サービス（電子書籍サービス）導入自治体は、令和4年1月時点では272自治体（15.2%）であったが、令和5年1月時点では461自治体（25.8%）へ大きく増加している。県内では令和4年度に3市が導入し、県を含む9自治体（25.0%）が導入済みである。

図書館のデジタル化関連の具体的な例としては、ミライ on 図書館及び長崎県立長崎図書館郷土資料センター「ながさきデジタルライブラリー事業」（電子書籍サービス、スマホアプリサービス、郷土資料デジタルアーカイブ）、鹿児島市立天文館図書館「S H E L F E Y E」（AIによる蔵書点検、セルフ貸出システム）、加賀市立図書館のデジタル図書館と視覚障害者専用デジタル図書館「アクセシブルライブラリー」の同時オープン、岸和田市立図書館の「地域資料デジタ

ルライブラリー」開設、7月16日に移転開館した石川県立図書館「SHOSHOKU I SHIKAWA」（資料総合検索システム）などが挙げられる。

ウ 読書バリアフリー法

令和元年6月28日に公布された「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）第8条第1項には、地方公共団体は「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画を定めるよう努めなければならない。」とあり、計画の策定に当たっては、令和2年12月に文部科学省から「視覚障害者等の読書環境の整備の推進における留意事項について」の事務連絡が発出されている。文部科学省による令和4年2月1日時点の調査では、都道府県のうち、計画の策定済みが6、策定作業中が8、検討中が22、予定なし（未定含む）が11となっている。計画の位置づけとしては、策定済み、作業中、検討中のうち単独の計画が13、障害者政策の計画の一部に位置づけが7、その他の計画の一部に位置づけが5、未定が11となっている。

エ 著作権法改正

デジタル化・ネットワーク化への対応とともに、コロナ禍により、国立国会図書館や公共図書館、大学図書館等に来館せずに利用できるデジタル化資料へのニーズが、研究者・学生等の個人から高まった。これを受け、図書館等が著作物の公衆送信等を行うことができるよう「著作権法の一部を改正する法律」が令和3年5月26日参議院で可決・成立し、6月2日に公布された。

「国立国会図書館による絶版等資料のインターネット送信」は公布日から1年を超えない範囲内で政令で定める日（令和4年5月1日）から、「各図書館等による図書館資料のメール送信等」は公布日から2年を超えない範囲内で政令で定める日（令和5年6月1日）から、それぞれ施行されることとなった。

法改正を受けて、国立国会図書館は、令和4年5月19日からデジタル化した資料のうち絶版等資料をインターネット経由で個人に送信する「個人向けデジタル化資料送信サービス（略称：個人送信）」を開始した。サービス開始当初は閲覧のみだったが、令和5年1月18日から印刷機能の提供が開始された。サービスの利用は「登録利用者（本登録）」で日本国内に居住している者が対象となり、「簡易登録利用者（旧インターネット限定登録利用者）」及び居住地が日本国外の者は対象外となる。

また、各図書館等による図書館資料の公衆送信については、一般社団法人図書館等公衆送信補償金管理協会において、各図書館等が権利者に補償金を支払い、調査研究のため著作物の一部分を利用者に送信できる制度設計を進め、令和5年3月29日に文化庁から補償金規程が認可された。

オ 出版界等の動き

公益社団法人全国出版協会・出版科学研究所は、令和5年1月25日発売の『出版月報』1月号で2022年の出版市場規模を発表。紙と電子を合算した出版市場（推定販売金額）は、前年比2.6%減の1兆6,305億円で、原因としてコロナ特需が終息したこと、物価高による買い控えの発生を指摘した。

紙の出版物は前年比6.5%減の1兆1,292億円であった。電子出版は前年比7.5%増の5,013億円であったが、平成26年の統計開始以来、前年比20%前後であった伸び幅が初めて一桁台に大きく縮小した。



カ 図書館 DX

当館では令和3年度に図書館DX実証実験として貸出カードのスマホ表示、利用者登録等Web申込、電子図書館の導入を行い、継続して運用している（詳細については『静岡県立中央図書館Webサービス拡充事業の事業報告及びその課題：図書館DX実証実験を中心に』（専門図書館, No. 307, p26-31）を参照）。利用者登録等Web申込については、県内の高等学校・特別支援学校にクラス単位・学校単位での申込募集を行い、3校から申込があった。電子図書館の朝読書等での活用が期待される。

併せて、インターネット上に公開されている静岡県内自治体の行政資料PDFを自動で収集するクローラのシステム開発を行い、令和4年度末時点で512,862件のファイルを収集した。今後は、その活用方法等について引き続き検討を進めていく。

また、非来館者サービスとして実施している市町立図書館等受取サービスでは、令和4年5月に裾野市、袋井市、松崎町を追加し、受取館は18館となった。

キ 子ども読書活動推進計画

静岡県では、『「本とともにだち」プラン（静岡県子ども読書活動推進計画－第三次計画－）』に基づき、子どもの読書活動を推進するための取組を行っている。第三次計画（平成30年度から令和9年度まで）の策定から4年が経過したことから、これまでの取組を踏まえたうえで、社会の変化に対応した計画の見直しを行い、令和4年1月19日から2月9日までパブリックコメントを実施し、3月に『「本とともにだち」プラン（第三次静岡県子ども読書活動推進計画－後期計画－）』を策定した。施策の方向性としては現計画を基本とし、具体的な取組に関する記載を加えるなど、見直しを行っている。

(2) 静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組

令和3年度から県教育委員会社会教育課内に新図書館整備室が設置され、運営企画班と施設整備班の2班体制で新図書館の整備を進めることになった。

令和3年度は、建築設計業務に着手するため、広くアイデアと人材を求めつつ、コストと性能の確実性を担保した改良版公募型プロポーザル方式を実施し、「C+A*・アイダアトリエ・日建設計（エンジニアリング）設計企業体」を建築設計者として特定し、令和4年3月30日に設計業務委託契約を締結した。

令和4年度は、プロポーザルで提案された内容を元に、県立中央図書館ならではの視点を共有しながら、次のような設計方針で基本設計を進めた。

- ① 資料体を中心にスパイラルアップする連続的な平面構成
- ② 低層階から上層階へ、ゆるやかにつながるグラデーションなゾーニング
- ③ 吹き抜けによりセキュリティと構造（免震）クリアランスを確保する合理的な計画
- ④ 高層階へのわかりやすい利用者動線と物流動線
- ⑤ グランシップ前広場を立体的に連続させアクティビティを誘発する外部空間



基本設計では上記の設計方針を基に、平面図や模型を活用しながら、新図書館整備室や建築設計者とワークショップを重ね、現図書館の課題や新館に対する意見を集約し、利用者だけでなく、職員にとっても使いやすい図書館を目指した。

一方、脱炭素化社会の実現に向け木材利用促進法が改正されたことにより、民間を含む一般建築

物への木材利用の促進が求められたことから、さらなる木材を活用する方針となった。活用方針は、木材を大いに活用することにより、居心地の良い落ち着いた空間を目指し、県民に対して、木材の良さ、見た目の美しさを感じられる活用として、木使い推進プランの目標数量（約200m³）に加え、さらに300m³の木材を活用し、合わせて500m³程度使用することとした。その検討に伴い、設計業務期間を1年延長し、開館予定時期を令和9年度前半から同年度後半に見直した。

また、令和3年度に行った建築設計業務に係る改良版公募型プロポーザルに至った経緯や審査プロセス、提案書等を掲載した記録誌を作成し、令和5年3月付けで発行した。記録誌の内容については、静岡県教育委員会のホームページで公開されている。

※C+A：シーラカンズアンドアソシエイツ

(3) 県内市町の新図書館設置の動き

ア 市町立図書館数の推移（各年度4月1日現在）

年 度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
市立図書館（本館）	23	23	23	23	23
同（分館）	59	59	59	59	59
町立図書館	11	11	11	11	11
合 計	93	93	93	93	93

※静岡県図書館協会加盟館数は、県立1、市町立94、町立図書室1、大学・専門30、合計126館（分館を含む。）

イ 新図書館設置の動き

伊東市教育委員会が令和4年1月に「伊東市新図書館基本計画」を策定し、3月に伊東市新図書館基本設計の概要を公表した。開館は令和6年度中の予定である。

御殿場市教育委員会は、郷土資料館との複合施設となる新図書館について、公募型プロポーザルを実施し、令和4年1月20日に久米・蒼設計共同企業体と基本計画及び基本・実施設計業務委託契約を締結した。また、市民ワークショップを3回、小学生ワークショップを2回開催し、11月に「御殿場市立図書館等整備基本計画」を策定した。開館は令和8年度の予定である。

(4) 県内図書館その他の動き

ア 改修工事、周年記念イベント等

浜松市立中央図書館は、令和3年5月24日から行っていた大規模改修工事を終え、令和4年8月6日にリニューアルオープンした。天竜材を天井一面や書棚の側面に使用し、ユニバーサルデザインの発想も積極的に取り入れた施設となった。座席予約システムを新たに導入し、医療・健康情報コーナーが新設された。

静岡市立南部図書館は、7月に開館30周年を迎え、地元ゆるキャラの図書館訪問や新キャラクターとのフォトスポット設置等の記念イベントを開催した。磐田市立福田図書館は、7月に開館20周年を迎え、同月に記念イベントを、10月に記念コンサートを開催した。袋井市立袋井図書館は、8月9日から31日まで凸版印刷株式会社の絵本紹介システムの実証実験を実施した。藤枝市立駅南図書館は、9月14日に来館者500万人を達成した。島田市立島田図書館は、9月22日に移転開館10周年を迎え、抽選で350人に記念エコバッグをプレゼントした。焼津市立大井川図書館は10月9日に開館30周年記念式典を、同市立焼津図書館は10月29日に開館100周年記念式典を、それぞれ開催した。磐田市立中央図書館は、10月29日に来館者700万人を達成した。東伊豆町立図書館は、令和5年2月26日に開館30周年記念イベントを開催した。

イ 台風15号による被害対応

9月23日夜から24日朝にかけて最接近した台風15号は、静岡市の大規模断水など県内図書館にも大きな被害をもたらした。県立中央図書館は9月27日に「令和4年9月大雨災害情報リンク集」

をウェブサイト公開し、災害対応に役立つ各種情報を提供した。

静岡市立南部図書館は、地階への浸水被害により9月24日から29日まで清掃と除菌のため、同市立清水中央図書館及び清水興津図書館は26日まで断水のため、臨時休館した。南部図書館では、汚損の激しい被災資料約2万冊が廃棄処分となった。浸水による電動書庫の故障により地下書庫資料が利用できなくなり、市議会11月定例会において図書館施設災害復旧事業費3,700万円が可決成立し、3月末現在取替修繕工事中である。

(5) 静岡県の新型コロナウイルス感染症の影響

ア 県内図書館の状況

令和4年7月のオミクロン株（BA.5）の流行による感染の第7波では、それまでを上回る規模で感染が拡大したが、まん延防止等重点措置の適用は行われなかったことから、イベントの中止や延期などの対応を行った館は少なく、9月には県内全館で来館者記録の収集を終了した。その後、流行期においても感染対策を行った上での開館が定着しているほか、貸出点数の上限増や貸出期間の延長等の特例的なサービスもほとんどの館で終了した一方、ほとんどの大学図書館は感染症対策のため学外者の利用休止を継続している。県図書館協会は、加盟館（室）の各時期におけるサービス状況をまとめた会報を令和4年3月に発行した。その後の状況については、「静岡県図書館協会報No.81」（静岡県図書館協会 令和5年2月発行）を参照してほしい。また、県立中央図書館は、令和2年2月から市町立図書館（室）のコロナ対策を継続調査していたが、令和4年夏頃から対応策の変化が少なくなったため、10月をもって毎月の調査を終了した。

令和4年12月中旬から令和5年2月にかけて、感染者数が増加し、医療ひっ迫警報が出されるなどしたが、その後、感染者数は減少し、3月初めに国評価レベルは1まで下がり、3月13日からはマスクの着用が緩和され、個人の判断に委ねられることとなった。これにより、各図書館でのマスクの着用について、利用者については個人の判断に委ね、職員については窓口業務中は着用し、それ以外の時は個人の判断とするなど、対応の変更を行うこととなった。

イ 新型コロナウイルス感染症への当館の対応

新型コロナウイルス感染症の状況			当館の対応	
	期 間	項 目	期 間	内 容 等
令和4年	1/11 ～6/9	国評価レベル2 (警戒を強化すべきレベル)	3/23 ～6/30	休憩コーナー開放 レファレンス再開 子どもコーナーおはなしかい再開 子ども図書研究室ツアー再開
	[1/27 ～3/21]	[まん延防止等重点措置 (県内全市町)]		
	6/10 ～7/11	国評価レベル1 (維持すべきレベル)	7/1 ～7/12	閲覧席全席復旧 学習コーナー全席復旧
	7/12 ～7/28	国評価レベル2 (警戒を強化すべきレベル)	7/13 ～2/28	閲覧席座席一部制限 学習コーナー座席一部制限
	7/29 ～9/30	国評価レベル2 (警戒を強化すべきレベル) (医療ひっ迫警報)		
	[8/9 ～8/31]	[BA.5 対策強化地域(県内全 域)]		

令和5年	10/1 ～10/20	国評価レベル2 (警戒を強化すべきレベル) (医療ひっ迫 注意報)		
	10/21 ～11/10	国評価レベル2 (警戒を強化すべきレベル) (医療ひっ迫 注意報) (感染再拡大注意報)		
	11/11 ～12/15	国評価レベル2 (警戒を強化すべきレベル) (医療ひっ迫 注意報) (感染再拡大警報)		
	12/16 ～12/22	国評価レベル2 (感染拡大初期) (医療ひっ迫 注意報) (感染再拡大警報)		
	12/23 ～1/12	国評価レベル 3 (医療負荷増大期) (医療ひっ迫 警報) (感染再拡大警報)		
	1/13 ～2/10	国評価レベル3 (医療負荷増大期) (医療ひっ迫防止対策強化宣言) (感染再拡大警報)		
	2/11 ～2/16	国評価レベル3 (医療負荷増大期) (医療ひっ迫警報)		
	2/17 ～3/2	国評価レベル2 (感染拡大初期) (医療ひっ迫 注意報)	3/1～	閲覧席全席復旧 学習コーナー全席復旧 休憩コーナー全席復旧
	3/3 ～3/12	国評価レベル1 (感染小康期)		
	3/13～	マスク着用の緩和 (着用は個人の判断に委ねる)	3/13～	マスク着用の緩和 利用者：個人の判断に委ねる 職員：窓口業務中等は着用、 それ以外は個人の判断

(6) 静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催

ア 第29回静岡県図書館大会

コロナ禍により令和2年度大会は中止、令和3年度大会はオンライン開催であったが、3年ぶりにグランシップで開催した。開催に当たっては、間隔を空けて座席を指定し、会場ごとに消毒液を準備するなど感染症対策に留意した。なお、第5分科会（大学図書館）はオンライン開催とした。集合とオンラインを合わせ、699人の参加があった。

また、2月10日から3月10日までの間、視聴申込みによりYouTube限定配信を行った（累計閲覧回数355回、第2分科会を除く、第3分科会の配信期間は2月20日から3月17日）。

イ 読書関係団体の実施事業

静岡県読み聞かせネットワークは、全体研修会に元福音館書店編集者であり児童文学者である斎藤惇夫氏を招聘し、「耳をすます～子どもと本の架け橋として～」と題して講演いただいた。

また、静岡県読書推進運動協議会は、静岡県図書館大会を共催し、理事が第2分科会「大人の読書活動」を担当した。

例年実施している夏休み子ども図書ウィークは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定員を少なくしての実施だったが、3年ぶりに5つの教室（「親子ドローン体験教室」「ユニバーサルデザイン絵本手作り教室」「折り紙遊び教室」「プログラミング教室」「親子グラフ教室」）を開催した。

2 利用状況統計

(1) 県立中央図書館利用状況

令和4年度 開館日数・入館者数・新規登録者数・貸出人数・貸出数

年・月	開館 日数	入館者数		新規 登録者数	貸出人数	貸出数			
		人数	一日平均			図書(冊)	雑誌(冊)	視聴覚(点)	合計
4・4	26	11,989	461	152	1,908	9,054	796	249	10,099
4・5	27	13,647	505	191	1,926	9,092	832	273	10,197
4・6	27	13,652	506	199	1,939	9,081	819	235	10,135
4・7	28	14,383	514	215	1,971	9,251	759	258	10,268
4・8	27	14,877	551	215	2,034	9,330	801	263	10,394
4・9	27	11,977	444	417	1,827	8,494	695	231	9,420
4・10	28	14,218	508	555	1,915	8,628	781	214	9,623
4・11	27	13,527	501	730	1,818	8,267	824	228	9,319
4・12	25	10,514	421	107	1,759	8,273	903	232	9,408
5・1	13	6,445	496	124	1,203	6,442	657	114	7,213
5・2	25	11,954	478	114	1,793	8,102	798	188	9,088
5・3	28	11,711	418	189	1,698	8,097	798	194	9,089
合計	308	148,894	483	3,208	21,791	102,111	9,463	2,679	114,253

新規登録者数のうちWeb申込登録者数	1,747
令和4年度末有効登録者数	85,108

(2) 協力貸出

(単位：点)

年・月		4 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	5 ・ 1	2	3	合計
市立 図書館	図 書	428	425	442	445	410	345	370	407	270	442	414	441	4,839
	雑 誌	56	16	27	34	35	17	25	18	18	19	28	15	308
	視 聴 覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
町立 図書館	図 書	64	63	71	62	44	42	45	62	44	56	44	49	646
	雑 誌	6	10	3	6	6	9	9	11	5	6	0	3	74
	視 聴 覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学・専門 図書館	図 書	35	43	33	37	101	29	28	35	29	19	12	9	410
	雑 誌	7	0	67	71	8	2	12	5	22	3	4	7	208
	視 聴 覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	図 書	527	531	546	544	555	416	443	504	343	517	470	499	5,895
	雑 誌	69	26	97	111	49	28	46	34	45	28	32	25	590
	視 聴 覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
総計		596	557	643	655	604	444	489	538	388	546	503	524	6,487

※町立図書館には条例未設置町の図書室を含む。

(3) レファレンス

(単位：件)

年・月		4 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	5 ・ 1	2	3	合計
書誌・文献・事実調査		235	291	258	246	222	229	321	261	196	159	282	220	2,920
(静岡県関係)		74	78	46	76	75	66	121	92	61	74	185	82	1,030
所蔵・所在調査		203	143	152	115	179	137	145	192	135	111	135	143	1,790
(静岡県関係)		46	29	20	27	51	27	34	41	28	30	37	38	408
合 計		438	434	410	361	401	366	466	453	331	270	417	363	4,710
(静岡県関係)		120	107	66	103	126	93	155	133	89	104	222	120	1,438

(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況

(単位：点)

区分 \ 年・月	4 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	5 ・ 1	2	3	合計
16mmフィルム	4	3	4	4	0	3	7	0	9	0	3	0	37
ビデオテープ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
DVD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	4	3	4	4	0	3	7	0	9	0	3	0	37

(5) 歴史文化情報センター利用状況

(単位：人、件)

年・月	4 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	5 ・ 1	2	3	合計
入室者数	22	12	8	14	24	26	9	9	15	14	14	9	176
資料利用件数	9	16	8	18	27	25	10	11	13	20	16	5	178
資料掲載等許可件数	3	4	2	2	2	2	4	3	2	1	5	4	34
レファレンス件数	12	14	15	13	16	14	10	7	13	10	10	9	143

(6) 電子図書館利用状況

(単位：件)

年・月	4 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	5 ・ 1	2	3	合計
閲覧数	508	857	679	441	763	385	452	603	613	633	1,235	854	8,023
試し読み	249	166	120	111	178	63	97	140	220	360	1,703	191	3,598
リクエスト件数	3	1	1	5	2	4	2	11	1	0	8	1	39

3 図書館資料充実状況

(1) 図書資料

(単位：冊)

分類		令和3年度末蔵書数	令和4年度中増減				令和4年度末蔵書数	
			受入数	払出数	類換数	増減数	蔵書数	比率(%)
一般資料	0 総記	62,056	1,400	20	△2	1,378	63,434	6.9
	1 哲学	33,272	624	2	0	622	33,894	3.7
	2 歴史	62,356	1,030	4	0	1,026	63,382	6.9
	3 社会科学	155,100	2,423	11	0	2,412	157,512	17.0
	4 自然科学	53,722	1,208	10	0	1,198	54,920	5.9
	5 技術	56,432	1,053	7	0	1,046	57,478	6.2
	6 産業	40,553	779	1	△1	777	41,330	4.5
	7 芸術	42,985	982	7	△3	972	43,957	4.8
	8 言語	13,476	245	0	0	245	13,721	1.5
	9 文学	62,074	820	2	0	818	62,892	6.8
	小 計	582,026	10,564	64	△6	10,494	592,520	64.1
児童資料	児童日本語(研究)	97,290	3,989	36	1	3,954	101,244	11.0
	児童日本語(貸出)	13,867	405	46	6	365	14,232	1.5
	児童外国語(研究)	1,046	41	0	△1	40	1,086	0.1
	児童外国語(貸出)	35	33	0	0	33	68	0.0
	小 計	112,238	4,468	82	6	4,392	116,630	12.6
K 旧分類資料		40,677	0	0	0	0	40,677	4.4
S 地域資料		152,342	3,281	12	0	3,269	155,611	16.8
G 外国語資料		12,056	518	0	0	518	12,574	1.4
特別集書	葵文庫	3,586	0	0	0	0	3,586	0.4
	葵文庫複製本	225	0	0	0	0	225	0.0
	久能文庫	2,455	0	0	0	0	2,455	0.3
合 計		905,605	18,831	158	0	18,673	924,278	100.0

※比率(%)の小計及び合計は、端数処理のため合わないことがある。

〈受入数の内訳〉

(単位：冊)

区分	購入	寄贈	分類換	区分換	管理換	その他	合計
一般資料	9,929	614	1	13	7	0	10,564
児童資料	4,372	74	0	0	22	0	4,468
地域資料	1,013	1,427	396	0	0	445	3,281
外国語資料	489	29	0	0	0	0	518
合計	15,803	2,144	397	13	29	445	18,831

※平成 26 年度から静岡県発行の刊行物は「分類換」とした。

※一般資料、児童資料には電子資料を含む

※地域資料のその他については p42 を参照

(2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等

(単位：点)

区 分		令和3年度末 所 蔵 数	令和4年度受入数						令和4年度末 所 蔵 数
			購入	寄贈	分類換	払出	類換	合計	
視聴覚資料		4,298	82	0	0	2	0	80	4,378
内 訳	ビデオテープ	1,819	0	0	0	0	0	0	1,819
	DVD	2,123	55	0	0	1	0	54	2,177
	朗読CD	356	27	0	0	1	0	26	382
電子資料		1,732	26	26	42	0	0	94	1,826
内 訳	一般	180	0	0	0	0	0	0	180
	児童資料	31	0	0	0	0	0	0	31
	新聞雑誌	558	26	0	12	0	0	38	596
	地域資料	652	0	26	24	0	0	50	702
	貴重書	311	0	0	6	0	0	6	317
小計		6,030	108	26	42	2	0	174	6,204
マイクロフィルム		10,673	132	0	29	0	0	161	10,834
内 訳	新聞雑誌	7,038	132	0	0	0	0	132	7,170
	貴重書・地域資料等	3,635	0	0	29	0	0	29	3,664
合計		16,703	240	26	71	2	0	335	17,038

※平成 26 年度から静岡県発行の刊行物は「分類換」とした。

※マイクロフィルム（地域資料） マイクロフィッシュ 1 点を含む。

〈除籍数の内訳〉

(単位：点)

区分	内 訳	点数	除籍理由
一般資料	所在不明資料	16	所在不明であるため
	汚破損資料	21	汚破損のため
	価値減少資料	11	加除資料の購入中止により最新の内容でないため
	複本資料	9	複本であるため
	紛失資料	7	利用者紛失のため
児童資料	所在不明資料	46	所在不明であるため
	汚破損資料	35	汚破損のため
	紛失資料	1	利用者紛失のため
地域資料	所在不明資料	4	所在不明のため
	複本資料	7	複本であるため
	汚破損資料	1	汚破損のため
視聴覚資料	汚破損資料	2	汚破損のため
合計		160	

(3) 逐次刊行物（新聞・雑誌）

(単位：タイトル)

総タイトル数			左記のうち令和4年度継続受入タイトル数								
			購入			寄贈			合計		
雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計
9,829	53	9,882	561	23	584	1,265	19	1,284	1,826	42	1,868

※内訳はp34 参照。

(4) 電子書籍

(単位：点)

分類	令和4年度末 電子書籍数
0 総記	113
1 哲学	88
2 歴史	85
3 社会科学	411
4 自然科学	188
5 技術	184
6 産業	70
7 芸術	130
8 言語	238
9 文学	24
未分類	74
合 計	1,605

4 図書班

(1) 図書資料の充実

県立図書館として必要な資料の選定は全職員で定期的に行い、速やかに発注し、受け入れた。

一般資料については、資料課・調査課・企画振興課・総務課の全職員を0類、1・2類、3類、4・5類、6・7類、8・9類の類別担当に割り振り、それぞれ選書を実施し、類別代表者による選書会議を週1回行い、発注、受入業務の効率化に努めた。令和4年度の一般資料受入冊数は10,564冊で、購入資料の平均単価は約4,614円（前年度は約4,035円）であった。受入冊数は前年度より2,072冊増加した。

児童資料については、全点購入（コミック、ゲーム攻略本及び学習参考書を除く）の継続と、子どもコーナー「どんぐりひろば」配架用の本や貸出用大型絵本などの複本を438冊受入れた。児童資料の受入冊数は4,468冊（日本語 4,394冊）で、購入資料の平均単価は、児童日本語は1,687円であった。

(2) 視聴覚資料の充実

視聴覚資料は82点を受け入れた。購入資料は、継続的に収集しているシリーズの追加や音飛び等不具合のある資料の買い直しのほか、歴史や美術関係やジェンダーや障害に関する資料や落語CDなどの資料を受け入れた。

(3) 図書館利用状況

令和4年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のための閲覧席の利用制限等があった。令和5年3月から閲覧席の利用制限を緩和した。

ア 入館者数

令和4年度の入館者数は、148,894人で、前年度と比較して6,000人の減少となった。

イ 登録者数

令和4年度の新規登録者数は3,208人であった。前年度と比較して、約1.5倍増加した。主な要因は、高等学校の学年単位やクラス単位のWEBでの利用者登録の申込みがあったことによるものである。

ウ 貸出状況

令和4年度の個人利用者への貸出点数は、p20の表のとおりである。

貸出状況は、前年度と比較して、人数では1,430人、点数では11,648点減少した。

(4) 予約・リクエスト・相互貸借（含協力貸出）

ア 予約・リクエストの状況

予約点数は19,171点（前年度20,135点）で、そのうちWeb予約は18,825点（前年度19,659点）と全体の9割以上を占めている。

令和4年度 予約・リクエスト受付数

	予 約	借 受	購 入	
			市町立	個人
図書・雑誌	18,981冊（18,639冊）	360冊	231冊	90冊
視 聴 覚	190点（186点）	0点	0点	0点
合計	19,171冊／点（18,825冊／点）	360冊	321冊／0点	

※予約の（ ）内は、Web予約の数

イ 相互貸借状況

県内市町立図書館への協力貸出は、6,487冊（前年度6,671冊）と減少した。県外図書館への貸出は、214件324冊（前年度227件346冊）と前年並み、公共機関等貸出については3件70冊（前年度1件24冊）であった。

県内外の図書館からの借受は、343件360冊（前年度308件339冊）と増加、うち国立国会図書館からの借受は5件5冊（前年度7件7冊）であった。

令和4年度 相互貸借件数／冊数

	貸 出	借 受
国 立 国 会 図 書 館	—	5件／5冊
県 外 図 書 館	214件／324冊	96件／113冊
県内市町立図書館等	(協力貸出) 6,487冊・点 図書・雑誌 6,485冊 視聴覚資料 2点	242件／242冊
県 内 公 共 機 関 等	3件／70冊	—

(5) 子ども図書研究室

当館では、平成13年度から児童書の収集を始め、平成15年度から児童書全点収集（コミック、ゲーム攻略本、学習参考書等を除く）を行っている。子ども図書研究室は、子どもの読書活動推進のために、市町立図書館や児童書研究者等へのサービス支援を目的として平成16年6月18日に開室、平成24年度にリニューアルオープンし、一部複本資料の直接貸出を開始した。

令和2年度からはグランシップ「えほんのひろば」移転に伴う、本館子どもコーナー「どんぐりひろば」開室のため、子ども図書研究室に排架していた貸出用資料を子どもコーナーに移動した。そのため平成26年から行っていた子どもへの開放は中止し、令和2年10月からの毎週日曜12時30分から16時に職員が在室し、大人への開室を行った。

令和4年度からは、土日祝日を含むすべての図書館開館日の14時から17時まで職員が在室し、開室した。

ア 収集状況

児童書蔵書数 116,630冊（令和5年3月31日現在）

イ 利用状況

密集を避けるために団体利用の人数を制限したため利用者の減少傾向は続いているが、職員が在室する開室日を増やしたことで、前年度より利用者が増加した。

年度	開室日数	入室者総数
令和3年度	308日	570人
令和4年度	308日	879人

ウ 利用内容

- ・学校関係者：大型絵本の貸出、学校図書館での資料購入のための選書等。
- ・図書館関係者：大型絵本の貸出、仕掛け絵本購入のための選書、新刊書の内容確認、見学等。
- ・その他：所蔵資料を利用した自主的な勉強、資料展示のための相談、おはなし会等で使用する資料の選書、新刊書の検討等。

※個人の利用者に対しては継続してアンケートを行い、利用動向の把握に努めている。

エ 子ども図書研究室講演会

子どもと本を結びつける活動をしている人を支援するため、学校図書館関係者、公立図書館職員、教員、ボランティア等から一般県民（中学生を除く15歳以上）までを対象とした講演会を、年1回実施している。

令和4年度は、慶應義塾大学環境情報学部教授の今井むつみ氏を講師に迎え、「言葉の発達、思考の発達を助ける絵本読みと読書」と題し、子どものことばの力を育て考える力を発達させるために大人は何をしたらよいのか、特に絵本を読むことが小学校入学以降の読解力及び問題解決力にどのように関わっているのかについて、認知科学のエビデンスをもとにご講演いただいた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、人数を制限して集合型で実施し、後日、動画配信も行った。

日 時	7月5日（火） 13:00～15:00
会 場	静岡県立中央図書館 講堂
講 師	今井むつみ 氏（慶應義塾大学環境情報学部教授）
参加人数	95人
動画配信	静岡県立中央図書館公式YouTubeチャンネル
配信期間	7月26日（火）～9月2日（金）
再生回数	466回

オ 新刊児童図書巡回展示研修会

『静岡県子ども読書活動推進計画（第三次計画）』に基づき、県内市町立図書館及び学校図書館を支援、児童資料の充実及び選書に携わる職員の資質向上を図るための研修会を実施している。当館が全点購入している新刊児童図書のうち約1,000冊を研修会場で現物展示するとともに、選書に関する研修を行い、参加者からの資料相談に応じた。

例年は県内2会場で公共図書館向けと学校図書館向けに外部講師を招き開催しているが、前年度に引き続き令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、外部講師による講座を中止し、当館職員による新刊児童図書紹介のみとした短時間の同じ内容の研修を開催した。

期 日	令和4年10月28日（金） 13:00～15:00	令和4年11月2日（水） 10:00～12:00、13:00～15:00
会 場	沼津市立図書館	県立中央図書館
講 師	資料課職員	資料課職員
参加人数	20人	39人（27人、12人）

カ 子ども図書研究室だより発行 No.102(R4.6)～No.104(R5.2)

配布先：県内市町教育委員会、県内小中高等学校、県内市町立図書館、県教育機関（三ケ日青年の家等）、図書館協議会委員、読み聞かせネットワーク役員他

キ テーマ絵本貸出

平成23年7月より「えほんのひろば」にある絵本の利用促進を目的とした、県内市町立図書館及び県内学校図書館等に対するテーマ別絵本の貸出しを実施している。1セット20冊とし、各セットの絵本は重複しないよう配慮している。イベント等での展示や貸出しなど、実際に子どもが手にとって利用することを想定したテーマ設定を行っており、具体的なテーマは「読み継がれてきた絵本」「食べもの」「お菓子」「日本の昔話」「世界の昔話」「グリム」「犬」「猫」「ねずみ」「くま」「虫」「夜」「月」「友だち」「兄弟姉妹」「誕生日」「山」「遊び」「おえかき」「音楽」「服」「字のない絵本」と現在22ある。

令和4年度の利用実績はなかった。

ク 視察・見学等

見学日	団体名	参加人数
令和4年7月12日	山梨県立図書館	3人

ケ 講師派遣事業

県内各市町立図書館及び学校図書館等における児童図書資料に関わる研修に、県立中央図書館の児童サービス担当職員を講師として派遣する事業を平成30年度から試行的に開始し、令和元年に本格実施した。
令和4年度実績 5団体 146人受講

	団体名	実施日	人数	内容
1	御前崎市学校図書館連絡会・御前崎市読み聞かせボランティア研修会合同研修会	7月7日(木)	50	小学校低学年から中学年
2	御殿場市立図書館	7月19日(火)	21	読み聞かせ入門
3	沼津市立図書館職員	10月5日(水)	33	昔話絵本の比較
4	伊東図書館おはなし会	11月15日(火)	27	読み聞かせ入門
5	浜松市立城北図書館 指定管理者(株)図書館流通センター	11月24日(木)	15	小学校高学年から中学生

コ 新刊サロン

子どもの読書活動関係者に情報交換や交流の場を提供するため、職員が新刊児童図書の紹介を行い、参加者が自由に語り合う会を、平成24年度から偶数月第3水曜日(12月のみ土曜日)の午前中に開催している。

令和4年度第1回は前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集合形式での開催を中止し、当館YouTubeチャンネルで動画配信した。第2回から第5回は、集合形式と動画配信の両方を実施した。動画配信は「知識の本」「読み物」「絵本」の3本に分けて作成した。集合形式は、実際に手に取って内容を確認できる、詳しく話を聞くことができる等の点で好評を得た。一方、動画配信は、当館までの距離や時間の都合で参加できなかった方も参加できる、繰り返し見られる等の点で好評を得た。

回次	1	2	3	4	5	合計
実施日		8/17	10/19	12/17	2/15	
参加者		5人	3人	4人	4人	16人
配信期間	6/24～8/16	8/26～10/18	10/28～12/16	12/27～2/14	2/24～4/18	合計
再生回数	520回	304回	440回	407回	330回	2,001回

サ 団体利用

「子ども図書研究室」を、全点収集資料を利用した選書会等の会場として、県内小中学校、幼稚園、保育所、ボランティアグループ等の団体に、予約制で提供している。

新型コロナウイルス感染防止のため、令和4年度は前年度同様に、人数を制限して受け付けた。

利用団体数	1団体
利用人数(延べ)	10人

シ 選定図書リストの公開

平成29年度から、子ども図書研究室の全点収集児童書のうち、子どもと本をつなぐ活動をしている方々の選書の参考になるよう、職員が選定した図書リストをウェブサイトで公開している。

令和4年度は15回222冊を選定図書として公開した。

ス 展示一覧

子ども図書研究室内に2つのスペースを設け、展示を行っている。季節の展示コーナーでは、県内市町立図書館及び学校図書館の展示に参考になるよう、少し先の季節の本を展示している。テーマ展示コーナーでは、子ども図書研究室講演会や静岡県図書館大会関連資料、課題図書等の他、その年に周年を迎える

作家や作品に関連する展示を実施している。その他、著名な絵本作家が亡くなられた際には、随時、追悼展示を行っている。

	季節の展示	テーマ展示	その他
4月	花火の本	令和3年度 静岡県優良推奨図書	
5月			
6月	おばけの絵本	言葉や思考の発達、読書に関する本（講演会関連資料）	
7月			
8月	月と星、宇宙の絵本	2022 夏の課題図書等	
9月		「ピーターラビット」出版120年	
10月	新しいクリスマスとお正月の絵本	「かがくのとも」の50年（静岡県図書館大会関連資料）	山脇百合子さん追悼展示
11月			
12月	チョコレートの本	第34回読書感想画中央コンクール	
1月	花の絵本	令和4年度子ども図書研究室選定資料	
2月			
3月	雨の絵本	「ニッサン童話と絵本のグランプリ」とこどもの本に関する賞	

セ その他

- ・静岡県私立幼稚園初任者研修 講師
- ・静岡県公立幼稚園等初任者研修 講師
- ・浜松市読書文化協会「子どもと本の架け橋」研修会 講師
- ・静岡市立中央図書館・静岡子どもの本を読む会「第51回 子どもの本を学ぶ講座」講師
- ・静岡県立短期大学部こども学科 講義「教育実習指導」講師
- ・浜松学院高等学校子ども教育コース 授業 講師
- ・静岡県における子どもの読書活動推進検討委員会出席

(6) 子どもコーナー「どんぐりひろば」

子どもコーナー「どんぐりひろば」は、本館2階に位置し、一般児童書約3,000冊（読み物約2,000冊、知識の本約1,000冊）絵本約6,000冊を配架している。児童に対する直接サービス以外にも県立中央図書館移転までの新館における児童サービスの事前準備・調査・研究を行う。

おはなしかいは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加人数に応じて開催場所を「どんぐりひろば」横の講堂とし、感染予防対策のうえ実施した。

11月23日にグランシップで行われた企画事業「冬のおくりもの」では、「帰ってきた！えほんのひろば」として、どんぐりひろば所蔵のクリスマスや冬の絵本の出張展示及びボランティアによるおはなしかいを実施した。

ア 利用状況

年度	開室 日数	入室者 総数	新規 登録者数	貸出 人数	貸出数			
					図書(冊)	雑誌(冊)	視聴覚 (点)	合計
令和3年度	308	8,842	210	2,357	18,763	162	4	18,929
令和4年度	308	8,157	191	2,246	16,977	81	2	17,060

※「どんぐりひろば」の利用状況は本館利用状況に含まれる

イ おはなしかい活動実績（令和4年4月～令和5年3月）

活動日	回数	参加者人数		備考
		総数	1回平均	
毎週火曜日10:30～	44	351人	8人	職員が実施
毎週木曜日10:30～	32	148人	4.6人	3つのボランティアグループが交代で実施
毎週木曜日15:30～	43	124人	2.9人	職員が実施
第3日曜日10:30～	8	54人	6.8人	1つのボランティアグループが実施
その他 (7/23、8/7、9/17、 10/23、11/23、 12/17、12/24、2/25)	8	210人	26.3人	<おはなしかいスペシャル> 2つのボランティアグループが不定期で 実施（1グループは絵本の読み聞かせの 他、歌や芝居なども含む）。11/23はイベ ント「冬のおくりもの」にあわせて実施 した。

ウ 展示一覧

	テーマ展示	簡易展示
4月	ともだちの本	はるのえほん
5月	のりものの本	おかあさんのえほん
6月	海の本／ことばに関する本	おとうさんのえほん
		あめのえほん
7月	山の本	たなばたのえほん
		なつのえほん
8月		おつきさまのえほん
9月	おじいさん・おばあさんの本	よるのえほん
	「ピーターラビット」出版120年	
10月	音と音楽の本	
	山脇百合子さん追悼展示	あきのえほん
11月	物語の絵本	

12月	クリスマスの本	クリスマスのはん
	うさぎと十二支の本	おしょうがつのはん
1月	鬼と豆の本	ふゆのはん
	日本の昔話	
2月	花の本	はるのはん

(7) 静岡県視聴覚ライブラリー

令和4年度の視聴覚資料の受入数はなかった。

ア 資料所蔵数

(単位：点)

	令和3年度末 所蔵数	令和4年度受入数			令和4年度末 所蔵数
		購入	寄贈	合計	
16ミリフィルム	1,466	0	0	0	1,466
ビデオテープ	3,333	0	0	0	3,333
D V D	72	0	0	0	72
その他※	295	0	0	0	295
合 計	5,166	0	0	0	5,166

※その他（スライド・8ミリフィルム・カセットテープ等）

イ 貸出数

	社会教育関係	学校教育関係	合 計
16ミリフィルム	24 点	13 点	37 点
ビデオテープ	0 点	0 点	0 点
D V D	0 点	0 点	0 点
そ の 他	0 点	0 点	0 点
合 計	24 点	13 点	37 点

(8) 展示他

特集展示

隣接する美術館の展覧会テーマや当館での実施行事、時事等にあわせて展示をした。

展 示 期 間	テ ー マ
令和4年4月1日～4月28日	静岡県立美術館—リニューアルオープン展示—
4月30日～6月5日	写真で旅する世界
6月7日～6月29日	教科書展示
7月1日～7月28日	兵馬俑と古代中国（県立美術館関連展示）
7月30日～8月30日	目で見る生き物図鑑—古代から現代—
9月1日～9月29日	風景を切りとる（県立美術館関連展示）
10月1日～11月6日	文化の丘フェスタ関連展示
11月8日～12月4日	緑のある暮らし、はじめてみませんか
12月6日～1月15日	日本の神様

2 月 1 日～2 月 27 日	山梨連携展示
3 月 1 日～3 月 30 日	近代の誘惑—日本画の実践（県立美術館関連展示）

5 新聞雑誌班

(1) 逐次刊行物（新聞・雑誌）の充実

新聞・雑誌は、所蔵総タイトル9,882タイトルで、内1,868タイトル（購入584、寄贈1,284）を継続して収集し、保存している。そのうち、新聞は53タイトル（内42タイトル継続）である。

寄贈雑誌は12タイトルを新規に受け入れた。地域雑誌は、静岡県及び県内広域行政関係機関が発行したタイトルを積極的に受け入れている。

新聞マイクロフィルムは、静岡新聞（静岡版及び県内版替分）、中日新聞（東海本社版及び地方版）、朝日新聞（静岡版）、毎日新聞（静岡版）、読売新聞（静岡版）、日本経済新聞（地方版）を継続受入した。

（単位：タイトル）

分類	総タイトル数			左記のうち令和4年度継続受入タイトル数								
				購入			寄贈			合計		
	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計
0 総記	2,479	32	2,511	73	17	90	265	12	277	338	29	367
1 哲学	154	0	154	13	0	13	26	0	26	39	0	39
2 歴史	592	2	594	27	0	27	116	2	118	143	2	145
3 社会科学	2,571	11	2,582	150	2	152	346	3	349	496	5	501
4 自然科学	567	0	567	57	0	57	112	0	112	169	0	169
5 技術	1,095	4	1,099	108	1	109	114	2	116	222	3	225
6 産業	1,044	3	1,047	28	3	31	89	0	89	117	3	120
7 芸術	409	1	410	54	0	54	75	0	75	129	0	129
8 語学	77	0	77	8	0	8	8	0	8	16	0	16
9 文学	841	0	841	43	0	43	114	0	114	157	0	157
計	9,829	53	9,882	561	23	584	1,265	19	1,284	1,826	42	1,868

※平成17年度から改題誌もタイトル数に含む

(2) 提供情報の充実

ア 特集記事、地域雑誌の目次、静岡県関係記事・論文の電算入力

平成10年5月から特集記事の電算入力をしており、利用者端末や当館ウェブサイトからキーワードで特集記事やその掲載誌、巻号を検索できる。

イ 特集展示

雑誌の特集展示は、定期的に関覧室の雑誌コーナー及び総合案内カウンター前で行い、利用者の興味関心が高まるような展示に努めている。

展示テーマは次のとおりであり、雑誌コーナーでは、季節や社会情勢に関連したテーマ展示を、総合案内カウンター前では、新規受入雑誌や県内で発行している地域雑誌等を紹介している。

	雑誌コーナー	総合案内カウンター前
3・4月	文学者 生・没 ○周年	雑誌『仏教芸術 Buddhist Arts』
5・6月	花のある暮らし	雑誌『YORİ-SOUがんナーシング』
7・8月	富士山	雑誌『やませみ』
9・10月	秋を愉しむ	雑誌『Nutriton Care』
11・12月	聴く弾く奏でる歌う創る知る～音楽の世界～	雑誌『梶の葉』
1・2月	テーマパークとキャラクター	雑誌『季刊 清水』
3・4月	あなたは犬派？猫派？	雑誌『JICA MAGAZINE』

ウ 地域雑誌の利用促進

地域雑誌の利用を促進し、利便性を高めるために、現在は24タイトルの地域雑誌の目次の電算入力を行っている（総タイトル数44）。目次を入力した地域雑誌はそれぞれの巻号の目次一覧を見ることができ、入力されていないものに比べて書庫出納が多く、レファレンスサービスにも利用されていることから、豊富な所蔵タイトルが更に活用されるよう今後もこれらの電算入力に努める。

エ 静岡県内新聞雑誌総合目録

平成16年からWeb公開を始めた「静岡県内新聞雑誌総合目録」には、県内公立図書館の新聞・雑誌の所蔵情報が掲載されている。県内で初めて所蔵する雑誌については書誌データを当館で入力し、そのデータを基に、県内各市町立図書館（室）が自館の所蔵情報を更新する。各図書館の担当者が共通認識のもとに情報更新ができるように、令和4年度も所蔵情報の入力方法等の操作研修をYouTubeによるWeb配信で行った。

当目録は、①「おうだんくんサーチ」に参加していない図書館の所蔵状況もわかり、②共通データベースを使用しているため、検索スピードが格段に速いなどの利点がある。また、県内図書館の雑誌所蔵状況を把握できるため、レファレンスに活用するとともに、資料の購入・廃棄の際の情報源としても活用できる。各館で取り扱いが雑誌か図書かで異なる場合があるため、検索に注意を要するが、当目録の利便性がより理解され、更に広く活用されることを期待している。

(3) その他

特別整理休館時に、劣化の進んだマイクロフィルムの放酸処理やシリカゲルの交換作業を行い、資料の適切な保管に努めている。

6 一般調査班

(1) レファレンスサービス

ア 令和4年度レファレンスサービスの概要

令和4年度のレファレンス総件数4,710件で、令和3年度より減少した。

調査種別では、所蔵・所在調査が1,790件、書誌・文献・事実調査は2,920件となり、所蔵・所在調査の件数の減少が著しい。書誌・文献・事実調査の質問内容では、静岡県に関する質問が全体の35.3%であり、分類別では、多い順に2類（歴史・人物・地理）、7類（芸術・スポーツ）、0類（叢書・新聞）、3類（社会科学）となり、これらで全体の72.9%を占めた。

質問形式ではメールの割合が増加しており、調査時間が1時間を超える高度な質問も多くあった。所蔵・所在調査の件数の減少とも併せて考えると、インターネットの普及により、簡易な調査は利用者自身が行っていると考えられる。今後は、レファレンス事例登録やパスファインダーの充実など、自宅等で利用者自身が行う調査研究で活用できるような支援ツールの整備拡充の検討も必要である。

今後も引き続き個々の利用者のみならず、市町立図書館に対する支援も含め、県内全体のレファレンス・サービスの向上に努め、利用者に満足していただけるよう担当職員のレファレンススキルの向上を目指す。

令和4年度レファレンス件数

(単位：件)

①書誌・文献・事実調査件数	2,920	うち静岡県に関するもの	1,030
②所蔵・所在調査件数	1,790	うち静岡県に関するもの	408
合 計	4,710	うち静岡県に関するもの	1,438

イ レファレンスツールの整備

利用者が知りたいことを自分でも調べられる、有用な資料やデータベースを紹介した「本の道しるべ」と題した「テーマ別調べ案内」を作成している。これは主に当館の来館利用者に向けたもので、自由に持ち帰ることができるよう閲覧室内に配置しているほか、当館ウェブサイトでも「パスファインダー一覧」としてPDFで公開している。令和4年度は一部内容を見直し、改訂した。

ウ オンラインデータベースの充実

(7) 導入オンラインデータベース

ジャパンナレッジLib、第一法規法情報総合データベース、TKCローライブラリー、朝日新聞クロスサーチ、静岡新聞データベースplus日経テレコン、ヨミダス歴史館、毎索、中日新聞・東京新聞記事データベース、医中誌Web、ヨミドクター、ルーラル電子図書館、官報情報検索サービス、地方公共団体総覧、JDreamⅢ、レファコレ(人物レファレンス事典plus)の15種類のデータベースを導入している。

(イ) オンラインデータベース利用実績

年/月	4/4	5	6	7	8	9	10	11	12	5/1	2	3	計
ログイン数	176	150	167	132	159	152	107	126	122	107	127	129	1,654
検索件数	5,479	5,806	6,969	3,615	11,141	11,183	7,574	8,166	7,282	3,378	5,894	4,715	81,202

※ログイン数は、第一法規法情報総合データベース、朝日新聞クロスサーチ、毎索、医中誌Web、ジャパンナレッジLib、TKCローライブラリー、JDreamⅢ、レファコレのもの。

※検索件数は、静岡新聞データベースplus日経テレコン、ヨミダス歴史館、中日・東京新聞記事データベース、ルーラル電子図書館、ヨミドクターのもの。

(ウ) オンラインデータベース活用講座の実施

令和4年度は株式会社キャリアデザイン代表取締役の樋口貴子氏を講師に招き、「静岡新聞データベースplus日経テレコン」活用方法の講座を行った。

実施日	講座名	受講者数
11月5日（土）	「静岡新聞データベースplus日経テレコン」の活用方法	11人

(2) 市町立図書館などへの支援

市町立図書館などにおけるレファレンス業務の充実を図るため、レファレンス業務に関する情報提供、研修として次の事業を実施した。

ア レファレンス研修の実施

静岡県教育委員会と静岡県図書館協会が主催する図書館職員研修のうち、基礎研修（レファレンス基礎研修）及び、専門研修（レファレンス応用研修）を一般調査班が担当した。

基礎研修は、主に図書館勤務3年目までの職員を対象にした研修で、「レファレンス概論」、「基礎的な参考図書を紹介」、「インターネットで資料を調べる」の講義と演習を行った。会場は、中部は当館、西部は静岡県総合教育センター、東部は三島市立図書館で、参加申込みの多かった中部を2グループに分け2回行ったため、計4回の実施となった。また、中部会場では県内学校職員も参加対象とし、教員7人の参加があった。

応用研修は、主にレファレンス業務の経験者を対象にした研修であり、「統計情報の探し方」と「法情報の探し方」の2つを行った。

レファレンス基礎研修 実施状況

実施日	地区	受講者人数	実施日	地区	受講者数
5月12日（木）	中部	29人	5月26日（木）	西部	21人
5月20日（金）	中部	25人	6月1日（水）	東部	17人

レファレンス応用研修 実施状況

実施日	会場	受講者数
10月14日（金）	静岡県立中央図書館	24人
10月19日（水）	静岡県立中央図書館	23人

イ 教職員対象の研修の実施

静岡県総合教育センター主催で行われた「情報リテラシーと学校図書館」「学校図書館活用研修」の2つの研修に一般調査班員が講師として参加した。内容は、「データベースを利用した情報収集」と「教育活動・学校図書館と著作権」を担当した。「情報リテラシーと学校図書館」は主に中学・高校の教員を対象に、「学校図書館活用研修」は主に小中学校の教員を対象に行われた。講義ではインターネット上のデータベースを利用した資料の探し方や、著作権法の基本的な事項や学校教育における著作権法の取扱い、授業目的公衆送信補償金制度などについて説明をした。

当館主催「教育活動中の著作権と情報リテラシー研修」は、「インターネットで資料を調べる」「学校における教育活動と著作権」の2つの講義を総合教育センターを会場にして行った。この研修は公立の小・中・高・特支教職員及び市町教育委員会の指導主事を対象としている。

実施日	内容等	受講者数
6月3日（金）	情報リテラシーと学校図書館 会場：静岡県総合教育センター	6人

7月15日（金）	学校図書館活用研修 会場：静岡県総合教育センター	52人
8月18日（水）	教育活動の中の著作権と情報リテラシー研修 会場：静岡県総合教育センター	17人

ウ 出前研修の実施

図書館職員向け研修への講師派遣の要望に応えるため、平成28年度以降、県内各地区図書館等による「レファレンス業務に係る研修」に一般調査班員を講師として派遣し、基礎的な内容の講義ならびに演習を行う「出前講座」を企画・実施している。

テーマは、「レファレンス概論（インタビュー演習等を含む）」「参考図書で調べる」「資料をインターネットで探す」「図書館サービスと著作権」の4つを設定し、自由に選択できるようにしている。

令和3年度はオンラインでの開催や中止となった講座もあったが、令和4年度はすべて現地で開催することができた。総受講者数は111人だった。

出前研修実施状況

実施日	会場	延べ受講者数	実施日	会場	延べ受講者数
11月25日（金）	袋井市立袋井図書館	7人	11月30日（水）	清水町立図書館	10人
12月1日（木）	御殿場市立図書館	14人	12月21日（水）	島田市立島田図書館	16人
2月2日（木）	藤枝市立駅南図書館	26人	2月22日（水）	静岡市立御幸町図書館	19人
2月28日（火）	三島市立図書館	19人			

(3) 特別取扱資料等の保存と公開

ア 特別取扱資料

当館では「葵文庫」や「久能文庫」をはじめ、地域関係の古文書などの貴重な資料を多数所蔵している。これらの特別取扱資料は、収蔵庫と貴重書庫で保管し、温度20℃、湿度50%に設定した空調設備により管理している。また、害虫対策として、令和4年度は12月5日の図書館休館日に、ブンガノンとライセントを使用して収蔵庫と貴重書庫の薫蒸を実施した。

虫食いや劣化等破損の見られる資料については、職員の目視により平成23年度から計画的に修復及び保存作業を進めてきたが、デジタル化されている葵文庫・久能文庫資料について、令和2年度に専門業者による資料の破損や汚損状況の調査を行い、この調査結果をもとに、破損・汚損状況の激しい資料から順次、修復・整備し、引き続き貴重な資料の保存と公開の両立を図っていくこととした。

今年度は葵文庫の英書『The Natural History Of The Sperm Whale』を含む9タイトル11冊の修復を行った。また、新館移転に向けて保存箱の作成等の貴重書の保存計画を立て、令和5年度より進めていくこととなった。

イ 貴重書の閲覧・利用状況

令和4年度は、延べ26人が計218点を閲覧した。状態の悪い資料については引き続き利用の制限をしつつ、貴重資料のデジタル化、マイクロ化を推進し、それらの複製物を活用することによって資料の保存と公開の両立を図っていく。

ウ 貴重書のマイクロフィルム化・デジタル化

資料の保存と公開の両立のため、貴重書のマイクロフィルム化・デジタル化を計画的に進め、デジタル

ライブラリーでの画像公開を行っている。

令和4年度は、久能文庫『関口家資料』を含む4タイトル354点をデジタルライブラリーに公開した。国文学研究資料館がデジタル化を予定している資料を含めると、葵文庫・久能文庫のデジタル化が一段落したことになる、新規のデジタル化は地域資料を優先として、一般貴重書は実施しなかった。

エ 掲載・放映許可、特別取扱資料館外貸出等

令和4年度は、当館所蔵資料の掲載（翻刻掲載を含む）または放映の申請が65件あり、前年度の62件より3件増加した。その内訳は掲載52件（前年度46件）、放映13件（同16件）であった。

また、複製許可に際して、デジタルライブラリーを通じた画像データ提供は55件（前年度は46件）であった。浮世絵（『上村翁旧蔵浮世絵集』）、郷土関係資料（『九十五年前の伊豆（天保三年）』など）、の申込みが例年どおり多かったが、その他では駿府城関係資料（『駿府御城図』など）の申込みが多かった。

なお、展示等による館外貸出については10件（183点）を許可した。うち、特別取扱資料（貴重書など）は次の9件（156点）であった。

施設	催事名等	資料名
静岡市東海道広重美術館	「浮世絵で学ぶ日本史 源平の争いと鎌倉幕府」展	上村翁旧蔵浮世絵集 他 全46件70点
静岡県立美術館	「絶景を描く-江戸時代の風景表現-」展	河村岷雪「百富士」1～4 他 全6点
静岡市美術館	「東海道之美 駿河への旅」展	山梨雀山「山梨稲川画像」 河村岷雪「百富士」1～4 全5点
東海道広重美術館	「家康と東海道～どう描いた広重～」展	『春秋公羊伝 上』 『春秋公羊伝 下』 他 全6点
富士市立博物館	富士市立博物館第59回企画展「『河東』をめぐる戦国時代」	『浅間大宮司富士家文書9』 『浅間大宮司富士家文書10』 他 全5点
静岡市歴史博物館	静岡市歴史博物館基本展示	『久能文庫設立趣意書』
静岡市歴史博物館	静岡市歴史博物館基本展示	『駿河國華陽院由緒書』 『駿府政事録 卷一～八』 他 全10点
静岡市美術館	NHK大河ドラマ特別展「どうする家康」	『郡書治要 47冊』 『春秋公羊伝 2冊』 全49点
静岡市歴史博物館	「駿府の華 静岡浅間神社」展	『駿河志料 [23]巻之[40]』 他 全4点

オ 貴重書常設展示

平成23年1月に閲覧室内に開設した貴重書常設展示コーナー「『しずおか』の貴重書」を、令和4年度も継続して実施した。ブラウジング入口付近の横型ケースを使用して、毎回3～5点の資料を展示した。所蔵する貴重資料を毎月入れ替え、多くの利用者に親しみをもってもらえるよう、わかりやすい内容紹介パネルの作成を心掛けた。また、内容解説と関連図書の紹介を掲載したパンフレット『温故知新』を作成・配布し、併せて関連図書を展示・配架した。このコーナーは地域調査班と協力し、調査課全体の企画として実施した。展示期間及び展示品は以下のとおりである。

実施日	企画名	展示品
令和4年 3月1日 ～ 4月27日	花を愛でる	浮世絵『十二ひと絵衣更着の梅見』『本草図譜』他
4月28日 ～ 5月29日	新茶の季節	『栽茶説』『茶業須要』『茶業改良法』

6月1日 ～ 6月29日	明治の地理教科書	『静岡縣誌』『日本地誌略』他
7月1日 ～ 8月30日	いざ鎌倉	『源平盛衰記』『百練抄』他
9月1日 ～ 9月29日	よみがえれ！貴重書	『The select speeches of Daniel O'Connell』他
10月1日 ～ 10月30日	城を歩く	『分國城圖』
11月1日 ～ 11月29日	鉄道開業150周年	『Eerste grondbeginselen der natuurkunde』他
12月1日 ～ 令和5年 1月15日	三国志	『三国志』『増像全図三国志演義』他
1月28日 ～ 2月27日	駿府風土記の富士山 絵図	『駿府風土記』、浮世絵『富士山諸人参詣之図』他
3月1日 ～ 4月27日	熟読 学問のすすめ	『学問のスゝメ』

カ 貴重書講座・見学

(7) 貴重書講座

演題 「『駿府風土記』の富士山絵図～大宮・村山口登拝道の足跡をたどる～」

講師 矢島 一 氏（葵文庫の会[※] 会員）

実施日 令和5年2月23日（木曜日・祝日） 参加者 41人

当館所蔵の特殊コレクション久能文庫に収蔵されている地誌『駿府風土記』（Q291/19）には手彩色された富士山絵図が掲載されている。本講座ではこの富士山絵図について豊富な写真や資料などから読み解き、江戸時代の修験登拝道の足跡をわかりやすく説明していただいた。参加者アンケートでは「大変満足・満足」という回答がほとんどであった。「史跡の場所を歩いて確認したいと思った」「富士山信仰について詳しく勉強したいと思った」等の感想があり、文化的な講座を求める県民へのアピールができた。図書館資料と利用者をつなぐという意味でも有意義な講座となった。

（※）「葵文庫の会」：葵文庫について調査、研究している会。元県立中央図書館職員で構成している。

(4) 貴重書紹介講座（図書館見学）

随時実施する図書館見学は、特に大学生の授業の一環として葵文庫・久能文庫等の解説、『論語』（葵文庫）などの展示を行い、資料を間近で見ることによって将来を担う学生・生徒に見聞を広めてもらうことを目的としている。

令和元年度は全国の中世史研究者による中世史サマーセミナーの一環として、当館の見学が組み込まれるなど、研究者や学生の研究に役立てることができたが、令和2年度以降はコロナ禍のため、予定した大学生の見学等は全て中止となった。

(4) 障害者サービス

令和3年度に障害者サービスプロジェクトチームを結成し、サービス先進県の情報等を収集すると共に、マニュアル作成や新館におけるサービスの検討や館内職員研修を行った。また、当館の利用登録者がサピエ図書館を活用できるよう、令和4年度よりサピエの団体会員登録をした。郵送貸出サービスについては、令和4年度は14件37冊の利用があった。

(5) その他の関連事業

ア 点訳音訳奉仕員養成講習会

静岡県視覚障害者情報支援センターが主催する点訳音訳奉仕員養成講座のプログラムの1つとして「調

査・レファレンス講習会」を一般調査班で担当している。音訳や点訳に不可欠な「読み」の調査方法を、人名・地名、書名・作品名などの読みを調べる基本参考図書を紹介しながら、例題や演習問題を交えて解説した。受講者は県内各地で音訳・点訳ボランティアとして活躍する方々で、それぞれ真剣に取り組んでいただいた。実施日、受講者数は以下のとおりである。

実施日	会場	受講者数
11月15日（火）	静岡県立中央図書館	5人

イ 関係機関との連携など

「葵文庫の会」会員との連絡会を令和5年2月23日（木）に実施した。図書館からは、貴重書の利用状況、デジタル化の現状、貴重書の常設展示等について報告した。その後、貴重資料についての意見交換、役員改選、来年度の貴重書講座の予定及び講師依頼等について協議を行った。

ウ 郵送複写サービス

当館では、来館が難しい県民に対し所蔵資料の郵送複写サービスを行っており、県外の利用者からの申込は、当館のみが所蔵する資料及び静岡県に関する資料（地域資料）に限り受け付けている。令和4年度は、年間の依頼申込は137件1,752枚（内マイクロフィルムは14件46枚）であった。新型コロナウイルス感染症への感染対策で来館に抵抗感があった令和2年度、3年度に比べると減少傾向にある。

7 地域調査班

(1) 地域資料の充実

当館では、静岡県に關係する全分野の資料及び静岡県出身者・在住者の著作物を積極的に収集している。令和4年度の地域資料の受入・蔵書冊数は以下のとおりである。地域資料の収集にあたっては、新刊書、古書のほか、通常の流通ルートでは入手しにくい個人・団体の出版物や県・市町の行政刊行物等についても、発行者に入手方法の問い合わせや寄贈依頼を行うなどして、収集に漏れないよう努めている。収集部数は、1資料につき2部を原則とし、1部を貸出閲覧用、1部を永久保存用としている。

(単位：冊)

分類	令和3年度末蔵書数	令和4年度受入冊数（増減数）							令和4年度末蔵書数	
		購入	寄贈	分類換	区分換 ・管理換 ・その他	類換	除籍 数	計	蔵書数	比率 (%)
0 総記	13,537	222	155	56	445	△9	0	869	14,406	9.3
1 哲学	1,746	31	10	0	0	0	1	40	1,786	1.1
2 歴史	29,628	247	337	5	0	1	3	587	30,215	19.4
3 社会科学	50,000	129	348	199	0	1	5	672	50,672	32.6
4 自然科学	7,261	22	102	15	0	0	0	139	7,400	4.8
5 技術	10,866	27	84	37	0	0	1	147	11,013	7.1
6 産業	15,580	45	134	64	0	7	0	250	15,830	10.2
7 芸術	8,581	73	118	18	0	0	1	208	8,789	5.6
8 言語	514	1	7	0	0	0	0	8	522	0.3
9 文学	14,629	216	132	2	0	0	1	349	14,978	9.6
合計	152,342	1,013	1,427	396	445	0	12	3,269	155,611	100.0

※比率(%)の合計は、端数処理のため合わないことがある。

※令和4年度受入冊数のうち「その他」445点は、これまで1点として蔵書システムに登録してきた『駿河国駿東郡原宿渡辺家文書』1,555点のうち、デジタル化に伴い個別に登録を行ったものを計上した。

(2) 提供情報の充実

ア 目次情報の入力

地域資料の書誌データ作成に際し、目次情報が検索キーワードとして有効と考えられるものについては、目次情報の入力も行っている。当館のレファレンス件数の約30%が静岡県に関する質問であり、この目次データはレファレンス時の有用なツールとして活用されている。また、過去に作成した書誌には目次データが未入力となっているものがあるため、遡及入力も継続的に行っている。

イ 二次資料の作成

令和6年度改訂予定の『地域学習に役立つ図書リスト』について、利用対象者や「地域の発展に尽くした先人」の一覧を作成するなどして、令和6年度夏休み前に改訂ができるよう準備を行った。

(3) 資料展示

ア 貴重書常設展示

貴重書常設展示および展示内容については、「6 一般調査班」における「(3) 特別取扱資料等の保存と公開」の「オ 貴重書常設展示」の項目を参照してほしい。

イ 地域資料の展示

新たに受け入れた地域資料は、新着地域資料コーナーに展示し、来館者への周知を図っている。

また、「地域資料特集展示コーナー もっと知りたい！ふじのくに」では、平成31年3月の閲覧室補修工事完了後の再開館から特集展示を開始した。時事に合わせたテーマと共に、書架の位置等で目に付きにくい分野をテーマに設定するなど、地域資料の周知や利用促進を図っている。

令和4年度の展示内容は以下のとおりである。

期 間	内 容
令和4年 3月1日 ～ 4月27日	ふじのくにの絵本作家 いわい としお氏 スズキ コージ氏 (令和3年度から継続)
5月1日 ～ 6月29日	茶の都しずおか
7月1日 ～ 8月30日	地域の歴史を発掘しよう
9月1日 ～ 10月16日	ふじのくには缶詰の国
10月18日 ～ 11月29日	ふじのくに 静岡県の文化財
12月1日 ～ 12月27日	静岡県障害者芸術祭
令和5年 1月5日 ～ 2月27日	ふじのくにの徳川家康
3月1日 ～ 4月29日	第20回静岡県自費出版大賞

(4) 市町立図書館への支援

ア 地域資料MARCの提供

県内市町立図書館等における地域資料の書誌作成業務の軽減化と県内地域資料の書誌データの標準化を図るため、当館で作成した地域資料の書誌データを地域資料MARCとして提供している。地域資料MARCは作成後、ただちに図書館ウェブサイト公開されるようになっており、各図書館をはじめ、個人でもダウンロードすることが可能である。書誌データとともに目次データもダウンロードできるため、レファレンス、地域資料の選書などにも活用することができる。

イ 運営相談等

県内市町立図書館等からの地域資料の収集・整理方法に関する相談に対応している。

また、地域資料の保存図書館として、各館等の事情で不要となった地域資料のうち、当館未所蔵資料の受入れを行っている。

(5) 地域資料のデジタル化

地域資料のデジタル化は、当館の重点取組事業として積極的に推進している。毎年、近世・近代の地誌や絵葉書などについてデジタル化・マイクロフィルム化を行い、当館デジタルライブラリーで一般公開を行うほか、虫食いや劣化破損等の見られる資料の修繕を行っている。令和3年度に行った劣化度調査の結果を元に、令和4年度は新館移転に向けた保存計画を策定した。

平成27年度から、県及び市町発行の行政刊行物等のPDFファイルも収集・公開を行っている。令和3年度には、これらPDFファイルの収集を自動的・網羅的に行うクローラの開発も行った。

令和4年度に行った事業は次のとおりである。

事業	内訳	点数	内 訳
デジタル ライブラリー 登録・公開	自館作成分	13タイトル	地域資料：『土肥町災害復興史』『伊豆災害復興概要』『駿豆震災誌』他
	業務委託分	448タイトル	貴重資料：『大井家日記18』『大井家日記47』他
	行政資料	457点	静岡県及び市町発行の行政資料を公開
デジタル化 マイクロフィルム化		770タイトル	貴重資料：『[駿府定番手控]』『駿河国駿東郡原宿渡辺家文書221』他
修繕		11タイトル	貴重資料：『静岡県史13』『駿河国駿東郡原宿渡辺家文書264』他

(6) 歴史文化情報センター

12 歴史文化情報センター（p66参照）

8 企画班

(1) 図書館職員研修

ア 基礎研修

(ア) 図書館基礎研修

期日・会場	4月15日（金）・オンライン（ライブ配信）開催
参加人数	108人
内 容	・「図書館職員の基礎知識」 認定司書 静岡文化芸術大学図書館・情報センター 堀内 古季 氏 ・「図書館サービスと著作権 概論」 静岡県立中央図書館 調査課職員

(イ) おうだんくん基礎研修

期 日	配信期間 4月1日（金）～3月10日（金）
会 場	YouTube によるオンデマンド開催
参加人数	総再生回数 241 回
内 容	・「おうだんくんシステム、ポータル」 静岡県立中央図書館 企画振興課企画班職員 ・「おうだんくんコミュ」 同企画振興課企画班職員 ・「静岡県の図書館」 同企画振興課振興班職員 ・「静岡県新聞雑誌総合目録」 同資料課新聞雑誌班職員 ・「静岡県地域資料書誌提供システム」 同調査課地域調査班職員 ・「おうだんくんサーチ」 同企画振興課企画班職員 ・「相互貸借の基本」 同企画振興課振興班職員 ・「おうだんくん ILL」 同資料課図書班職員

(ウ) レファレンス基礎研修

期 日	5月12日（木）	5月20日（金）	5月26日（木）	6月1日（水）
会 場	静岡県立中央図書館 会議室		静岡県総合教育センター （あすなろ） 情報研修室	三島市立図書館 （生涯学習センター） 研修室・パソコン教室
参加人数	29人	25人	21人	17人
内 容	・「レファレンス概論」 ・「基礎的な参考図書の紹介」 ・問題演習、解説 ・「インターネットで資料を調べる」 静岡県立中央図書館 調査課一般調査班職員			

イ 専門研修

(ア) 図書館広報研修

期日・会場	6月15日（水）・静岡県立中央図書館 会議室
参加人数	43人
内 容	・「プロの視点を知ろう！想い伝わる図書館広報」 静岡大学人文社会科学部客員教授・静岡県広報業務アドバイザー 平野 雅彦 氏

(イ) 大学・専門図書館研修

期日・会場	9月2日（金）・静岡県立中央図書館 中集会室	
参加人数	20人	
内 容	・事例報告 静岡県文化芸術大学図書館・情報センター 井出 直樹 氏 ・「誰もが利用しやすい図書館を目指してー障害のある学生・教職員への支援ー」 国立大学法人筑波技術大学教授 飯塚 潤一 氏	

(ウ) レファレンス応用研修

期 日	10月14日（金）	10月19日（水）
会 場	静岡県立中央図書館 会議室	
参加人数	24人	23人
内 容	・「法情報の探し方」 ・「統計情報の探し方」 静岡県立中央図書館 調査課一般調査班職員	

(エ) 図書館サービス研修 1

期日・会場	10月6日（木）・静岡県立中央図書館 会議室	
参加人数	39人	
内 容	・「地域資料サービスの実践とアーカイブ戦略」 ・「地域資料デジタルアーカイブの事例紹介と実習」 元小平市中央図書館長・日本図書館協会認定司書（第2024号） 蛭田 廣一 氏	

(オ) 児童・青少年サービス研修

期日・会場	11月9日（水）・静岡県立中央図書館 会議室	
参加人数	38人	
内 容	・「がんばれ！児童図書館員」 公益財団法人東京子ども図書館理事 杉山 きく子 氏	

(カ) 図書館情報研修

期日・会場	12月2日（金）・オンライン（ライブ配信）開催	
参加人数	33人	
内 容	・「イントロダクション～資料デジタル化研修にあたって～」 ・「資料デジタル化の基礎」 国立国会図書館職員（YouTube 遠隔研修教材視聴） ・「図書館資料デジタル化・公開に伴う権利処理」 国立国会図書館関西館電子図書館課著作権処理係職員 ・事例報告「静岡県立中央図書館のDX推進事業」 静岡県立中央図書館 企画振興課企画班職員	

(キ) 図書館サービス研修 2

期日・会場	1月13日（金）・静岡県立中央図書館 会議室	
参加人数	22人	
内 容	・「自分事として考えるためのUD 基礎知識」 ・「もしあなたや同僚が障害を持ったら？」 株式会社ユーディット会長兼シニアフェロー 関根 千佳 氏	

ウ 運営研修

(7) 館長研修会

期日・会場	4月26日（火）・オンライン（ライブ配信）開催
参加人数	47人
内 容	・『『図書館の自由』を学びなおすー『図書館の自由に関する宣言』が図書館に求めること』 沖縄国際大学教授・沖縄国際大学図書館長 山口 真也 氏

(4) 図書館運営研修

期日・会場	7月8日（金）・静岡県立中央図書館 中集会室
参加人数	26人
内 容	・「図書館の危機管理ー法令から考えるトラブル対応」 元千葉県労働委員会事務局次長 鍵水 三千男 氏

エ 特別研修

(7) 図書館情報交換会

期 日	9月7日（水）	10月27日（木）	11月25日（金）
会 場	Zoom による Web 会議形式開催	浜松市立 都田図書館	富士宮市立 芝川図書館
参加人数	12人	5人	6人
内 容	・分科会（グループワーク による情報交換会）	・図書館見学 ・グループワークによる情報交換会	

(2) 利用者からの意見

ア 提案ボックス

「提案ボックス」を設置することによって、利用者からの意見・要望をいち早く収集し、利用者が必要とする情報の提供や、利用者の声を図書館運営に反映するよう努めた。

「提案ボックス」件数統計

（単位：件）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
提案件数	2	3	4	1	0	5	1	3	2	0	3	2	26
回答・改善 件数	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3

提案件数は、昨年度から5件増加した。提案の内容は、主に利用規定や利用者マナーに関するもの等で、苦情申立ての手段として利用されることが多い。早期回答を心がけ、なるべく改善に繋げるよう努めた。

イ 利用者実態調査

(7) 調査の概要

当館では、平成9年度から継続的に利用者に対してアンケートを実施し、利用者の来館目的や利用資料等について調査してきた。

令和3年度からは、これまで来館者に対して紙で行っていたアンケートを廃止し、ふじのくに電子申請サービスを利用し、電子申請でアンケートを行っている。集計作業の効率化や、市外利用者（市町受取サービス利用者等）、当館を利用したことがない人等から多く意見を集めることなど、電子申請のメリットを生かしたアンケートを実施することができた。

(イ) 調査期間

11月1日（火）～11月30日（水）30日間

(ウ) 分析結果

【付属資料】「令和4年度『静岡県立中央図書館アンケート』集計結果」（p55-57）

(3) イベント等

ア 図書館講座、講演会

(7) 図書館講座 葵レク（集合開催）

開催日	内容	講師	募集	応募	参加
8月17日（水）	新刊サロン②	当館職員	20人	6人	5人
10月19日（水）	新刊サロン③	当館職員	20人	6人	3人
10月30日（日）	戦国時代の城址講座 徳川家康最大の危機～二俣城・高天神城の陥落～	加藤 理文 氏 （公益財団法人日本城郭協会理事）	120人	118人	97人
11月5日（土）	オンラインデータベース活用講座 「静岡新聞データベースplus日経テレコン」を上手に使うコツ	樋口 貴子 氏 （㈱キャリアデザイン代表取締役）	20人	11人	11人
11月6日（日）	ロボットプログラミング教室	㈱タミヤ職員	20人	24人	15人
12月17日（土）	新刊サロン④	当館職員	20人	5人	4人
2月15日（水）	新刊サロン⑤	当館職員	20人	4人	4人
2月18日（土）	健康医療情報講演会 応急手当を学ぶ一緊急時における救急救命対応方法一	駿河消防署職員	50人	18人	18人
2月23日 （木・祝）	貴重書講座 『駿府風土記』の富士山絵図～大宮・村山口登拝道の足跡をたどる～	矢島 一 氏 （葵文庫の会）	70人	38人	41人

(イ) 子ども図書研究室講演会（集合開催）

開催日	内容	講師	募集	応募	参加
7月5日（火）	言葉の発達、思考の発達を助ける絵本読みと読書	今井 むつみ 氏 （慶應義塾大学環境情報学部教授）	100人	98人	95人

(ウ) 図書館講座 葵レク・子ども図書研究室講演会（配信）

配信期間	内容	講師	再生回数	備考
2月25日～4月22日	令和3年度新刊サロン⑤	当館職員	500回	令和3・4年度合計
3月25日～5月9日	令和3年度貴重書講座 葵文庫（江戸幕府旧蔵書）の洋学資料～近代化をめざした江戸幕府～	海老原 一彦 氏 （葵文庫の会）	436回	令和3・4年度合計
6月24日～8月16日	新刊サロン①	当館職員	520回	配信のみ
7月26日～9月2日	言葉の発達、思考の発達を助ける絵本読みと読書	今井 むつみ 氏 （慶應義塾大学環境情報学部教授）	466回	
8月26日～10月18日	新刊サロン②	当館職員	304回	
10月28日～12月16日	新刊サロン③	当館職員	440回	

12月27日 ～2月14日	新刊サロン④	当館職員	407回	
2月24日 ～4月18日	新刊サロン⑤	当館職員	288回	令和5年3 月末現在

イ 展示

期間	展示会名称	連携機関等	開催場所
3月8日 ～4月27日	JICA海外協力隊写真展	独立行政法人国際協力機構（JICA）中部センター	展示室
3月8日 ～4月27日	さくら写真展	静岡県さくらの会	閲覧室
6月10日 ～7月6日	堀内誠一展	長泉町民図書館	総合案内カウンター前
7月1日 ～8月14日	あいのうた～出会いから子育てまでの短歌コンテスト～受賞作品展示会	県子ども未来課	閲覧室
7月20日 ～8月30日	草薙神社龍勢花火展	草薙神社龍勢保存会	展示室
8月2日 ～8月28日	統計グラフコンクール作品展	県データ活用推進課	インフォメーションホール
8月16日 ～9月29日	海洋プラスチックごみ防止「6R県民運動」展	県廃棄物リサイクル課	インフォメーションホール
10月1日 ～11月6日	文化の丘フェスタ関連資料展示		特集展示コーナー
10月1日 ～10月30日	歴史へのとびら～北条・徳川ゆかりの人々～	長泉町井上靖文学館	総合案内カウンター前
10月4日 ～11月6日	静岡県の文化財保護～昭和53年度近世社寺建築緊急調査～	県文書課	インフォメーションホール
11月8日 ～12月4日	犯罪被害者支援のための啓発展示	県くらし交通安全課	インフォメーションホール
12月6日 ～1月15日	静岡どぼくらぶパネル展	県建設政策課	インフォメーションホール
1月28日 ～2月27日	「写真週報」にみる昭和の戦争と静岡		展示室
1月28日 ～3月19日	模型で見るしずおかの建築物	静岡県立島田工業高等学校建築科	閲覧室
2月1日 ～2月27日	静岡県立中央図書館・山梨県立図書館連携展示 ぐるり！富士山一周	山梨県立図書館	総合案内カウンター前
3月7日 ～4月27日	JICA海外協力隊写真展	JICA静岡デスク	展示室
3月7日 ～4月27日	さくら写真展	静岡県さくらの会	インフォメーションホール

ウ 図書館特別企画

(ア) 夏休み子ども図書ウィーク

・開催期間 令和4年7月30日（土）～8月5日（金）

開催日	内容	講師等	募集	応募	参加
7月30日（土） 7月31日（日）	親子ドローン体験教室	㈱富士空撮サービス	30人	33人	24人

8月2日(火)	ユニバーサルデザイン絵本手作り教室	林 左和子 氏 (静岡文化芸術大学)	10人	10人	5人
8月3日(水)	折り紙遊び教室	静岡県読み聞かせネットワーク	10人	10人	7人
8月4日(木)	プログラミング教室	静岡県立島田商業高等学校	10人	10人	9人
8月5日(金)	ふじっぴーの親子グラフ教室	県データ活用推進課職員	10人	9人	5人

(イ) ふじのくに文化の丘フェスタ

・開催期間 令和4年10月18日(火)～11月6日(日)

開催日	内容	講師・連携機関等	備考
10月1日(土)～11月6日(日)	文化の丘フェスタ関連資料展示		展示
10月1日(土)～10月30日(日)	歴史へのとびら～北条・徳川ゆかりの人々～	長泉町井上靖文学館	展示
10月4日(火)～11月6日(日)	静岡県の文化財保護～昭和53年度近世社寺建築緊急調査～	県文書課	展示
10月19日(水)	新刊サロン③	当館職員	葵レク
10月29日(土)	静岡県読み聞かせネットワーク全体研修会 耳をすます～子どもと本の架け橋として～	斎藤 惇夫 氏 (児童文学者、元福音館書店編集者)	
10月30日(日)	戦国時代の城址講座 徳川家康最大の危機～二俣城・高天神城の陥落～	加藤 理文 氏 (公益財団法人日本城郭協会理事)	葵レク
11月5日(土)	オンラインデータベース活用講座 「静岡新聞データベースplus日経テレコン」を上手に使うコツ	樋口 貴子 氏 (株キャリアデザイン代表取締役)	葵レク
11月6日(日)	ロボットプログラミング教室	(株)タミヤ職員	葵レク
10月18日(火)～11月6日(日)	文化の丘スタンプラリー(後日抽選)	ムセイオン静岡	応募総数58通

エ その他 「ブックフェスタしずおか」への協力

令和4年10月1日(土)から10月31日(月)までの期間、“本がひととまちを繋ぐ31日間”をテーマに一般社団法人トリナスが主催した当該イベントに全面協力した。

「ブックフェスタしずおか」は、①東静岡グランシップでのコアイベントの開催、②東部・中部・西部にて本に関するイベント開催、③県内イベントとの連携、④アーカイブとしての書籍の発行、という4つの柱から構成され、県内各地で開催された連携イベントは80件を越えた。また、期間中の延べ参加者数は、約3万人程度とみられる。

(4) 図書館サポーター

ア 登録状況(過去3年)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
読み聞かせ	登録なし	20人	23人
館内サービス	登録なし	2人	2人
環境	登録なし	1人	1人

イ 活動内容

読み聞かせ : 子どもコーナー「どんぐりひろば」における「おはなしかい」の実施など。
館内サービス : 生涯学習等の発表。呈茶や資料紹介ポップ作成等。
環 境 : 生け花や手工芸品の展示による館内装飾など。

ウ 活動実績

読み聞かせ : 子どもコーナー「どんぐりひろば」における「おはなしかい」の実施。
(活動実績p31参照)
館内サービス : 新型コロナウイルス感染症対策として活動を中止した。
環 境 : 新型コロナウイルス感染症対策として活動を中止した。

(5) 職場体験学習等

ア 職場体験学習

(7) 図書館主催

校種	7月26日(火) ～7月27日(水)	8月9日(火) ～8月10日(水)	合計
中学生	5人	1人	6人
高校生	12人	14人	26人
合 計	17人	15人	32人

(4) 個別申込

学校名	5月23日(月) ～5月25日(水)	合計
静岡市立清水第四中学校	2人	2人
合 計	2人	2人

イ インターンシップ(大学生)

受け入れなし。

ウ 社会体験研修(公立高等学校初任者研修(課題研究))

受け入れなし。

エ 施設見学・視察

校種等	校数・団体数	人数(引率者含む)
小 学 校	1	98
中 学 校	2	40
高 等 学 校	2	23
大学・短大	1	5
図書館・県関係者	3	40
合 計	9	206

(6) 図書館広報

ア 静岡県立中央図書館だより(文化の丘)

年2回(9月初旬、2月初旬)発行。当館の事業(サービスや講座など)を広報し、図書館利用の促進を図った。

No. 372（令和4年9月）・No. 373（令和5年2月）発行 各2,000部
配布先：県内教育委員会、県内市町立図書館等

イ 当館ウェブサイトの運用等

一般利用者向けウェブサイトや県内図書館向け「おうだんくんシステム」の各種サービスを滞りなく運用・提供した。

ウ 公式Twitterの運用

令和2年7月からTwitterによる広報を試行し、同年8月1日から本格運用を開始した。令和4年度末現在、投稿数は1,007回、フォロワー数は929アカウントである。

エ 「ヒガナンフェスティバル」への参加

県スポーツ・文化観光部企画政策課が令和4年11月3日（木・祝）にグランシップ芝生広場で実施した東静岡駅南口県有地活用実証実験に参加し、利用者登録や資料貸出のほか、電子図書館や新館移転について積極的な広報を行った。

オ 「おもしろい人に会いたい!!2023 ーしずおかアートプロジェクト見本市ー」への参加

令和5年3月12日（日）に開催されたアーツカウンシルしずおかが主催する当該イベントに参加し、利用者登録や資料貸出のほか、電子図書館や新館移転について積極的な広報を行った。

(7) ムセイオン静岡

ア 趣旨

ムセイオン静岡とは、静岡県立中央図書館、静岡県立大学、静岡県立美術館、静岡県埋蔵文化財センター、静岡県コンベンションアーツセンター“グランシップ”、静岡県舞台芸術センター（SPAC）及びふじのくに地球環境史ミュージアムの7つの教育文化機関による自主協働プログラム。静岡市の谷田の丘陵地帯及びその周辺地域を、本県の文化振興やまちづくりに貢献する地域に発展させるため、平成21年3月に「文化の丘づくり事業推進に関する協定」を締結し、相互に協力して文化を創造し、国内外に発信する活動を展開している。「ムセイオン」は、“Museum”（博物館、美術館）の語源で、「学堂」を意味する。当初は4機関で始まり、平成21年度に2機関、平成28年度に1機関が加わり、現在の7機関となった。

なお、事務局は平成28年度から静岡県立大学が担当していたが、令和4年度からは輪番制となり、令和5年度の事務局は、当館が担当である。

イ 令和4年度事業実績

イベント等

＜共通イベント＞

・「ふじのくに文化の丘フェスタ 2022」（10月18日～11月6日）

(8) 浙江図書館との友好提携

ア 経緯

平成4年、静岡県・浙江省友好提携10周年を機に浙江省から静岡県に図書が寄贈され、寄贈図書は当館に所蔵されている。その後、県内図書館職員等の有志が浙江図書館を訪れ、親交を結んできた。さらに、浙江省からの技術研修員受入れや当館の調査団派遣等を経て、平成21年2月、浙江省教育交流訪日団来静を機に、「静岡県立中央図書館と浙江図書館との友好提携書」を締結。平成21年度以降の図書交換等の交流事業について定めた。

イ 令和4年度の実績

(7) 上記の友好提携に基づく図書交換

寄贈：30冊及び当館刊行物等、受贈：35冊及び逐次刊行物3タイトル（静岡県、浙江省の生活・文化が理解できる写真やイラストが豊富に含まれた資料を中心に交換）

(イ) 受贈図書の「浙江省文庫」への配架

(9) 山梨県立図書館との連携協定

ア 趣旨

富士山の文化振興に貢献するため平成27年6月、「山梨県立図書館と静岡県立中央図書館との富士山関係資料に関する連携協定」を締結。両館で所蔵する富士山関係資料を相互に活用できる環境を整えるとともに、両館の連携により、富士山の自然、文化を情報発信している。また、令和3年6月の期間更新に際して、連携及び協力を通じて両館の発展に資することが目的に加えられた。

イ 令和4年度事業実績

(7) 連携推進協議会

- ・第1回（7月12日 静岡県立中央図書館）
- ・第2回（2月22日 山梨県立図書館）

(イ) 静岡県・山梨県関係資料の相互利用による企画展示

- ・富士山を囲む広域周遊観光ルートの形成『ぐるり！富士山一周』（2月1日～2月27日・静岡県立中央図書館）
- ・富士山を囲む広域周遊観光ルートの形成『ぐるり！富士山一周』（2月17日～3月12日・山梨県立図書館）

(10) 市町立図書館等受取サービス

当館の資料を全県民が活用しやすい環境を整備し、県民の学習活動及び文化の向上に寄与することを目的として、「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」を行っている。

平成27年10月から受取館4館で先行導入し、平成28年6月に受取館を拡大して本格導入に移行をした。以降、順次受取館を拡大している。なお、サービス導入にあわせて貸出カードの郵送申込みを可能にしたほか、令和3年度からはWeb上での利用者登録の申込みも可能にした。

令和4年度利用実績（遠隔地貸出資料数）

区 分	延べ利用者数 (人)	貸出冊数 (冊)	対応時期
伊東市立伊東図書館	145	394	H28.6～
松崎町立図書館	5	18	R4.5～
下田市立図書館	71	234	R2.12～
函南町立図書館	147	584	H27.10～
三島市立図書館	281	1,035	H28.6～
沼津市立図書館	120	522	H28.6～
富士市立中央図書館	93	259	H28.6～
富士宮市立中央図書館	83	303	H27.10～

裾野市立鈴木図書館	59	290	R4. 5～
藤枝市立駅南図書館	308	918	H28. 6～
焼津市立焼津図書館	209	715	R2. 12～
掛川市立中央図書館	190	938	H28. 6～
磐田市立中央図書館	331	1, 091	H27. 10～
袋井市立袋井図書館	105	322	R4. 5～
浜松市立城北図書館	590	2, 336	H27. 10～
湖西市立中央図書館	54	140	R2. 12～
県総合教育センター図書室	17	54	H28. 6～
静岡県庁(県民サービスセンター)	197	546	R3. 4～
合 計	3, 005	10, 699	

(11) 図書館DX

ア 貸出カード（バーコード）のスマートフォン表示

当館Webのマイライブラリーにログインすることにより、貸出カードのバーコードをスマートフォン等に表示して、貸出時等に利用することができる。令和3年9月1日に開始した。令和4年度のバーコード表示回数は4, 101回である。

イ 利用者登録等Web申込

利用者登録の手続きをWeb上で完結することができる。令和3年10月1日に開始した。令和4年度は静岡県内各学校（小中学校を除く）に在籍している生徒を対象に、クラス単位、学年単位または学校単位での申込みの募集を行い、申込みのあった3校について一括登録を実施した（Webによる登録者数p20参照）。

ウ 電子図書館

当館に登録している利用者であれば、当館Webのマイライブラリーで電子書籍を閲覧することができる。令和3年10月1日に開始した（電子図書館利用状況p22、電子書籍数p25参照）。

エ 市町発行PDFファイル自動収集（クローリング）

静岡県内各市町が発行し、ホームページで公開しているPDFファイルについて、クローリング技術を用いて全収集を行う（トップページ以下5階層までのページにリンクされているPDFファイルに限る）。令和4年3月に収集を開始した。令和4年度末時点の収集実績は512, 862件である。

令和4年度「静岡県立中央図書館アンケート」集計結果 実施：令和4年11月1日(火)～11月30日(水) 有効回答数：150

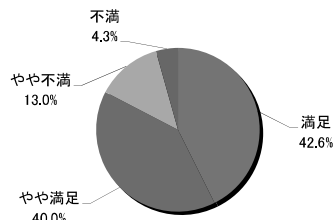
※比率(%)の合計は、端数処理のため合わないことがあります。

うち、当館のサービスを利用したことがある：121

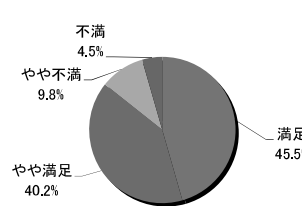
【質問1】当館の満足度

質問	満足	やや満足	やや不満	不満	合計	満足+やや満足	対R3比	令和3年度	令和2年度
(1) 開館日や開館時間の設定	49	46	15	5	115	82.6%	-1.0%	83.6%	85.1%
	42.6%	40.0%	13.0%	4.3%	100.0%				
(2) 読書・調べもの・勉強スペース	51	45	11	5	112	85.7%	9.0%	76.7%	92.8%
	45.5%	40.2%	9.8%	4.5%	100.0%				
(3) 職員の対応や知識	63	42	5	1	111	94.6%	2.2%	92.4%	96.9%
	56.8%	37.8%	4.5%	0.9%	100.0%				
(4) 来館(利用)目的の達成度	50	54	9	2	115	90.5%	4.3%	86.2%	94.7%
	43.5%	47.0%	7.8%	1.7%	100.0%				
(5) 総合的な満足度	46	54	13	3	116	86.3%	2.3%	83.9%	90.8%
	39.7%	46.6%	11.2%	2.6%	100.0%				
平均						87.9%	3.4%	84.6%	92.1%

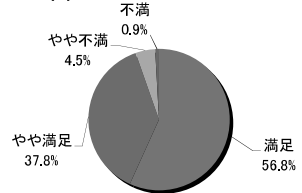
(1) 開館日や開館時間の設定



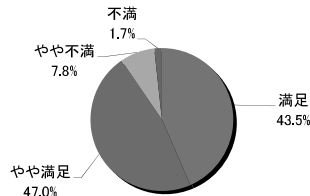
(2) 読書・調べもの・勉強スペース



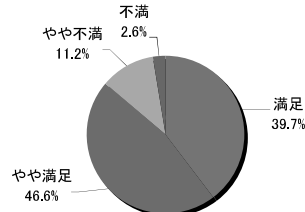
(3) 職員の対応や業務知識



(4) 本日の来館目的の達成度

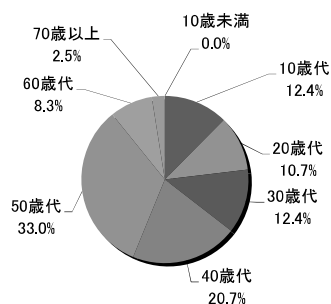


(5) 総合的な満足度



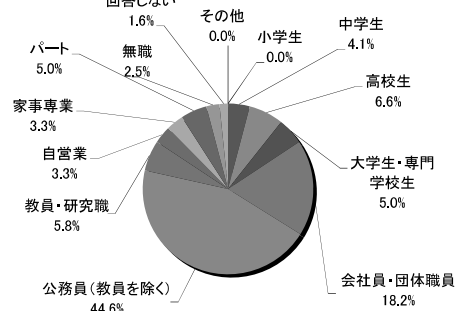
【質問2】アンケート回答者について

年齢



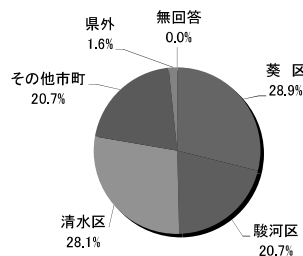
項目	回答数	割合	対R3比	令和3年度	令和2年度
10歳未満	0	0.00%	0.0%	0.0%	0.5%
10歳代	15	12.4%	10.7%	1.7%	12.2%
20歳代	13	10.7%	-7.3%	18.0%	12.6%
30歳代	15	12.4%	-0.6%	13.0%	8.0%
40歳代	25	20.7%	-4.3%	25.0%	15.0%
50歳代	40	33.0%	-2.3%	35.3%	15.5%
60歳代	10	8.3%	2.0%	6.3%	16.0%
70歳以上	3	2.5%	1.8%	0.7%	20.2%
合計	121	100.0%			

職業



項目	回答数	割合	対R3比	令和3年度	令和2年度
小学生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
中学生	5	4.1%	4.1%	0.0%	3.8%
高校生	8	6.6%	5.3%	1.3%	5.2%
大学生・専門学校生	6	5.0%	2.3%	2.7%	11.7%
会社員・団体職員	22	18.2%	-34.5%	52.7%	29.6%
公務員(教員を除く)	54	44.6%	11.9%	32.7%	3.3%
教員・研究職	7	5.8%	3.6%	2.7%	4.2%
自営業	4	3.3%	0.5%	0.3%	6.1%
家事専業	4	3.3%	0.5%	0.3%	6.1%
パート	6	5.0%	3.2%	2.3%	4.2%
無職	3	2.5%	3.6%	2.7%	22.5%
回答しない	2	1.6%	1.6%	0.0%	3.3%
その他	0	0.0%	-2.3%	2.3%	0.0%
合計	121	100.0%			

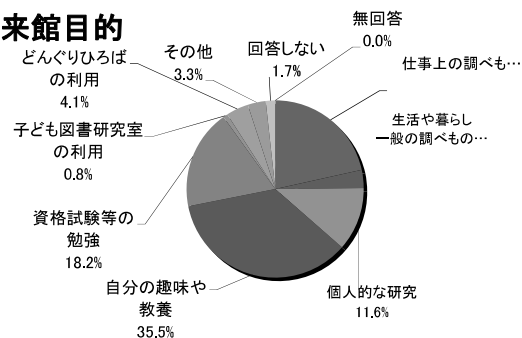
住所



項目	回答数	割合	対R3比	令和3年度	令和2年度
静岡市 計	94	77.7%	-4.3%	82.0%	89.7%
葵 区	35	(28.9%)	-6.3%	35.2%	25.4%
駿河区	25	(20.7%)	-4.6%	25.3%	27.7%
清水区	34	(28.1%)	6.6%	21.5%	36.6%
その他市町	25	20.7%	3.1%	17.6%	8.0%
県外	2	1.6%	1.2%	0.4%	新規
無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%
合計	121	100.0%			

【質問3】当館に期待すること等について

来館目的

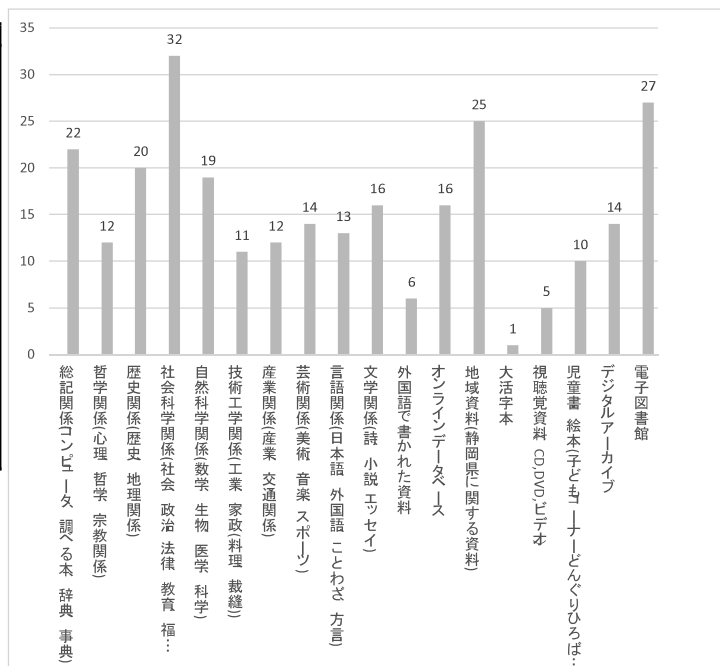


項目	回答数	割合	対R3比	令和3年度	令和2年度
仕事上の調べもの	26	21.5%	-1.5%	23.0%	23.0%
生活や暮らし一般の調べもの	4	3.3%	-3.7%	7.0%	5.6%
個人的な研究	14	11.6%	1.2%	10.4%	13.2%
自分の趣味や教養	43	35.5%	-0.5%	36.0%	22.1%
資格試験等の勉強	22	18.2%	6.5%	11.7%	23.9%
子ども図書研究室の利用	1	0.8%	-1.9%	2.7%	0.0%
どんぐりひろばの利用	5	4.1%	3.4%	0.7%	4.7%
その他	4	3.3%	-5.4%	8.7%	2.8%
回答しない	2	1.7%		新規	
無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%	4.7%
合計	121	100.0%			

充実を望む資料

項目	回答数	割合
総記関係(コンピュータ、調べる本、辞典、事典)	22	8.0%
哲学関係(心理、哲学、宗教関係)	12	4.4%
歴史関係(歴史、地理関係)	20	7.3%
社会科学関係(社会、政治・法律、教育、福祉、習俗)	32	11.6%
自然科学関係(数学、生物、医学、科学)	19	6.9%
技術工学関係(工業、家政(料理、裁縫))	11	4.0%
産業関係(産業、交通関係)	12	4.4%
芸術関係(美術、音楽、スポーツ)	14	5.1%
言語関係(日本語、外国語、ことわざ、方言)	13	4.7%
文学関係(詩、小説、エッセイ)	16	5.8%
外国語で書かれた資料	6	2.2%
オンラインデータベース	16	5.8%
地域資料(静岡県に関する資料)	25	9.1%
大活字本	1	0.4%
視聴覚資料(CD,DVD,ビデオ)	5	1.8%
児童書・絵本(子どもコーナーどんぐりひろばの資料)	10	3.6%
デジタルアーカイブ	14	5.1%
電子図書館	27	9.8%
その他	0	0.0%
合計	275	100.0%

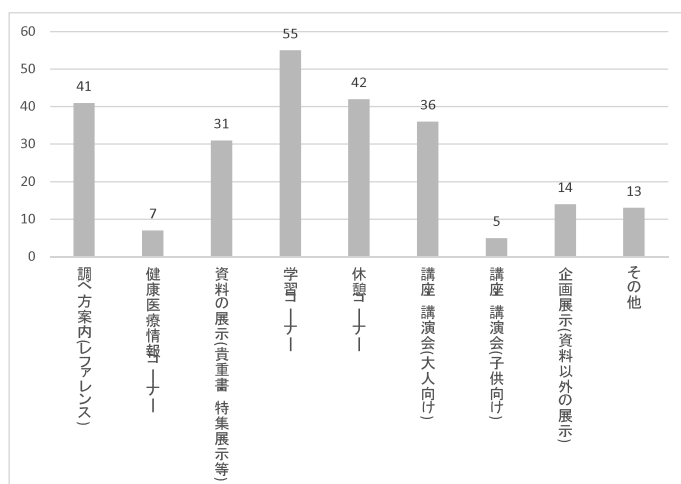
(3つまで選択)



サービスの充実

項目	回答数	割合
調べ方案内(レファレンス)	41	16.8%
健康医療情報コーナー	7	2.9%
資料の展示(貴重書・特集展示等)	31	12.7%
学習コーナー	55	22.5%
休憩コーナー	42	17.2%
講座・講演会(大人向け)	36	14.8%
講座・講演会(子供向け)	5	2.1%
企画展示(資料以外の展示)	14	5.7%
その他	13	5.3%
合計	244	100.0%

(3つまで選択)



＜当館が役に立ったこと、評価できる点＞ ※一部抜粋・省略有

- ・蔵書が豊富で、借りたい本がインターネットで予約でき、最寄りの図書館で受け取れることが大変便利。利用し始めたきっかけになった
- ・電子図書館がたいへん役立っている。通勤中、入浴中などの隙間時間での読書の機会が広がった
- ・住んでいる市の市立図書館の蔵書とは異なる学術専門書を目にすることができ、個人的な研究に役立っている
- ・資格取得のため、専門書をお借りしました。近所の書店には無い品揃えで、大変助かった
- ・勉強するスペースもあってありがたい
- ・目の前に広場もあり、子育て中の我が家にとっては、ありがたい場所だと考えている
- ・仕事で使う専門雑誌の閲覧をさせてもらい、とても助かった
- ・遠方在住のため、来館しなくても可能な郵送複写やデジタル資料の利用ができるのは大変ありがたい。対応した図書館員さんも大変親切だった。感謝している
- ・わざわざ貴館に出向がなくとも、必要な書籍の貸し出し返却ができる点がとても助かる
- ・学習室が明るく気持ち良い。学習に集中できる
- ・平日に利用することが多いので、先日おこなっていただいた健康講演会は参加することができ良かった
- ・「おうだんくんサーチ」はすばらしい。簡単に県内図書を総ざらいできるので、探し物があるときのポータルで使っている
- ・貸出期間が3週間あるのがありがたい
- ・最寄りの地域の公立図書館にない書籍が所蔵されている
- ・自習室に、利用時間制限がない点、席が自由に選べる点がいい
- ・図書館の場所柄 散歩している人がたくさんいる。講座、講演等やっていただくと散歩の楽しみが増える
- ・市立図書館より貸出期間が長いので余裕を持って読書できるところが助かる
- ・蔵書が豊富
- ・短時間のみ使用できる1階側にある駐車場や、美術館と共用の大型駐車場があるのが本当に助かっている
- ・PC専用席とWifi、PCのみ電源使用できることが早くから整っており、調べものと学習とPCを使う作業ができ大変ありがたい
- ・職員の方が親切に対応してくれた
- ・関心のあることについて調べることができとても便利にしている
- ・静かで読書や学習に集中できる環境が素晴らしいと思う
- ・静岡県内は、勉強できる場所が本当に少ないので、中央図書館の席数が多いのは助かる
- ・専門書が充実している
- ・レファレンスが活用し易い
- ・スタッフの対応が丁寧
- ・閲覧室が静か
- ・資料が充実していて、職員のレベルが高く、キレイに排架されているのが素晴らしい

上記のほかに、多くの貴重なご意見をいただきました。
いただいたご意見は当館のサービスをより良いものとしていくため、今後の参考にさせていただきます。

☆☆ご協力ありがとうございました☆☆

9 振興班

(1) 市町立図書館振興

ア 市町立図書館運営の支援・協力

(7) 市町立図書館運営の支援

a 図書館活動振興に関わる運営相談

市町立図書館等からの運営等に関する様々な問合せに対して、図書館活動の振興の面から助言や情報提供を行った。質問の受付手段は特に限定していないが、協力車による訪問時や電話が多い。

令和4年度はコロナ対策に関する相談が減り、通常の図書館運営に関する問合せが中心となったため、令和2年2月から継続していた市町立図書館のサービス提供状況の提供を、10月をもって終了した。

また、新型コロナウイルス感染症拡大状況や悪天候による協力車訪問の中止が増加していることからオンライン運営相談(Zoom)を試行した。令和4年8、10、11月の3回実施し、各館に広報も行ったが、いずれも参加する館はなかった。

加えて、今年度から「公立図書館(室)への照会・回答」を開始した。第1回は9件、第2回は14件の照会があった。

なお、令和4年度の全相談件数は368件だった。

b 図書館未設置町への支援

静岡県内唯一の図書館未設置自治体である川根本町に対して支援を行っている。

令和4年度は9月29日に川根本町文化会館図書室を訪問する予定であったが、台風15号の影響により川根本町までの道路が一部被災したため、オンライン(Zoom)により運営相談に対応した。令和5年1月27日には川根本町教育長及び社会教育課長に面会し、図書館類縁機関と条例設置図書館との比較について重点的に説明を行うとともに、図書館設置に関する町の状況を伺った。

(i) 協力車の定期運行による資料・情報の提供等

協力車事業では、市町立図書館等に年8回訪問する協力車の定期運行(8コース、協力車事業の統計 p59~60 参照)と、年に一度の地域館・分館訪問40館(定期運行に併せた訪問館と8コース(10日間))及び宅配による資料の搬送を実施した。

協力車の定期運行では、運営に関連する相談への対応や情報交換、資料の提供及び事務連絡等を実施することで、各館との連携を図った。

(u) 参考資料・二次資料の作成と提供

『図書館協力ハンドブック PLUM2022』、『令和4年度静岡県の図書館』を発行した。

イ 職員研修(別項一覧表 p45~47 参照)

ウ 図書館活動の振興・奨励

(7) 静岡県図書館大会(令和4年度静岡県図書館大会 p60~62 参照)

(i) 読書活動の広報

(u) 読み聞かせグループ活動との連携

(2) 関係団体との連携

ア 大学・専門図書館との連携

協力貸出の搬送(宅配)を実施するとともに、一部の大学・専門図書館と県内市町立図書館との間で、県立が送料を負担した相互貸借サービスも継続して実施した。(静岡大学附属図書館、静岡県男女共同参画センター図書室、静岡県総合教育センター図書室、静岡県議会図書室、静岡県立大学附属図書館、静岡県立大学短期大学部附属図書館・静岡県立大学附属図書館小鹿図書館)

イ 静岡県図書館協会

県内図書館の連携を図り、情報交換するとともに図書館の振興を図った。

(7) 静岡県図書館大会運営委員会

加盟館（室）等から募集した委員が講師との交渉や図書館大会当日の運営等の業務に当たった。

(4) 調査研究委員会

県内図書館の抱える課題について調査研究を行うため、加盟館（室）から委員を募集した。令和4・5年度は読書バリアフリー法への対応について研究を行うこととなり、令和4年度は県内図書館にむけた通信を3回発行した。

(ウ) 職員研修（別項一覧表 p45～47 参照）

(エ) 『静岡県図書館協会加盟館職員名簿』の発行

(オ) 『静岡県図書館協会 会報』（80・81号）発行

(カ) 表彰

図書館に永く勤務した職員や、図書館協議会委員に対して、その功績を称え表彰を行った。賞状は受賞者に送付し、図書館大会で所属及び氏名を紹介した。

ウ 静岡県読書推進運動協議会

県内優良読書グループを表彰するなど、県民の読書活動の推進を図った。

(7) 優良読書グループ表彰

（公社）読書推進運動協議会長賞及び静岡県読書推進運動協議会長賞について、静岡県図書館大会で表彰式を行った。

(4) 「静岡県 読書活動だより」の発行

(ウ) 「静岡県読み聞かせネットワーク全体研修会」の共催

10月29日に全体研修会「耳をすます～子どもと本の架け橋として～」を当館を会場に開催した。

(エ) 夏休み子ども図書ウィークの協賛

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定員を少なくして実施したが、3年ぶりに5つの教室（「親子ドローン体験教室」「ユニバーサルデザイン絵本手作り教室」「折り紙遊び教室」「プログラミング教室」「親子グラフ教室」）を開催した。

エ 静岡県読み聞かせネットワーク

事務局の連絡先として、問合せに対する案内や情報交換等を行った。

また、10月29日に全体研修会「耳をすます～子どもと本の架け橋として～」を当館を会場に開催した。講師の斎藤惇夫氏からは、幼少期から本に親しむことの大切さや、子どもと本を結ぶ手立てなどについてお話を伺った。（参加者 81人）

(3) 協力車事業

ア 令和4年度訪問館数（年8回の訪問・休止月（4、8、10、11月）あり）（単位：館）

市立図書館（中央館）	市立図書館（分館）	町立図書館	専門図書館	合計
23	1	11	1	36

イ 令和4年度協力車運行状況

コース名	訪問館数	訪問回数	コース名	訪問館数	訪問回数
東 遠	4 館	8 回	駿 豆	4 館	8 回
岳 駿	4 館	8 回	伊 豆	8 館	8 回
中 部	4 館	8 回	東 部	4 館	8 回
西 遠	3 館	8 回	中 遠	5 館	8 回
合 計		64 回（延べ日数 72 日）			

ウ 令和4年度市内巡回運行状況 (単位：回)

訪 問 館	訪問回数
静岡県議会図書室	50
静岡県立大学附属図書館	50
静岡県立大学短期大学部附属図書館 静岡県立大学附属図書館小鹿図書館	25
静岡県男女共同参画センター図書室	50
静岡大学附属図書館	26

エ 協力車巡回と宅配による資料搬送数 (過去3年)

(7) 県立資料搬送数 (単位：点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
市立図書館	9,986	10,630	10,298
町立図書館	1,376	1,384	1,354
その他	1,414	1,328	1,322
合計	12,776	13,342	12,974

(イ) 市町等資料搬送数 (単位：点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
市立図書館	32,764	35,942	34,538
町立図書館	4,562	5,322	4,750
その他	1,576	1,432	1,152
合計	38,902	42,696	40,440

(ウ) 県立個人貸出資料の市町図書館等窓口返却資料搬送数 (単位：点)

各窓口	令和2年度	令和3年度	令和4年度	開始日
市町立図書館	3,330	3,496	2,989	H11. 5. 1
総合教育センター“あすなろ”	99	76	77	H11. 5. 1
県民サービスセンター(返却ポスト)※1	838	877	800	H11. 11. 1
男女共同参画センター“あざれあ”	484	297	393	H13. 2. 15
グランシップ(返却ポスト)※2	2,447	1,923	1,434	H14. 8. 13
静岡大学	463	465	338	H18. 4. 1
静岡県立大学短期大学部附属図書館 静岡県立大学附属図書館小鹿図書館	34	39	10	H31. 4. 1
合 計	7,695	7,173	6,041	

※1 県民サービスセンターの返却ポストを令和3年12月に廃止し、窓口返却に変更した。

※2 令和2年9月にグランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」が閉室したため、窓口返却を廃止し、返却ポストのみに変更した。

(4) 令和4年度 静岡県図書館大会

コロナ禍により令和2年度大会は中止、令和3年度大会はオンライン開催であったが、3年ぶりにグランシップで開催した。開催に当たっては、間隔を空けて座席を指定し、会場ごとに消毒液を準備するなど感染症対策に留意した。なお、第5分科会(大学図書館)はオンライン開催とした。

また、2月10日から3月10日までの間、視聴申込みによりYouTube 限定配信を行った(累計閲覧回数355回、第2分科会を除く、第3分科会の配信期間は2月20日から3月17日)。

ア 会期・会場

令和4年11月21日(月)9:45～15:45 グランシップ中ホールほか (参加者667人)
令和4年11月28日(月)13:30～15:30 オンライン (Zoom) (参加者32人)

総参加者数 699人

イ 講演

テーマ	「図書館職員の意識からサービス向上を考える」
講 師	内野 安彦 氏 (元茨城県鹿嶋市・元長野県塩尻市立図書館長、古書店「雀羅書房」店主)

ウ 分科会

第1分科会	図書館サービス (参加者 132 人) 「図書館のSNS活用 ～利用者に興味を持ってもらえる、図書館にとってベストな広報とは?～」 講 師 佐藤 翔 氏 (同志社大学免許資格課程センター准教授)
第2分科会	大人の読書活動 (参加者 199 人) 「一つの作品ができるまで～文芸編集者の作家伴走法～」 講 師 中瀬 ゆかり 氏 (株式会社新潮社出版部部長)
第3分科会	幼児・児童に対するサービス (参加者 196 人) 「科学絵本は楽しい! 「かがくのとも」の作り方」 講 師 山形 昌也 氏 (福音館書店書籍編集部長)
第4分科会	学校図書館 (参加者 98 人) 「本の読み方を学ぼう～点検読書をやってみよう～」 講 師 木下 通子 氏 (埼玉県立浦和第一女子高等学校 担当部長兼主任司書)
第5分科会	大学図書館 (参加者 32 人) 「大学図書館の継続的サービス提供～勤務体制に左右されない環境構築～」 講 師 山下 大輔 氏 (EBSCO Information Services Japan 株式会社 Director, SaaS Innovation for Japan) 坂本 里栄 氏 (西南学院大学図書情報課)

(5) 表彰(敬称略・関係団体の表彰も含む)

全国公共図書館協議会表彰			
鈴木 貴子	(富士宮市立西富士図書館)	浅井 勝巳	(吉田町立図書館)
山本 敬子	(島田市立図書館協議会)		
静岡県図書館協会表彰			
鈴木 由美	(静岡県立中央図書館)	山下 智子	(静岡市立西奈図書館)
菅藤 悦子	(三島市立図書館)	森下 早織	(静岡市立長田図書館)
中田 純子	(三島市立図書館中郷分館)	富山 瑞枝	(静岡市立長田図書館)
笠井 友紀	(富士宮市立中央図書館)	守屋 綾子	(焼津市立大井川図書館)
坂本 信代	(富士宮市立芝川図書館)	熊谷 成子	(島田市立図書館協議会)
岩瀬 敦美	(静岡市立中央図書館)	山田 千尋	(島田市立島田図書館)
宮城 久美子	(静岡市立中央図書館)	小久江 暁子	(袋井市立袋井図書館)
高木 倫世	(静岡市立中央図書館)		

優良読書グループ表彰		
・（公社）読書推進運動協議会長賞		
音読グループ「つくし」	（函南町）	
・静岡県読書推進運動協議会長賞		
原里中学校読み聞かせボランティア	（御殿場市）	
あさはたお話の会	（静岡市）	
さくらんぼ	（島田市）	
お話しどんぐり	（川根本町）	
「読書県しずおか」づくり優秀実践校・団体（者）表彰		
表彰式：令和４年１１月１６日（水） 静岡県庁（静岡県教育委員会教育長室）		
・小学校の部	下田市立大賀茂小学校	
・中学校の部	牧之原市立榛原中学校	
・高等学校の部	静岡県立浜名高等学校	
・特別支援学校の部	静岡県立浜名特別支援学校	
・団体（者）の部	音読グループ「つくし」（函南町）	西奈おはなしはらっぱ（静岡市）

10 総務班

(1) 図書館協議会

ア 委員

任期1：令和2年8月1日から令和4年7月31日まで

任期2：令和4年8月1日から令和6年7月31日まで

職 名	氏 名	任期1	任期2	現 職
会 長	轟木堅一郎	○	○	静岡県立大学附属図書館長 (静岡県立大学教授)
副会長 R4.3.31 退任	松浦 恭子	○		静岡県教育研究会学校図書館研究部長 (静岡市立美和小学校長)
副会長 R4.6.8 就任	澤本 由美	○ R4.4.21 就任	○	静岡県教育研究会学校図書館研究部長 (静岡市立大河内小中学校長)
委 員	内山 淳子	○	○	東伊豆町立図書館長
委 員	庄田 達哉	○	○	株式会社静岡新聞社編集局出版部
委 員	杉山 綾菜	○		常葉大学教育学部障害学習学科生涯学習専攻4年
委 員	鈴木 千明	○	○	磐田市立富士見小学校・城山中学校 図書館ボランティア 読み聞かせボランティア
委 員	鈴木 真澄	○	○	静岡県家庭教育支援員 県PTAサポーターズ事務局長
委 員	松村 啓至	○		磐田市教育委員会教育長
委 員	山崎 克巳	○	○	障害者相談支援センターピロス相談支援専門員 静岡県車いす友の会役員 ふじのくにユニバーサルデザイン推進委員会委員
委 員	吉見光太郎	○	○	静岡県書店商業組合理事長 株式会社吉見書店代表取締役 静岡教科書株式会社常務取締役
委 員	奥村 篤		○	沼津市教育委員会教育長
委 員	平松 栞		○	静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学科専攻2年

イ 協議会

(7) 第1回

日 時：令和4年6月8日（水）午後1時30分～午後4時

出席者：委員9人（うち2名オンライン参加） 会議室

- 議 事：1 県立中央図書館の状況及び令和4年度主要施策について
2 令和4年度各班等重点取組について
3 新県立中央図書館整備について
4 その他

(4) 第2回

日 時：令和5年2月16日（木）午後1時30分～午後4時

場 所：静岡県立中央図書館 会議室

出席者：委員8人（うち1名オンライン参加）

- 議 事：1 県立中央図書館の状況について
 2 令和4年度主要施策・重点取組の評価について
 3 令和5年度の基本方針と主要施策について
 4 新県立中央図書館の整備について

(2) 施設設備の維持管理

ア 資料棟

(7) 電気設備通信工事

閲覧室・事務室・会議室等の Free Wifi のアクセスポイントを追加設置し、通信環境を改善した。

(4) 閲覧室天井塗装修繕

閲覧室明かり取り天井塗装修繕。雨漏り対応をした。

イ インフォメーション棟

(7) 漏水補修

ブラウジングエリアにおける給水管老朽化による漏水が確認された箇所の補修を行った。

(3) 施設利用状況

ア 令和4年度 各施設の外部利用人数（展示室は貸出日数）

	講 堂	会議室	中集会室	小集会室 A	小集会室 B	合 計 (人)	展示室 (日)
上半期	147	210	107	132	111	707	183
下半期	170	285	123	96	89	763	182
合 計	317	495	230	228	200	1,470	365

※展示室は埋蔵文化財センターによる常設展示を継続して実施（4/1～3/31）

イ 新型コロナウイルス感染症対策に伴う対応

- ・感染防止対策として、令和4年6月30日まで下記の表のとおり定員の1/2で利用を制限。
- ・他県からの利用申込については、感染状況により利用をお断りした。
- ・講堂については、座席の間隔が狭いため、定員を50人とする。

	講 堂	会議室	中集会室	小集会室 A	小集会室 B
定員	276 人	120 人	50 人	30 人	20 人
1/2	50 (138 人)	60 人	25 人	15 人	10 人

- ・令和4年7月1日から下記の表のとおり利用制限していた。

	講 堂	会議室	中集会室	小集会室 A	小集会室 B
本来の定員	276 人	120 人	50 人	30 人	20 人
大声なし	138 人	80 人	34 人	22 人	20 人
大声あり	50 人	60 人	25 人	15 人	10 人

- ・令和5年2月10日（金）の申し込み分から、1月27日付で変更された、新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針に伴い、会議室等の利用制限を撤廃した。

11 健康医療情報サービス

当館では平成23年7月に健康医療情報コーナーを開設し、健康医療情報サービスを開始した。5～6人で構成される館内組織横断型の委員会を設置し、事業にあたっている。令和4年度は、静岡県看護協会の「まちの保健室」実施や健康医療情報講座の開催に加え、出張図書館を行い、利用者に健康医療情報を届ける役割を果たした。

(1) サービス内容

ア 健康医療情報コーナー

(ア) 内容

- ・参考図書（辞書事典類）
- ・ヘルスリテラシー関連資料（ナラティブ関連資料を含む）
- ・入門書・図解シリーズ
- ・健康医療情報関係雑誌 10誌
- ・特集展示（月ごとのテーマ展示）関連資料の展示・資料リスト配布

(イ) 特集展示のテーマ一覧

月	テーマタイトル	月	テーマタイトル
4～5月	遺伝	10～11月	栄養と健康
6～7月	子どもの健康	12～1月	冬に流行る感染症と免疫
8～9月	夏の健康	2～3月	救命救急

イ オンラインデータベース

- ・医中誌Web [特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会]
国内発行の医学・歯学・薬学・看護学・心理学及び関連分野（スポーツ医学・獣医学など）の定期刊行物、延べ約7,000誌から収録した約1,300万件の論文情報を検索できる。
- ・ヨミドクター [読売新聞社]
読売新聞の医療・介護・健康情報サイト。医療大全、病院の実力、医療相談室、介護シニアなどのコンテンツがあり、様々な記事が掲載されている。
- ・JDreamIII検索サービス [株式会社ジーサーチ]
国内外の科学技術や医学薬学関係の文献情報を検索できる日本最大級の科学技術文献データベースである。約7,000万件の文献情報を検索できる。

(2) 関連事業

ア 健康医療情報講演会

演題：「応急手当を学ぶ -緊急時における救急救命対応方法-

講師：駿河消防署（静岡市駿河消防署東豊田出張所）3名

実施日：令和5年2月18日（土）14:00～16:00 参加人数：18人

イ 出張図書館

県立図書館が所蔵する健康医療に関する資料の展示、新規利用者登録、貸出処理等

- ・「第27回静岡健康・長寿学術フォーラム」での出張図書館

実施日：令和4年10月21日（金）10:30～16:00

会場：グランシップ11階

ウ 外部機関との共催事業など

- ・まちの保健室（県看護協会による健康相談会及び健康講座）

実施日：令和4年11月25日（金） 参加人数：健康相談：9人／健康講座：16人

12 歴史文化情報センター（地域調査班）

(1) 県史編さん資料の保存・整理・公開

ア 保存・整理

当センターは『静岡県史』編さん事業の過程で集められた県内外の古文書類等の複製資料や明治以降の県内発行新聞各紙など約 16 万点以上の資料と他県史・県内市町村史を中心とする刊本を保管している。現在、保管する古文書資料等の目録作成及びデータベースへの登録を継続して行っている。

イ 公開

刊本・新聞は閲覧できるが、貸出はしていない。古文書類については、目録作成が終了したものから原所蔵者に対し順次資料利用公開の許可申請を行い、公開許可の回答が得られたもののみを公開している。

また、ウェブでの公開許可が得られた資料については平成 20 年 4 月から目録公開を開始した。平成 22 年 5 月の新システム稼働に伴い、所蔵者から公開許可をいただいている資料の画像登録と公開も新たに始め、情報発信を充実させた。

令和 4 年度も引き続き古文書目録及び画像資料をウェブ公開した。また、布達及び新聞紙情報の目録も公開している。

(2) 利用状況

令和 4 年度当センターの開館日数は 239 日、来所者人数 176 人、利用内訳は新聞閲覧点数 25 件（134 点）、古文書閲覧点数 66 件（938 点）、複写申請 87 件（955 点）、資料掲載等許可申請 34 件（42 点）、レファレンス 143 件であった。

レファレンスの内訳は以下のとおりである。

ア レファレンス受付方法

方法	割合(%)
電話	48.25
来室	27.97
その他	23.78

イ レファレンス内容

内容	割合(%)
県史の内容等	6.29
歴史・民俗について	32.87
資料利用について	40.56
その他	20.28

ウ レファレンス対象

対象	割合(%)
一般(県内)	28.67
一般(県外)	6.29
県庁内	11.89
研究者・学生	32.17
自治体	10.49
新聞社・出版社等	3.50
その他	6.99

13 資料紹介 近年整理完了の^{ふたつ}布達資料について

歴史文化情報センター

布達資料とは

静岡県歴史文化情報センター架蔵の資料群として布達資料が挙げられる。かつて県史編さん室近現代部会が調査・収集した明治時代以降の各県布達・公報を資料カードや高感度塩化臭化剤印画紙（Chlorobromide Highsensitive：CH）に複写し、ケースファイルに保管したものである。廃藩置県以降の活字印刷物が大部分であるが、明治政府の布告等が書写された幕末維新期に及ぶ村方文書も少なからず含まれる。

平成 27（2015）年より県史編さん収集資料検索システムへのデータ入力が始まり、令和 5 年 3 月現在、265 ケース・15,231 件の布達資料が同システムにアップロード済みである。特に、明治 9（1876）年以前の布達資料は、静岡県立中央図書館の官報コーナーに架蔵されている「静岡県令達等綴」（明治 9～40 年、請求記号 S320/98）を補完する資料として注目される。

当センターにおける『横須賀惣庄屋覚帳』空白部分「発見」

平成 31（2019）年春、筆者は背部に「fog1 御用留（慶応 4 年）掛川郡政役所」と記された B5 判ケースファイルの整理に着手した。‘fog’とは「布達 御触書・御用留」の頭文字を取ったケース番号のシリーズで、郡政役所の記載から維新後、徳川宗家の駿遠移封で成立した府中藩時代の中遠地域に関わる古文書と目されたが、当初は出所不明の資料として取り組まざるを得なかった。一方、前年、利用者の求めに応じて当センター架蔵の冊子体資料である『横須賀惣庄屋覚帳』の出納を行っていたところ、各冊子中、特に後末冊子に散見される地名、人名その他内容の一部が fog1 と共通することに気付いた。

『横須賀惣庄屋覚帳』の原本は旧大須賀町教育委員会を経て現在掛川市が所蔵しており、同市の指定文化財である。当センターでは原本 44 冊のうち 37 冊を CH 複製本で所蔵し、同市よりセンター内及びインターネット上での公開許可を頂いている（静岡県歴史文化情報センター 2007：p. 94）。これら 37 冊の終末部分である当センター請求番号 55001-yk36・37 を確認すると、yk36 の記事年月日は慶応 3（1867）年 8 月 4 日～同 4 年 3 月 29 日、yk37 のそれは慶応 4（1868）年 8 月 16 日～明治 2（1869）年 9 月 28 日に及ぶ。つまり、これら 2 冊の間に慶応 4 年 4～7 月の 4 か月間の空白期間が存在する。あらためて fog1 の記事年月日を見てみると、慶応 4 年 3 月に始まり、同（明治元）年 12 月で終わっている。よって、内容の共通性・連続性からも fog1 が yk36・yk37 間の空白を埋める『横須賀惣庄屋覚帳』の一部であることが判明した。その後、ケースファイル背部に「掛川郡政役所」と記された fog2～8 中の CH 文書も全て、平成 20（2008）年 4 月時点では当センターに複写物が存在しないと考えられていた、当センター未製本の『横須賀惣庄屋覚帳』の一部であった。現在、これら計 8 冊のケースファイルに家番号 55001 を付し、掛川市の許可を頂いた上で県史編さん収集資料検索システムにて公開している（写真 1）。



写真 1 fog1～8 ケース収納状況

横須賀藩の終焉と横須賀城下町方の人々

布達資料 55001-fog1～8 がカバーする時期は慶応 4 年 3 月～明

治6（1873）年2月である。この間、人口約2,500人を数える横須賀城下町方（清水2006：p.54）の支配は横須賀藩から府中（静岡）藩、静岡藩から静岡県、静岡県から浜松県へと目まぐるしく交替したが、町方の人々にとって最も衝撃的な事件は徳川宗家駿遠入封に伴う領主西尾氏の転封、すなわち2世紀近く続いた西尾家横須賀藩の消滅であろう。その驚天動地の顛末が請求番号55001-fog1-96に記録されている。

明治元年9月9日、明治改元の翌日「御下ヶ相成候御書付」の写しで始まるfog1-96によると、藩主西尾^{にしのおきのかみただあつ}隠岐守忠篤が所領上地を仰せ付けられ、横須賀城下は「上下動揺一ト通りならず」となり、惣町12町の庄屋全員が集会の上、取り敢えず殿様の御安全のため神仏に祈願し、惣町全戸稼業を休みにした（写真2）。この頃、明治天皇御親臨（東京行幸）の御道調べとして公家の五辻^{いつつじだんじょうだいひつやすな}弾正大弼安仲と下野高德藩主の戸田大和守忠至^{とだやまのかみただゆき}が袋井宿に到着したため、横須賀領の在方（村方）惣代13人・町方惣代庄屋3人が両名の泊所に罷り出、藩主転封を取り下げて欲しい旨の歎願書を提出した。

城東郡を中心に横須賀領の3/4超に上る86か村並びに横須賀城下惣町12町・侍町・足軽町の役人が連印した歎願書の大意は以下のとおりである。藩主西尾家は「二百年来代々不相替格別之御仁政」を領民に施し、「御一新二付一藩中勤王之赤心勸励仕」るにもかかわらず上地所替が仰せ付けられ、領民は「親子之愛情離絶同様ニ而一同流涕之外無之」、せめて「領主隠岐守横須賀城ニ永住被 仰付」たく「偏ニ奉願上候」であった。

歎願書の町役人連印には惣町12町の組頭・庄屋計23名（東田町組頭は名前欠落）に続いて末尾に石津町組頭平左衛門の名が記載されている。石津町は横須賀城下町に編入されてはいたものの、資料によっては石津村とも表記され、庄屋を輩出せず、通常は横須賀城下町政の運営に参画していなかった。それゆえ、惣町12町に数えられていない（清水2006：pp.56-57）ことがここでも確認されるが、裏を返せば、歎願書に石津町の組頭も印判していること自体が当該事件の重大性を物語っているとも言えよう。

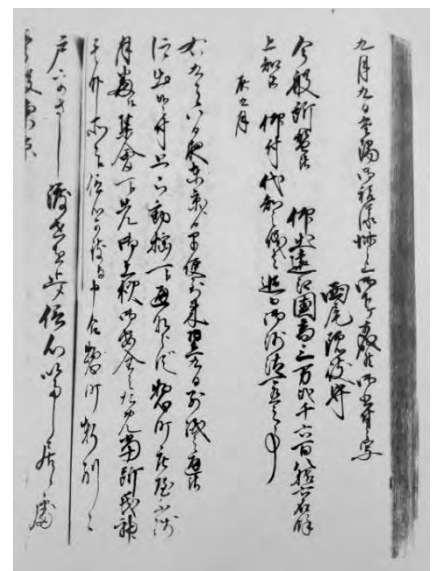


写真2 fog1-96 資料冒頭部分

最初に歎願書を差し出された戸田大和守は五辻公に願い出るよう庄屋16名に申し渡したが、五辻弾正大弼は弁事伝達所（太政官の事務局出張所）へ差し出せと言い、9月14日、横須賀城下に投宿していた能勢万吉弁事がようやく取り合って、歎願書を2部作成して沙汰を待つよう庄屋衆に指示した。ところが回答は「我々の今回役目は御道調べであって願出の受付は筋違いである。太政官へ歎願致すべし」であった。まさにたらい回しである。埒が明かないと見た在方町方側は、江戸（東京）へ5名、京都へ3名の惣代を派遣し、中央政府への直訴を試みた。この時の東京出張組には、後に実業家・政治家として全国的名声を博すことになる丸尾文六の氏名も見受けられる。

かかる東京・京都直訴は「此上之 御沙汰如何成行畢而」とあるように、両方面とも不首尾に終わったようである。同月、西尾隠岐守から「民が災害で難渋する中、朝廷より兵糧提供を仰せ付き、精一杯勤めたので勤王の面目も立ったと満足していたところ、上地所替が仰せ出され、当惑昏迷している。これまで永らく民の恵みを受けながら領主として何も報いてやれず、恥ずかしい次第である。今後どこへ所替となってもこの地の民のことは忘れない」との旨の御直書が領民に示された（55001-fog1-103）。そして明治2年2月29日未明、西尾隠岐守忠篤と横須賀藩士は所替先の安房花房藩（藩庁は現在の千葉

県鴨川市所在) に向かって出立した。横須賀町民一同、石津町の西方まで藩主一行を見送り、町方庄屋・用達には隠岐守から丁寧な別れの挨拶があったと伝えられている (55001-fog2-50)。

(文責 大林 元)

【参考文献】

大須賀町誌編纂委員会 (1980) . 『大須賀町誌』 . 大須賀町 . 静岡

静岡県歴史文化情報センター (2007) . 「資料紹介 『横須賀惣庄屋覚帳』 (掛川市教育委員会所蔵)」
『葵』 . 42 号, pp. 94-95.

清水記久 (2006) . 「遠州横須賀城下町の変遷過程と地域構造」『国士舘大学地理学報告』 . No.14, pp. 47-58.

以下、布達資料 55001-fog1-96 全文の翻刻文を掲載する。

(写真2相当部分)

九月九日重陽御祝儀済之上御下ケ相成候御書付之写 西尾隠岐守 今般所替被 仰出遠江國高三万式千六百八拾六石餘 上知被 仰付代知之儀者追而御沙汰可有之事 辰九月 右九月八日夜東京方早便到来翌九日別儀之通被 仰出候ニ付上下動揺一ト通那良、須惣町庄屋不殘 月番江集會一ト先御上様御安全之た免当所氏神 其外所々江信心可致与申合惣町軒別ニ 戸下のさし渡遣を止メ信心以多し居候處	今般東京 御親臨御道調与し而五辻殿戸田大和守様御両公 東海道御通りニ付御領分在町一同申合袋井宿ニ而 歎願可致与決評以多し在方惣代拾三人町方 惣代軍全町庄屋平六中本町庄屋利右衛門月番 拾六軒町庄屋仙之助右拾六人袋井御泊りへ 罷出左之歎願書差出申候 乍恐以書附御歎願奉申上候 ○八拾五ヶ村御城下侍足輕町外 拾貳町 西尾隠岐守領分遠江國西大洲村外村々一同 御歎願奉申上候者右隠岐守当國入領以來 式百年来代々不相替格別之御仁政ヲ請候處
領中水旱両災を請連々困窮之村在多又 凶年違作之致ニ相当之引米者勿論扶助筋 被成下難持村々江者累年米金拜借仕并ニ 手当被下漸取續キ候村々多分有之候其上 饑寒孤獨之者共江者勝手向キ困窮之中方 年々扶助筋被下杯右之村々相續罷在候ハ全領主 仁政之故与難有仕合ニ奉存候然ル處先般 王政御復古万民御仁恤之被為有御告布 御一新之御規則被 仰出候ニ付領主役場ニ 於以享も厚被申論無之此上難有	大御代与領中在町大小之者共小前々々ニ至迄 御所置奉 坪 戴候右御一新ニ付一藩中勤 王之赤心勸勵仕候趣就而者内外莫太之雜費 相嵩不下通弥増之困窮ニ被及候得共下方江 御仁恤之御趣意致し度志願ニ付其筋役人共 粉骨碎身罷在候得と母差贖ひ臨時入用相嵩 依之領分勝手方用達共江金調申付有之候間 お情差働身分不相應ニ他借借り入用弁仕候得共 中々以不行屆時々差出勝ニ候得共高割用金杯 申付 候而ハ最前被 仰出候御仁恤之 御趣意ニ萬一 悖り候様成行候而者難相濟被存候由ニ而用達 共江引續キ候身元百姓共江金索被申付依之
一同力及候限り出金仕候ニ付在町有心之者共方 夫々身分ニ應上金相願候節も隠岐守始メ 役人共方厚被存奇特段吳々被申論受納被致 候程之仕合ニ而前書之通撫育筋を請候上者 如何様ニ茂出情可致与申上候迄ニ茂無之候得共 素与り非力之者共ニ而力ニ及不申村々一同痛心 恐入之外無之候然ル處今般領主皆高上知被 仰付并ニ所替之義 御沙汰候段早々申達 有之領内之輩一同奉恐驚候併右御所替 御國是之 被 仰付候御儀者乍恐御所置ヲ以被 仰渡候御儀与奉恐候就而者彼是奉歎訴候而ハ 自然僭願仕候様ニ而弥々奉恐入候得共式百年来 引續キ至大之厚恩を請候ニ付親子之 愛情離絶同様ニ而一同流涕之外無之 無之就而者皆高上知御代知之儀者追而 可被 仰付段奉戴御沙汰候由左下者 一藩中之扶助ニも眼前差支候趣ニ付累々 借請候米金速ニ返上當分入用之差加ニ茂 不仕候而ハ數百年之恩澤自然忘却之筋ニ 相当り難相濟然共當節當日之夫食ニも 差支候者共ニ而手段才覚不行届与申等閑ニ 難相成差向村々一同進退爰ニ相極り退據之外 無之難済至極之場合ニ潜り候ニ付不得止事 不厭恐茂奉挺 御奥江御歎願奉申上候	

何卒格別之御仁恤を以前書之始末
被為訊聞召領主隱岐守横須賀城ニ永
住被 仰付被下置是迄之通領知被存
宛行被下置村々無事百姓相續ニ及
商事渡世仕候様抑揚之御極達被為遊
被下置度偏ニ奉願上候
右奉願上候通被 仰付被下置候様被下成
置候ハク廣太之 御仁恤領中
蒼生無此上茂御撫育筋与重々難有し
仕合ニ奉存候已上

慶應四辰年
九月

河原町組頭
与兵衛

〃庄屋
惣兵衛

十六軒町組頭
豊七

〃庄屋
仙之助

新屋町組頭
源吉

〃庄屋
儀右衛門

東本町組頭
平藏

大工町組頭
庄太夫

〃庄屋
又藏

彦兵衛

軍全町組頭
久八

〃庄屋
平六

東新町組頭
茂兵衛

〃庄屋
弥七

西新町組頭
龜吉

〃庄屋
清助

中本町組頭
源七

〃庄屋
易五郎

西本町組頭
才治郎

〃庄屋
利右衛門

東田町組頭
〃庄屋

西田町組頭
儀兵衛

〃庄屋
春吉

石津町組頭
平左衛門

外御領分八拾六ヶ村連印

右之願出戸田公へ差出候処五辻様江歎願可致様被 仰聞
則五辻様江罷出候処辨事傳達所江可差出段被 仰聞候ニ付
弁事傳達取附其届被登様能勢万吉様御当所
瓦屋御止宿ニ付十四日早朝推参右願面差出し歎願
申上候処早速御取上ケニ相成帳面式冊ニ相認可申様御沙汰
御座候ニ付不取敢帳面ニ相認メ惣代之者調印ニ而罷出候

然ル處御調所より被 仰候者今般我々儀者
御出輦 御東幸被 仰出右御道志良遍与し而
罷下り候儀ニ付願迄者尤之筋ニ聞取り候得共我々江取上ゲ
候而者筋違之儀ニ相成候ニ付此方共差圖ニ者無之候得共
大 政官江歎願可致様被仰聞候然共当御役所ニ於天
段
御取上ゲ不相成候而者取路相塞り候様被存何分歎ケ敷御憐察
被成下度再應哀訴以多し候得共御取上ゲ無之誠ニ不申及
一同引取り右詮義之上江戸京双方へ歎願可致段
決評以多し江戸表惣代高御所村戸田八郎右衛門池新田村
丸尾文六福田村彦太郎段村弥四郎西新町土屋喜衛門
京都江者山梨村孫兵衛来福村源之助中本町
易五郎罷越申候乍併此上之 御沙汰如何
成行畢而一同切齒痛心之到ニ御座候

新静岡県立中央図書館の整備状況について

渡辺 勝・木村雄二

1. 新館整備までのいきさつ

静岡県ではJR東静岡駅南口に、2027（令和9）年度の完成を目指し、新県立図書館の設計業務を進めている。現行の形となるまで紆余曲折あったため、その経緯について簡単に述べる。

現行館は1969（昭和44）年完工で、築50年を超える。施設の老朽化や書庫の狭隘化、現在の社会情勢にそぐわない施設構造などの諸問題が顕在化し、平成半ばごろから、新図書館の必要性について繰り返し議論が行われていたが、具体的な進捗はなかった。

一方、静岡県ではJR東静岡駅南口に保有している県有地に、文化複合施設を建設する計画がかねてよりあったが、2016（平成28）年に計画を具体化していく際に、図書館の一部機能を内包する方針となったことから、新館整備は大きく動き出すこととなった。

当初は、新館と既存館を併用する計画であったため、機能分担についての検討を進めていたところ、既存館の長期的な使用が難しいことが後に判明したことから、分館構想は修正され、複合施設内に全面移転整備する方針となった。

その後、県の文化複合施設の計画が白紙となったが、早期の図書館整備の必要性は認められたため、結果的に、東静岡駅前に新県立図書館を先行して単独整備することとなった。以降は教育委員会が主体となって整備計画や設計者公募を進めている。

2. 新県立図書館のコンセプト

現行館は開館当時の理念や立地状況から、いわゆる第二線図書館としての役割、および高度・専門的な直接サービスに比重を置いている。原則月1回の正規職員による県内全市町立中央館訪問事業や、1,000人規模の県図書館大会を毎年開催する

一方で、資料は調査・研究用資料を中心に受入しており、所蔵一般資料における9類の割合も1割強程度に留まっている。このような運営を行う中で、新館のコンセプトがどのように定まっていたのか経緯をまとめる。

当初、文化複合施設への分館設置を受けて策定した基本構想（案）では、現行館の理念を引き継いだ三つの柱「①県民の生涯学習・読書活動の拠点としての図書館、②“ふじのくに（静岡県）”のことなら何でもわかる図書館、③県内市町立図書館等を強力に支援する図書館」を目指すべき姿として取りまとめていた。その後、文化複合施設への全面移転が決定した際、駅前という立地状況や文化複合施設との連動、施設コンセプトを反映した四つめの柱「④県民が出会い交わり、新しい文化を育む図書館」の理念が加わり、基本構想が策定された。

この四つの柱のコンセプトは、概ね①②③が「現行館の理念の継続・拡充」、④が「立地・時代に合わせた新サービスの実施」であった。それぞれ新館の方針としては必要な理念であったが、一方で方向性に相違のある箇所もあったため、次の段階として基本計画を策定する際、これらの方針をサービスとしてどう取りまとめるかが課題となった。

この課題に対応すべく、さまざまな図書館・文化施設等の調査を重ねた結果、無理に一つに取りまとめるのではなく、分けて整理することとした。つまり、両者を統合した単一のコンセプトを策定するのではなく、①②③を「県民の知のインフラとしての図書館」機能、④を「未来につながる新しいタイプの図書館」機能として、サービスやエリアを分けて策定する方針とした。これにより理念の違うサービスであっても、それぞれの機能の中で深化することが可能となり、異なる方向性の

サービスを矛盾なくまとめることが可能となったのである。

その後、新館が単独整備となった後も、これらのコンセプトは継続することとなった。策定の経緯こそ文化複合施設の影響があったが、結果としては静岡らしい新県立図書館のコンセプトに収まったと考えている。

3. 新県立図書館のサービス

「県民の知のインフラとしての図書館」機能では、現行館の評価点である地域資料の積極的な収集、研究機能に特化したサービスと選書、子ども図書研究室の設置とそれによる児童資料の全点収集、市町立図書館支援への注力などを引き続き充実させている。さらに、現行館の課題である収蔵能力の確保や、利用者ニーズに応じた複数の閲覧環境の提供への対応、児童サービスの拡充や直接サービスの提供に伴う児童図書室の新たな設置などにより、現行館の専門的・第二線図書館的な機能の拡充を図っている。

「未来につながる新しいタイプの図書館」機能では、県民のサードプレイスとなり、また新たな文化の創造・発信の場となる“図書館の枠を超えた学び・交流し・創造する場”の理念を実現する「交流スペース」を新規に設置している（詳しくは後述する）。

また、これらの方針とは別に、設計プロポーザルの最中に新型コロナウイルスがまん延したことに伴い、DX（デジタルトランスフォーメーション）への対応も求められたため、AI技術を始めとする図書館DXへの対応も新館のコンセプトとして取り込んでいる。

4. 建築の特徴

従来、図書館建築では広い敷地に1層あたりにまとめた床面積を確保し、比較的低層建築を目指すことが望ましいとされている。一方、新館は敷地面積の制約があり、高層型の図書館となる見込みであるため、バリアフリーやユニバーサルデザインの視点、動線の確保などについて、設計者等と密に打ち合わせをしている。

また、新館は読書以外のさまざまな活動が行われるため、ともすれば図書館としての雰囲気・一体感が損なわれることにもなりかねない。そこで、中央に資料体として書庫を設置し、常に本の存在

が感じられる空間とした。これにより、図書館利用の新しい形を提示しつつ、場としての図書館空間を保てるよう配慮している。



▲資料体イメージ（基本設計時）

5. 新しいタイプの図書館機能について

新県立図書館において、交流機能を有した新機能として位置づけているのが「交流スペース」である。「交流スペース」では、駅前立地を踏まえた気軽に読書空間に立ち寄れる場を構築するとともに、デジタルも含めた各種情報に触れられる機能、居心地の良い飲食機能、知的活動をアウトプットする機能を備えた、今までにない新しい知的空間とする方針である。理念やコンセプトの大枠は固まりつつあるため、今後はソフトの在り方や具体的な什器備品などについて、設計者等と詰めていきたい。

また、従来機能と新機能はコンセプトの時点では分けて整理していたが、一方で両機能の区切りが明確だと、単館であるのに複合施設感が出てしまう。両機能をどう融合していくか、こちらもこれからの実装の中で検討を重ねていきたい。

6. おわりに

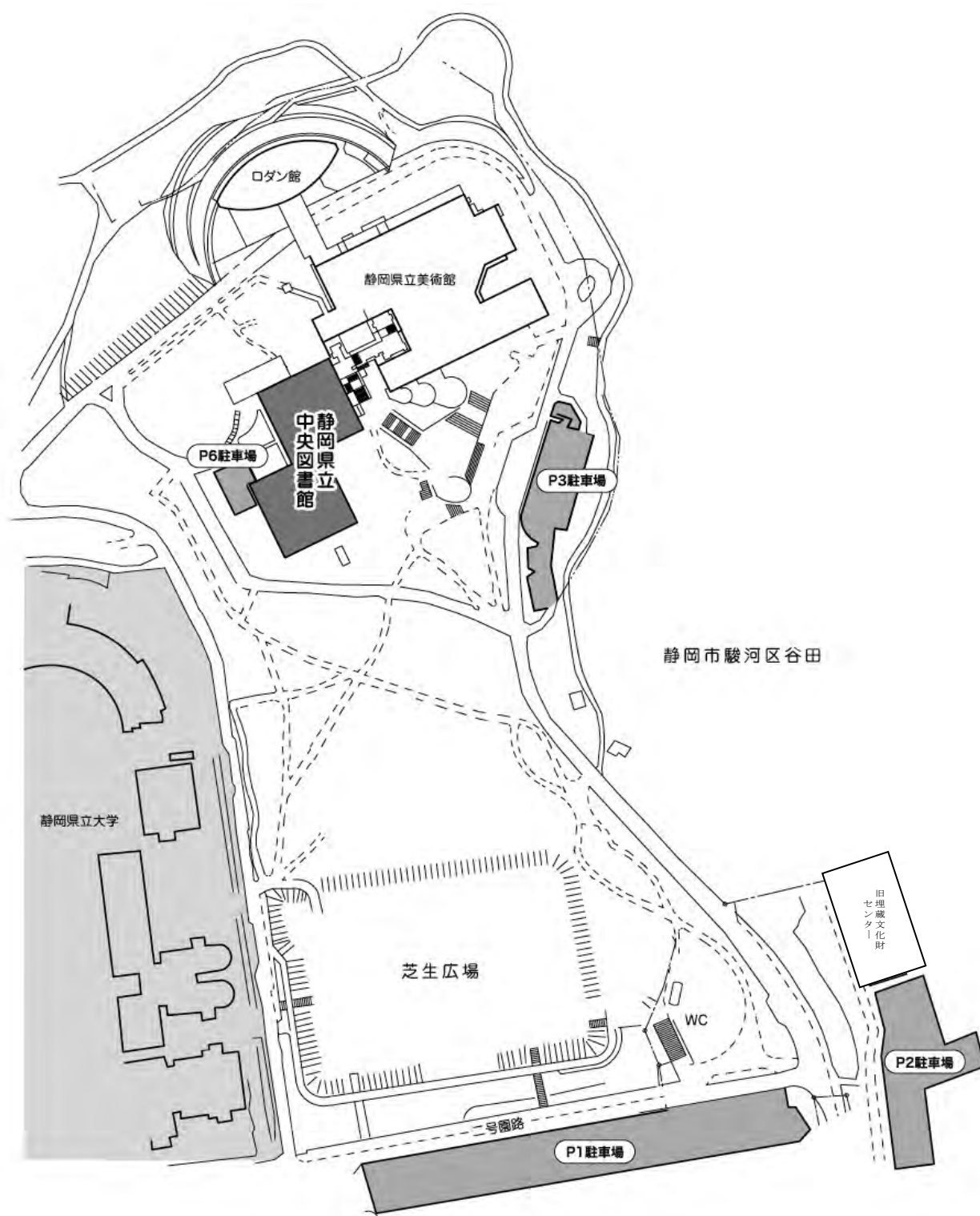
新県立図書館は2022（令和4）年度時点で基本設計を進めており、ようやくハード面が見えてきた。今後はサービスやシステム、人員体制などのソフト面を鋭意創り上げていくフェーズである。令和時代の県立図書館に求められる機能を検証するとともに、ウィズコロナ・アフターコロナ経験後の図書館の在り方についても考慮しながら整備を進めていきたい。

（わたなべ まさる、きむら ゆうじ：静岡県教育委員会）

[NDC10：016.2154 BSH：静岡県立中央図書館]

Ⅲ 施設及びサービス案内 (令和 5 年度)

1 図書館配置図



2 施設の概要

(1) 静岡県立中央図書館

- ・鉄筋コンクリート 地上3階 地下1階
- ・延面積 8,816.64 m²
- ・主な施設 閲覧室 (1,522.56 m² 188 席) 書庫 (延 2,515.56 m²) 子ども図書研究室 (92.00 m²)
事務室 (593.60 m²) 電算室 (96.00 m²)

.....

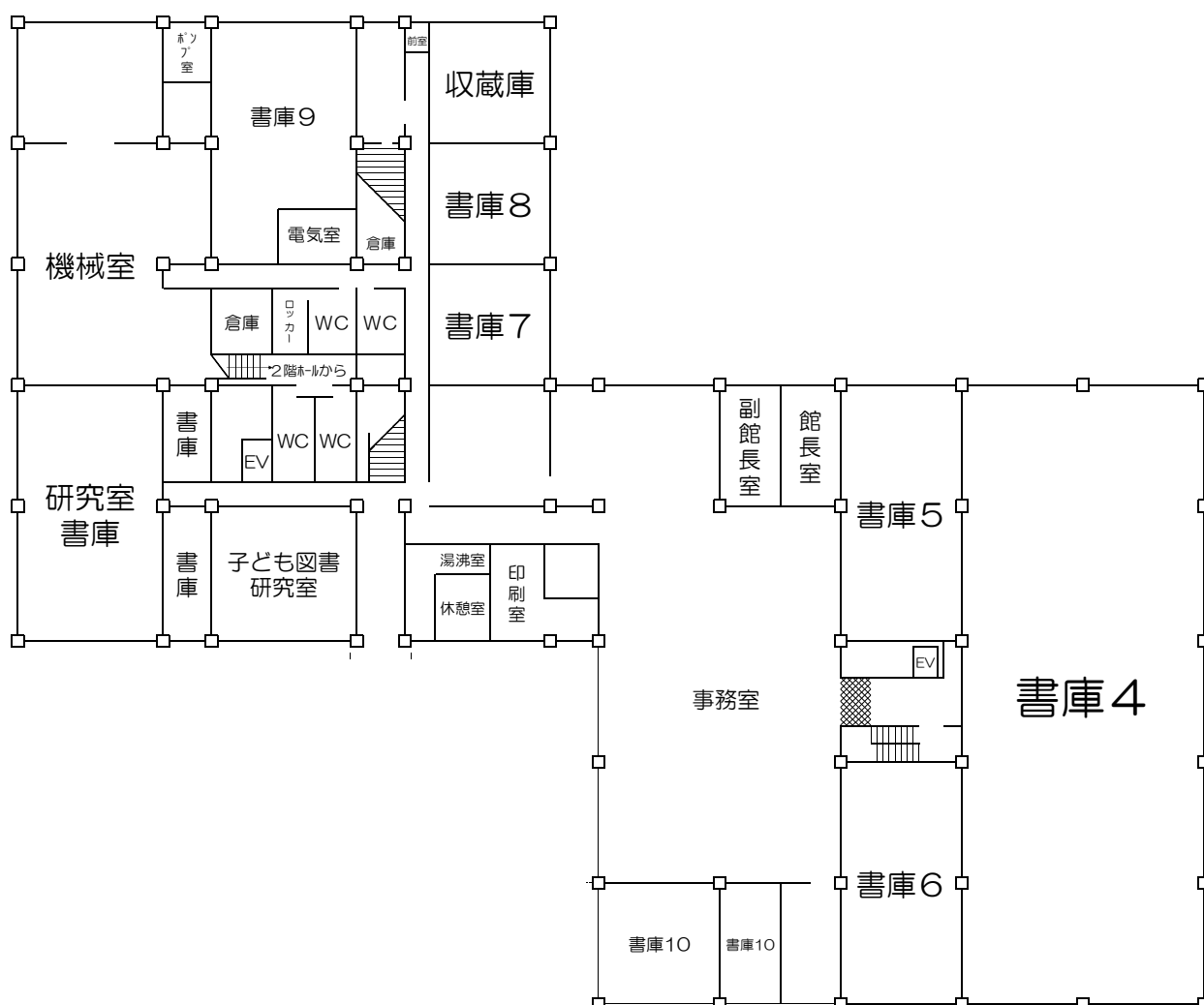
講堂 (276 人) 会議室 (120 人)

中集会室 (50 人) 小集会室A (30 人) 小集会室B (20 人)

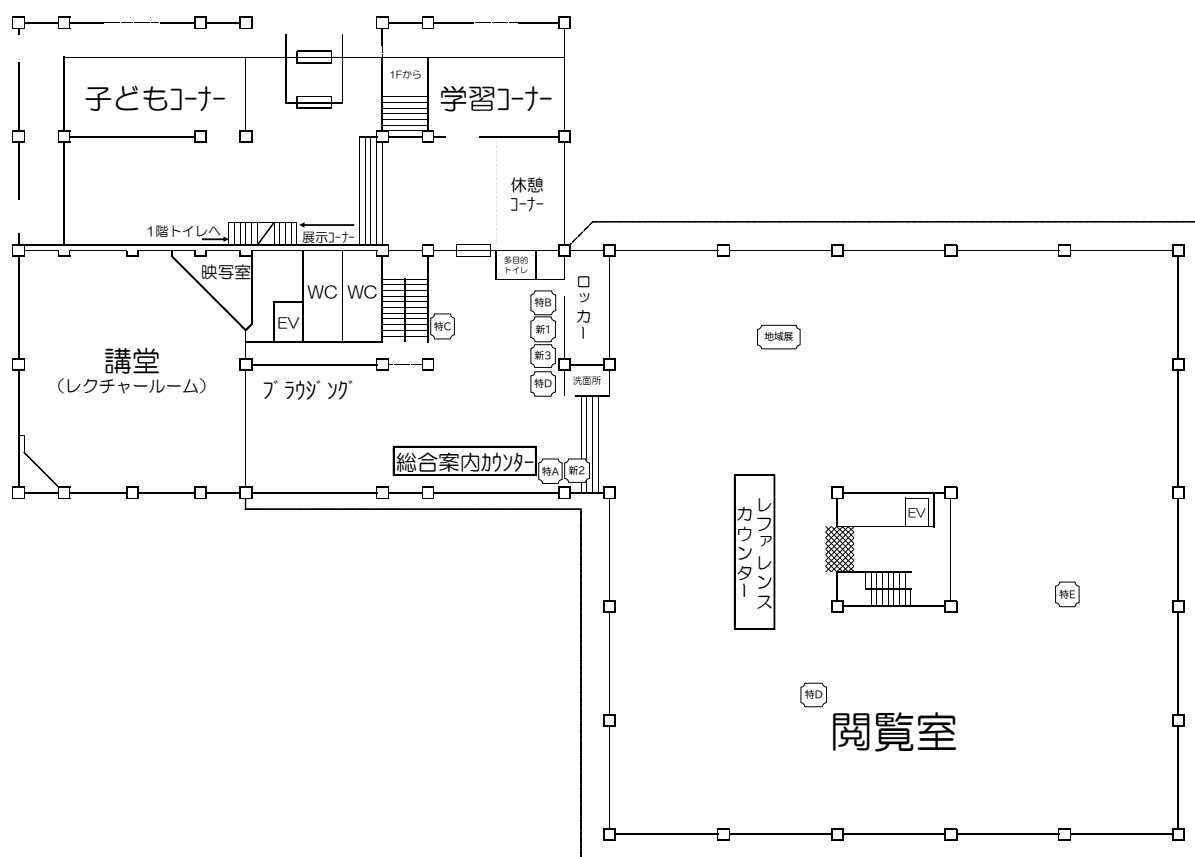
展示室 (延壁 90 m²)

- ・平面図 (以下のとおり)

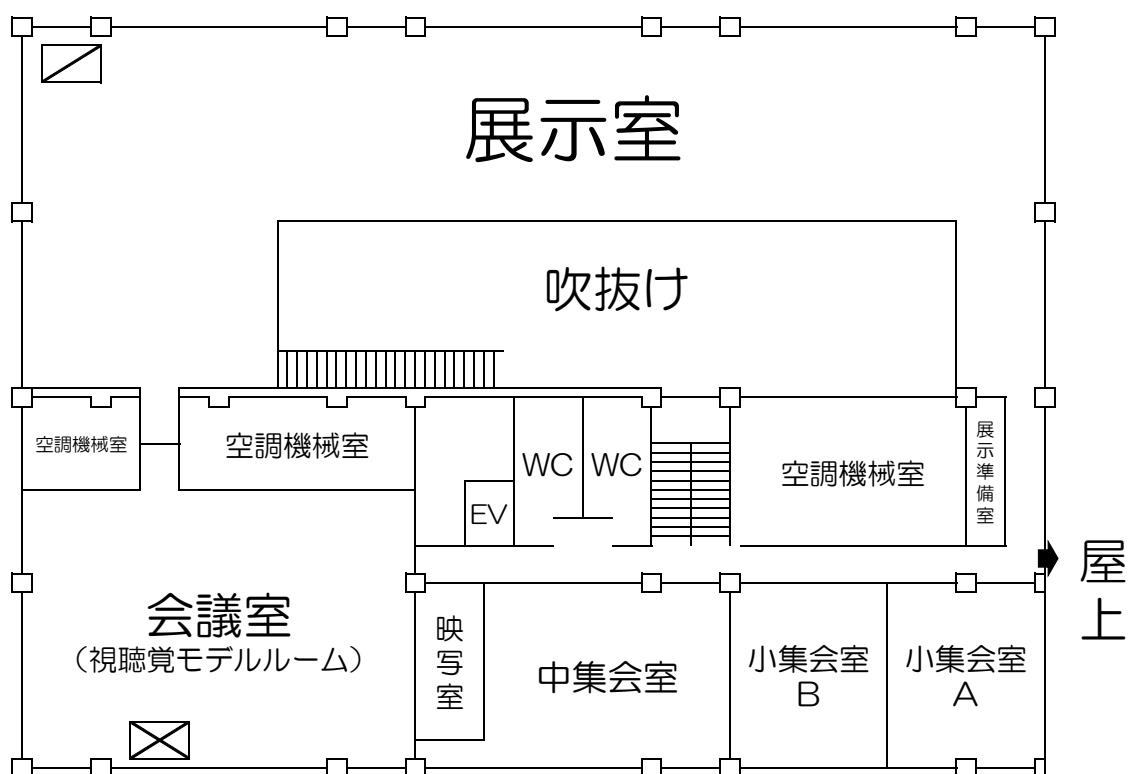
1 階

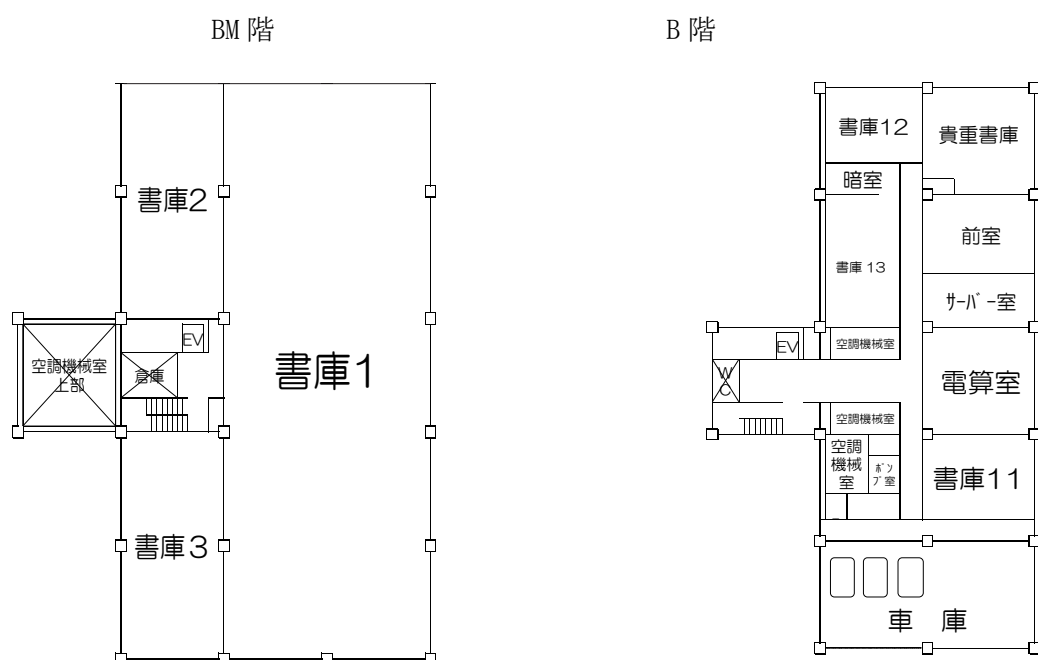


2階



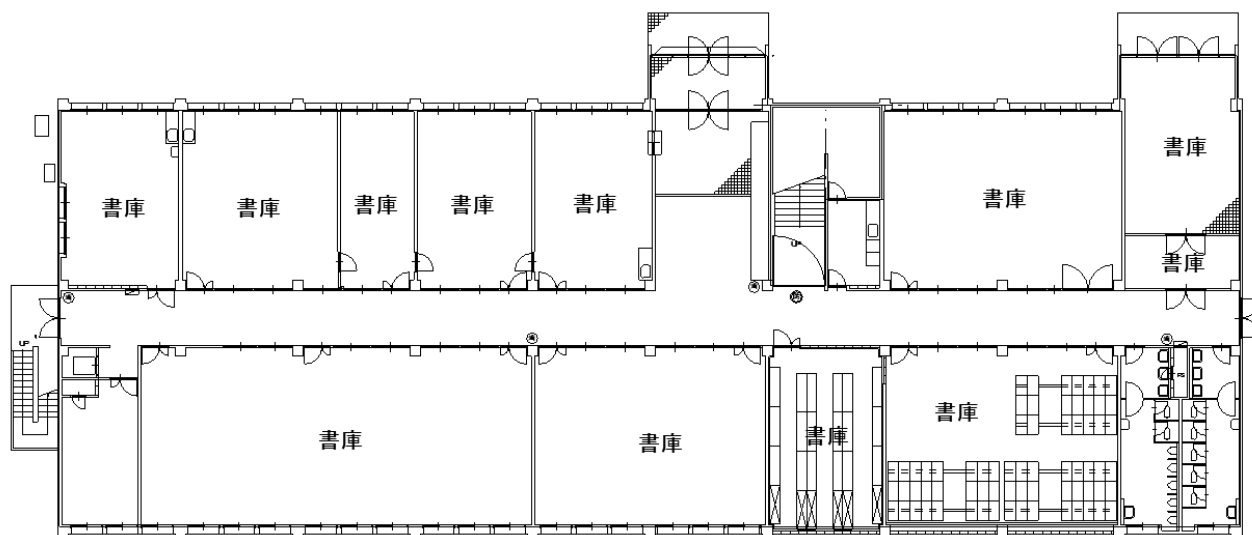
3階





(2) 旧埋蔵文化財センター

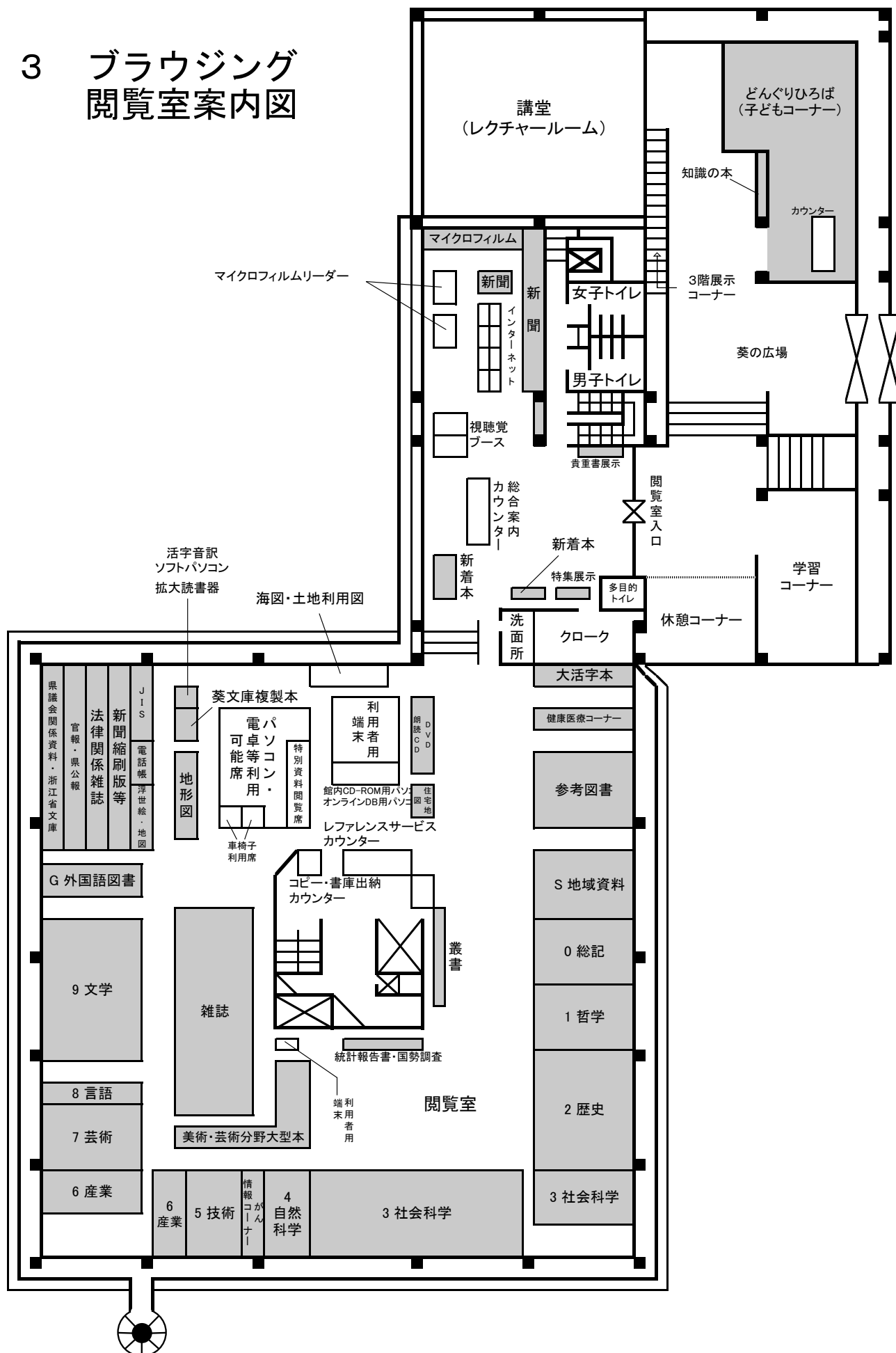
- ・鉄筋コンクリート 地上2階
- ・延面積 2,176.73 m²
- ・主な施設 1階部分を書庫として使用 (1,070.52 m²)



(3) その他建物

- ・自転車置場 107.10 m²
- ・旧埋蔵文化財センター機械室 154.68 m²
- ・ プレハブ棟 328.06 m²

3 ブラウジング 閲覧室案内図



4 利用案内（令和5年度）

＝静岡県立中央図書館＝

◆開館時間

午前9時～午後5時

（水、木、金曜日（祝日を除く）は午前9時～午後7時）

◆休館日

館内整理日（毎月の末日（平日）、第1・3・5月曜日（祝日の場合は翌日））

特別整理期間

年末年始（12月28日～1月3日）

県立中央図書館長が指定する日

◆資料

- 一般図書・外国語図書・地域資料・児童資料・電子書籍
 - 新聞・雑誌・マイクロフィルム
 - DVD・朗読CD等視聴覚資料
 - 特別取扱資料（葵文庫、久能文庫など）
- 原本の閲覧については事前に可否の確認と予約が必要
問合せ先 調査課一般調査班（TEL 054-262-1244）

◆閲覧・貸出・複写

- 閲覧室には約10万冊の資料が開架になっており、閲覧室は約200席
- 図書、雑誌、付録の貸出しは合わせて一人20点まで、22日以内
視聴覚資料の貸出しは一人3点まで、22日以内
初めての方は、住所等の確認できるものが必要（運転免許証等）
- 資料は著作権法などの許す範囲で複写可能

◆総務課（TEL 262-1242）

- 図書館運営に関すること。
- 図書館協議会に関すること。
- 予算、決算及び会計に関すること。
- 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- 施設等の管理及び運営に関すること。
- 財産及び物品の管理に関すること。
- 講堂、会議室の利用に関すること。

◆企画振興課（TEL 262-1246）

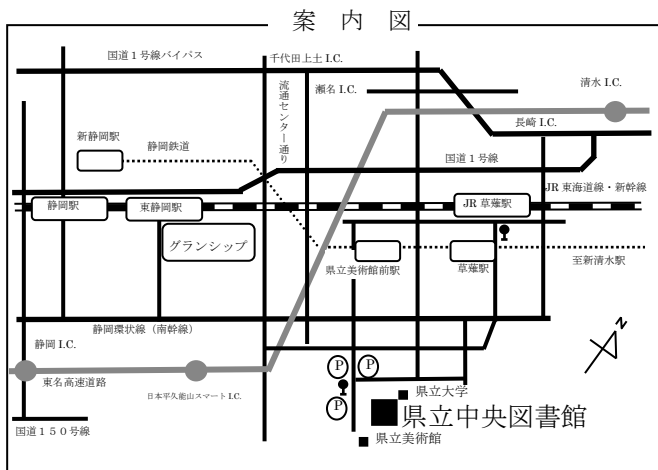
- 図書館業務の企画、調査及び広報に関すること。
- 図書館職員の研修に関すること。
- 図書館講座・展示会の開催に関すること。
- 公共図書館等運営の支援及び協力に関すること。
- 図書館DXの推進に関すること。
- 情報システムの管理、運用及び調整に関すること。
- 関係団体に関すること。
- 新館整備検討に関すること。

◆資料課（TEL 262-1243）

- 一般資料、外国語資料、児童資料、視聴覚資料、逐次刊行物の受入れ及び整理に関すること。
- 資料の相互貸借・協力貸出に関すること。
- 寄贈資料に関すること。
- 閲覧業務に関すること。
- 子どもコーナー「どんぐりひろば」、子ども図書研究室に関すること。
- 静岡県視聴覚ライブラリーの資料に関すること。

◆調査課（TEL 262-1244、1245）

- レファレンスに関すること。
- 特別取扱資料に関すること。
- 資料の掲載等に関すること。
- 地域資料の収集、整理、保存に関すること。
- 障害者サービス、健康医療情報サービスの統括に関すること。
- 歴史文化情報センターに関すること。
- 静岡駿河区教科書センターに関すること。



所在地 〒422-8002

静岡市駿河区谷田 53-1

TEL 054-262-1242(代)

FAX 054-264-4268

＝歴史文化情報センター＝

◆開館時間

午前 9 時～午後 5 時

◆休館日

土曜日

日曜日

国民の祝日

年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）

◆資料

- 静岡県史・静岡県史研究・静岡県史だよりなど
- 明治時代以降の県内発行の新聞
- 他府県史・他都道府県の市町村史
- 古文書、新聞等の複写及びマイクロフィルム

◆業務内容

- 県史編さんの収集資料の保存・整理・公開に関するこ
と。
- 刊行物及び県内の歴史・民俗等に関する問い合わせへ
の回答。
- 開架図書・資料の公開

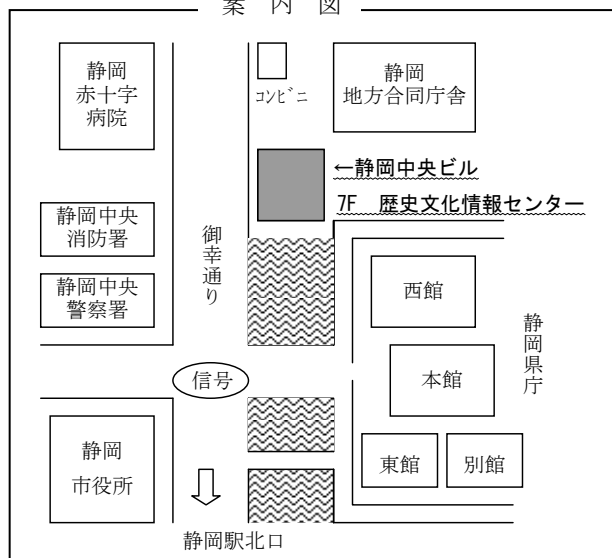
所在地 〒420-0853

静岡市葵区追手町 9-18（静岡中央ビル 7F）

TEL 054-221-8228

FAX 054-255-3988

案内図



表紙 『上村翁旧蔵浮世絵集（52）』

当館請求記号：K915-108-052-024
画題（題名）：元龜三年十二月味方ヶ原戦争之図
絵師（画工名）：孟齋画
版元：沢村清吉梓
出版年：明治7年10月（1874）
員数：3枚続
版型：大判
彩色：錦絵

〈上村翁旧蔵浮世絵について〉

当館が所蔵している約 5,000 枚にのぼる浮世絵は、山形県米沢市出身の上村順太郎氏が集めたもので、昭和 11（1936）年、嗣子五郎氏により寄贈されたものです。作者別に見ると、三代豊国の作品が最も多く、国周、芳年、周延、国芳と続き、幕末から明治の作品がほとんどです。ジャンルとしては、役者絵が圧倒的な数を占めます。（「葵」30号参照）

この表紙の錦絵は、元龜3年(1572)の三方ヶ原の戦いを描いたものです。左側に徳川家康を中心とした徳川軍、右側に武田信玄を中心とした武田軍を配しており、徳川軍の本多忠勝、榊原康政、鳥居元忠、渡辺守綱、内藤信成や、武田軍の山県昌豊、小山田信茂、真田信綱も見えます。

葵 57 号

令和5年6月1日発行

編集・発行 静岡県立中央図書館

〒 422-8002 静岡市駿河区谷田 53-1

電話 (054) 262-1242(代)

F A X (054) 264-4268

<https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/>

